

国立大学法人佐賀大学
教養教育運営機構

自己点検・評価報告書

平成19年9月

目 次

| | | |
|----|---------------------|----|
| 1 | 目的及び概要 | 1 |
| 2 | 教育研究組織 | 7 |
| 3 | 教員及び教育支援者 | 9 |
| 4 | 教育内容及び方法 | 13 |
| 5 | 教育の成果 | 19 |
| 6 | 学生支援等 | 32 |
| 7 | 施設・設備 | 36 |
| 8 | 教育の質の向上及び改善のためのシステム | 42 |
| 9 | 管理運営 | 47 |
| 10 | 社会貢献 | 61 |
| 11 | 地域との連携 | 66 |
| 12 | 部会活動 | 75 |
| 13 | 初年次教育の課題 | 87 |

資料編

| | | |
|---|-----------|-----|
| 1 | 教員アンケート調査 | 92 |
| 2 | 学生アンケート調査 | 108 |

1 教養教育運営機構の目的及び概要

1-1 教養教育運営機構の概要

1-1-1 佐賀大学の概要

- 1 機関名： 国立大学法人 佐賀大学
- 2 所在地： 佐賀市本庄町
- 3 学部・研究科構成
(学部) 5学部(文化教育学部、経済学部、医学部、理工学部、農学部)
(研究科) 5研究科(教育学研究科、経済学研究科、医学系研究科、工学系研究科、農学研究科)
- 4 学生数および教員数(平成19年5月1日)
学生数 6372名(学部学生の総数)
教員数 512名(教授、准教授、講師の総数)

1-1-2 教養教育の概要

教養教育運営機構(以下、「運営機構」と言う。)は、本学の教養教育実施機関として、本学の目的、使命に則り、全学の教員が担う教養教育を円滑に実施することを目的として組織されているものである。

運営機構に教養教育科目を円滑に実施するため、共通基礎教育科目と主題科目の区分ごとに、部会が置かれている。共通基礎教育科目の部会として、「外国語」「健康・スポーツ」「情報処理」の各部会、主題科目は、分野別主題科目の部会として、「文化と芸術」「思想と歴史」「現代社会の構造」「人間環境と健康」「数理と自然」「科学技術と生産」の各部会及び共通主題科目の部会として、「地域と文明」の部会という合計10部会が設置されている。全学の教員はいずれかの部会に登録して、所属している。(図1-1-2-1)

運営機構の管理運営に関する重要な事項を審議するために、「運営機構協議会」が設置されている。協議会は機構長、副機構長3名(ただし2名は協議会委員から選出)、各部長並びに各部会の幹事から選出された教員3名及び高等教育開発センターから選出された教員2名(平成17年度までは1名)の総計44名から構成されている。

運営機構協議会の下には、運営委員会、企画委員会、教務委員会、広報委員会、ファカルティ・ディベロップメント委員会及び評価委員会が組織されている。平成18年度からは、評価委員会が設置され、自己点検・評価及び認証評価等に対応することになった。

また、機構長のもとに、管理運営を補助するための組織として、LM委員会、CALL委員会、実験室運営委員会、eラーニング教育実施委員会（平成19年度にネット授業実施委員会を廃止）、リメディアル英語教育実施委員会、リメディアル物理教育委員会及び公開講座実施委員会が設けられている。

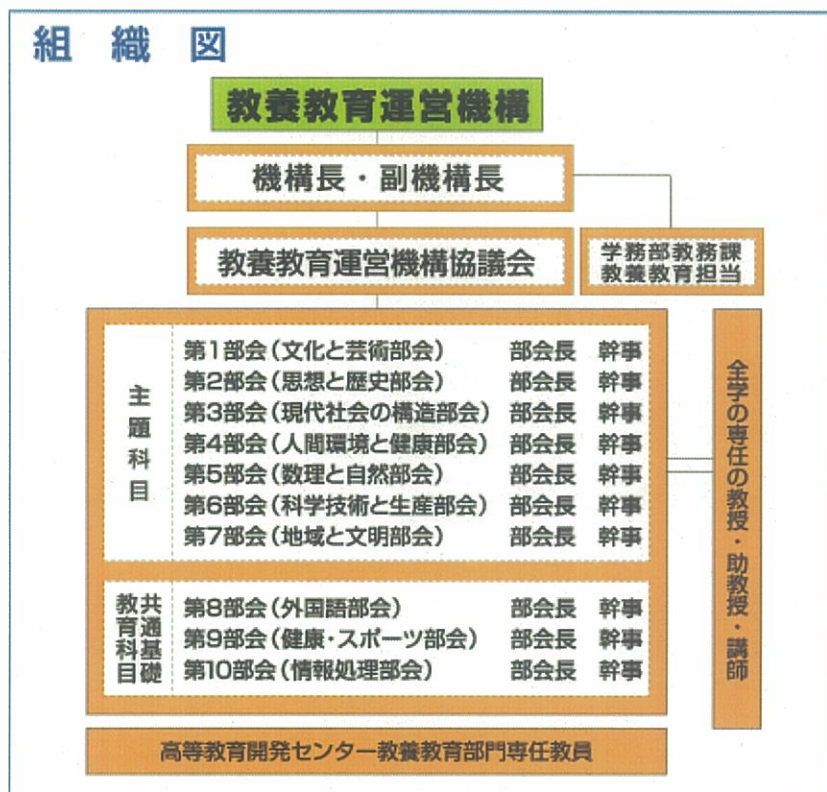


図1-1-2-1 教養教育運営機構の組織の概要

1-2 目的

1-2-1 基本的な方針及び達成目標

本学における教養教育の目的は、以下の通りである。

第一は、「大学は学部等の専攻に係わる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない」（大学設置基準第12条第2項）を満たす教育である。

第二は、「国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする教育」（佐賀大学学則第2条）である。

第三は、「教養教育運営機構は、本学の教養教育実施機関として、本学の目的、使命に則り、全学の教員が担う教養教育科目及び共通基礎教育科目を通して教授する教育」（教養教育運営機構規則第2条）である。

教養教育運営機構では、上記の諸点を念頭におきつつ、今後の教養教育の役割について検討し、下記のような目的を定めている。

目的1. 民主社会の市民としての幅広く深い教養及び創造的な知性と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教育

目的2. 地域社会、国際社会に開かれた大学として、異文化や多様な価値観を理解し、人や自然との共生を推し進めるための教育

目的3. 課題探求能力と情報の分析・発信能力をもった国際的人材を育成するための教育

また、平成18年3月に大学憲章を制定することにより、大学の教育研究活動の基本的方針を明確に定めた。その内容は、ホームページに掲載するとともに主要な施設等にも掲示している。

なお、平成19年度は、本学の中長期ビジョンの検討が行われており、教養教育についても見直しが行われている。

1-2-2 各分野ごとの目的

教養教育の科目は、大学入門科目、主題科目及び共通基礎教育科目に区分されている。主題科目は、いずれかの主題についてまとまった知識と課題発見・解決能力の修得を目指す科目群で、分野別主題科目と共通主題科目に区分され、前者は「文化と芸術」「思想と歴史」「現代社会の構造」「人間環境と健康」「数理と自然」「科学技術と生産」の6つ、後者は「地域と文明」の1つの主題分野から構成されている。共通基礎教育科目は、外国語、健康・スポーツ、情報処理の各科目に区分されている。

各科目及び分野の教育目的は、以下の通りである。

(1) 大学入門科目

新入生に対して少人数で行われるセミナーで、大学で学ぶ学問の意義やその方法、また、教員との人間的なふれあいを通じ、大学生活の諸問題について学ぶ。この科目については、

学部・学科等毎に授業が実施されている。

(2) 主題科目

主題科目は、いずれかの主題についてまとまった知識と課題発見・解決能力の修得を目指す科目群である。各主題分野の学修目的は、以下の通りである。

①文化と芸術

人間の表現能力とかかわる文化的活動の様々な姿を解明することを目的とする。人類の文化的所産を「語る、書く、作る、演ずる、歌う、描く」などの表現活動の面からみる。

②思想と歴史

世界各地の思想と歴史の特質を知り、これら各地域の異文化交渉の歴史を認識することを目的とする。過去の思想と歴史の理解から、未来への展望を開く。

③現代社会の構造

現代社会は、国内外を問わず、民族あるいは経済的利害の対立が強まり、混迷を増すばかりである。これらの原因を政治・経済の側面から考察していく。

④人間環境と健康

ここでは、対象を人そのものに置く。身体や心が変化する過程、教育の過程、これらの過程に及ぼす環境の役割などを論ずる。自己の生活、他人の生活と人格の尊重など、生きていく上で身につけねばならないものを論ずる。

⑤数理と自然

我々を取り巻く自然の中に生起する様々な現象の背後にある法則性と数理を解明する。自然の変化と歴史、複雑な現象の中にある原因と結果、その数理的構造などがどの様に認識されてきたのかを論ずる。

⑥科学技術と生産

現代のハイテク技術やバイオテクノロジーの発展、科学と技術の関係や発展の歴史、農業生産と環境問題等、これから社会に巣立つ学生にとって重要な情報を講義する。

⑦地域と文明

佐賀の歴史、文化、教育、地理、自然、科学、産業など地域に関わる身近な諸課題について、具体的に学び経験することを通して、問題発見力と問題解決力を養う。

(3) 外国語科目

外国語として英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語及び日本語（留学生向け）が開講されている。読む、書く、聞く、話すの4技能の向上を図りながら、国際社会で生きていく上で、異文化と出会い、異文化に対する偏見のない態度と世界に対する広く複眼的な視野を身につけることを目的としている。

(4) 健康・スポーツ科目

身体運動を通しての教育という独自の立場から、理論と実践の総合的な学習を通して、身体運動による健康への応用と生涯スポーツへの志向を目指している。

(5) 情報処理科目

情報化社会に対応できる能力や各種情報機器を使うための能力を養う科目である。情報に関する概念を学び、情報システムに慣れることを目的としている。

1-2-2 構成員への周知

教養教育運営機構ホームページ (<http://www.ofge.saga-u.ac.jp/>)、学生便覧及び教養教育履修の手引きなどで公表し、周知させている。周知の程度については調査していない。ただし、大学や学部目的については、学生アンケートによると、5段階評価で2前後となっており、学生はあまり認識していないようである。

1-2-3 社会への公表

教養教育運営機構ホームページ (<http://www.ofge.saga-u.ac.jp/>) によって、公表している。

1-3 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

大学としての目的を踏まえ、教養教育独自の目標ならびに教育分野ごとの目的を立てていること。

(改善を要する点)

教育目的が、学生に十分に理解されていない。

1-4 自己評価の概要

高等教育としての大学の目的を明示するとともに、教養教育独自の目的ならびに教育分野ごとの目的を立てて、各種方法において周知しているが、学生には十分に理解されているとは言い難い。

協議会をはじめ、各種委員会等が部会を基礎に組織されているため、学部との意思疎通が不十分であり、教養教育の目的や基本理念が十分に理解されていない面がある。

2 教育研究組織（実施体制）

2-1 部会の構成

部会は次の10部会から構成されている。

第1部会（文化と芸術）、第2部会（思想と歴史）、第3部会（現代社会の構造）、第4部会（人間環境と健康）、第5部会（物理と自然）、第6部会（科学と技術）、第7部会（地域と文明）、第8部会（外国語）、第9部会（健康・スポーツ）、第10部会（情報処理）

各部会は、それぞれの分野の教育目的を達成するために活動している。（資料「平成18年度部会活動報告書」）

平成18年度からは、各部会が部会所属教員を集めて教員会議を開催するために、協議会の開催日時を充てるようにした。そのため、協議会の開催回数は減ったが、教員全員で議論する時間を設けることができた。各部会での議論の結果は、協議会で報告されている。

2-2 教育活動に係る運営体制

2-2-1 協議会

教養教育運営機構に協議会を設置している。（教養教育運営機構運営規則第12条）

協議会は、運営機構長、副運営機構長、各部会長、各部会の幹事、高等教育開発センターから選出された委員により組織され、（1）教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関すること、（2）部会の構成及び改編等に関すること、（3）教養教育科目担当非常勤の任用に関すること等を審議する。

2-2-2 各種委員会

協議会は、教育活動に関わる委員会として、教務委員会およびファカルティ・ディベロップメント委員会（以下、「FD委員会」と言う。）を設定している。（教養教育運営機構運営規則第17条、教養教育運営機構運営規程第3条）

教務委員会は、各部会及び高等教育開発センター選出の委員により組織され、部会所属の決定、外国語能力試験の単位認定および入学前の既修得単位の認定等教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関することを審議している。教務委員会は、ほぼ毎月開催されている。（資料「教務委員会活動実績報告書」平成19年7月）

FD委員会は、教員の能力開発や授業改善の取り組みなどを行っている。平成18年度後期から、各教員から提出された授業改善計画の取りまとめを行い、授業改善の取り組みを始めた。(資料「ファカルティ・ディベロップメント委員会活動実績報告書」平成18年7月)

2-3 優れた点及び改善を要する点

教員はすべていずれかの部会に登録され、教養教育を担当している。ただ、部会の所属人数に大きな差があるので、開講数の調整により是正を行っているが、負担が不均衡になっている。

部会の教員会議を担当分野の教育に責任を持つ組織と位置付け、教養教育の在り方について教員間で議論を行う体制が整った。

2-4 自己評価の概要

全教員が所属する部会を中心として教養教育が適切に運営されている。

3 教員及び教育支援者

3-1 教員組織

教養教育を実施するための専任教員は配置されておらず、全学の教員が教養教育を実施することになっている。(ただし、留学生のための日本語教育についての専任教員、全学の英語教育についての英語を母国語とする専任教員が留学生センターに配置されている。)

3-1-1 部会編成のための基本方針

佐賀大学の基本的方針として、教授、準教授及び講師は、10部会のいずれかの部会に正会員として所属しなければならないことになっている。(助教については、現在は部会所属を求めている。)ただし、正会員として所属する部会以外に準会員として所属することもできる。

3-1-2 部会における教員の配置状況

教員数は以下の通りである。(平成18年4月26日現在)

- 第 1 部会 (正会員 28 人、準会員 12 人)
- 第 2 部会 (正会員 23 人、準会員 1 人)
- 第 3 部会 (正会員 48 人、準会員 0 人)
- 第 4 部会 (正会員 117 人、準会員 2 人)
- 第 5 部会 (正会員 77 人、準会員 3 人)
- 第 6 部会 (正会員 98 人、準会員 1 人)
- 第 7 部会 (正会員 12 人、準会員 8 人)
- 第 8 部会 (正会員 32 人、準会員 2 人)
- 第 9 部会 (正会員 25 人、準会員 1 人)
- 第 10 部会 (正会員 46 人、準会員 13 人)

分野によっては正会員が少なく、非常勤講師に対する依存の大きいところもある。

3-1-3 教員組織活性化のための措置

正会員の他準会員の所属を認め、教員が幅広く教養教育に寄与できるように配慮している。

教養教育運営機構には、専任教員がいないので、教員構成のバランスへの配慮等のために人事面で措置を講じる立場にはない。ただし、各学部においては、教養教育の担当を前提として教員人事が行われることになっている。また、特に必要がある場合は、学部の教員人事に対して機構長が意見を述べることもある。

留学生センターは、全学の英語教育担当教員として外国人教員5名を採用している。

優秀教員評価制度は導入していない。ファカルティ・ディベロップメント活動の一部として、優れた教育活動を行っている教員を顕彰する方法を議論したが、具体化するには至っていない。

3-2 非常勤講師選考基準

3-2-1 選考基準

非常勤講師の採用に当たっては、関係部会を中心に選考委員会を設置し、教育上の指導能力の評価に基づいて選考し、協議会で審議している。ただし、以下の条件を満たす場合には、手続きを簡素化している。

- (1) 国公立の4年制大学の教授、^准准教授及び講師として在職中の者
- (2) 国公立の4年制大学の教授、^准准教授（助教授）及び講師として経験を有し、現在も教育研究活動に従事している者
- (3) 本学の授業科目を担当した経験を有し、現在も教育研究活動に従事している者

3-2-2 教育活動の評価

非常勤講師採用後は、特に個別の教育活動の評価は行っていないが、各部会の活動の自己点検・評価の活動の中で、教育活動全般について評価を行っている。学生による授業評価アンケートについては、非常勤講師も含めて、原則として全ての授業科目で実施することになっている。

本学の専任教員については、各学部等において個人評価が行われており、教養教育も評価の対象となっている。

3-3 教育と関連する研究活動

本学の専任教員については、各学部等で研究活動を行っており、授業にも反映している。非常勤講師についても、採用の際に、研究実績も審査の対象にしている。

研究活動が授業に反映している例

授業科目名「日本文学の鑑賞(日本古典文学と文化)」

該当研究題目「平安時代の和歌」

反映例：平安時代の和歌についての研究を行っている。その結果の一つである和語「飛驒工」について、講義の中で資料を見せながら解説した。

授業科目名： 有明人の知恵と生活

該当研究題目： 有明海周辺地盤の研究成果

反映例： 最新の研究成果を概説

授業科目名： 佐賀の農業を考える

該当研究題目： 佐賀県の水田農業

反映例： 研究用写真等の授業への活用

授業科目名： 日本社会と女性の地位

該当研究題目： 日本中世史

反映例： 自著の「日本中世社会と流通構造」中の論文「中世後期の社会発展と女性の地位」の成果を講義で分かりやすく紹介した。

授業科目名： 現代社会と現代人

該当研究題目： 地域社会の活性化とNPOの役割

反映例： 研究資料を配布し、集団討論を行った。

3-4 教育支援及び教育補助

情報処理、実験科目について、助手及びティーチングアシスタント(TA)による教育

支援及び教育補助を行い、受講生の学習向上を図っている。eラーニング教育については、eラーニングスタジオの職員がサポートしている。

3-5 優れた点及び改善を要する点

教養教育の水準を落とさないように、教養教育担当科目教員の教育能力の維持・向上、及び受講生の教育支援・補助の体制を作り上げている。専任教員数が減少する中で、教養教育に十分なマンパワーを確保するための体制が必要である。

3-6 自己評価の概要

教員及び教育支援は、概ね適正に行われている。

4 教育内容及び方法

4-1 教育課程

教養教育は、学士課程の目的に沿うように編成されている。その内容及び水準については、何れの学部の学位に対しても適切なものとなっている。

4-1-1 授業科目の配置

教養教育と専門教育のバランスは各学部の教育目的に沿って定められている。

学部学科等毎の教養教育科目の必要単位数の卒業単位数に占める割合を、表4-1-1-1及び図4-1-1-1に示す。医学科の割合が低い、これは学科の特性によるものと考えられる。

| | 教養単位の割合(%) |
|----------------|------------|
| 文化教育学部(学校教育) | 26 |
| 文化教育学部(学校教育以外) | 27 |
| 経済学部 | 33 |
| 医学部(医学科) | 19 |
| 医学部(看護学科) | 25 |
| 理工学部(数理科学科) | 31 |
| 理工学部(物理科学科) | 31 |
| 理工学部(知能情報) | 29 |
| 理工学部(機能j物質) | 26 |
| 理工学部(機械システム) | 29 |
| 理工学部(電気電子) | 30 |
| 理工学部(都市工学科) | 30 |
| 農学部 | 29 |

表4-1-1-1 教養教育科目の単位数の割合

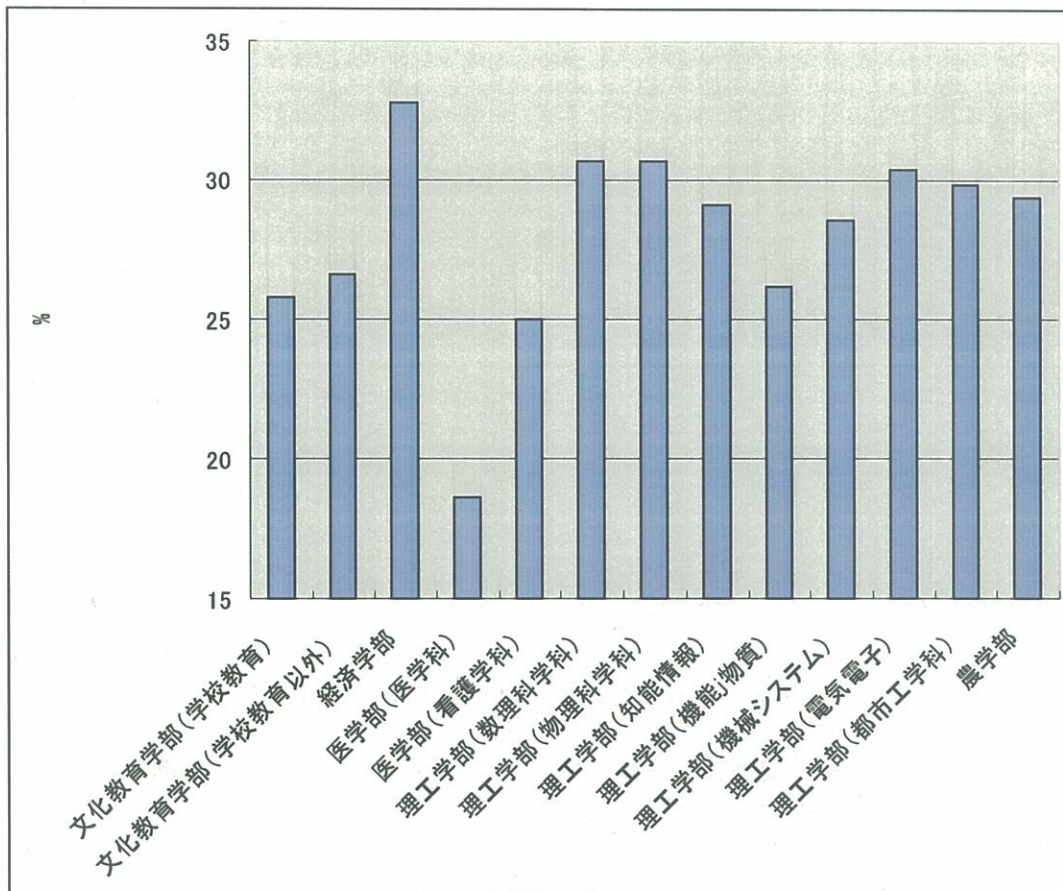


図4-1-1-1 教養教育科目の単位数の割合

また、外国語等の必修科目及び選択科目の範囲についても、各学部の教育目的に沿って定められている。全学に共通する選択科目として第1から第7までの主題科目が開設されている。

教育課程の体系性については、主題科目の中にコア科目を設け、学生の履修に一定の方向性を与えている。また、学修領域が拡散しすぎないように、分野登録制度を設け、登録した分野で8単位以上の主題科目を履修することを義務づけている。初修外国語（英語以外の外国語）については、教育の体系性が保たれるように工夫している。

4-1-2 授業内容

授業の内容は、部会及び担当教員の見識によって、教養教育の趣旨に沿ったものになっている。また、総合科目など、学際的な科目も積極的に開設されている。

共通基礎科目は、小クラス制により講義、実習形式で授業を行っている。

主題科目は、コア授業、個別授業及び総合型授業を行っている。コア授業は各部会でコ

アとなる授業、それ以外が個別授業、総合型授業は個別授業にとらわれずジョイント等により授業を行う。

「大学入門科目」は、小クラス授業で新入生のために大学案内、文献検索、物の見方等討論を採り入れながら、学部・学科等の単位で授業を行っている。

4 - 1 - 3 授業内容への研究活動成果の反映

担当教員は、所属学部等において、それぞれ専門の研究を行っており、教養教育科目の授業内容にも反映している。（「平成18年度教育活動等調査報告書」平成19年9月）

4 - 1 - 4 多様なニーズに対応した教育課程の編成

(1) 学内開放科目

学内開放科目の制度により、学部で開設されている専門科目の一部を他学部の学生に開放し、教養教育科目の幅を広げている。（平成18年度は50科目以上が開放されている。）

(2) 単位互換等

他大学で取得した単位、TOEICなどの資格試験、および海外語学研修などに単位認定を行っている。

(3) 補充教育

リメディアル教育については、実施委員会を設置し、平成18年度は物理について実施した。

(4) 編入学への配慮

編入学生については、入学前の単位を認定し、学修の負担を軽減する措置を講じている。

(5) 修士課程との連携

修士課程との連携は、特に行っていない。

(6) 社会の要請等への対応

佐賀学、有明海問題、環境問題等の地域・環境関連の授業科目を開講している。

4 - 1 - 5 単位の実質化

(1) 履修制限

主題科目は、主題科目開設要項により、開講する時間が指定されており、そのため週に6時間しか履修できない。(ただし、集中講義や学内開放科目を履修することができる。)このことによって、実質的に一学期当たりの履修単位が制限されている。

外国語科目などの必修科目は、クラスが学部学科等毎に指定されているので、必要以上に履修することはできない。

(2) その他の取り組み

自宅学習の促進など、これ以外の単位の実質化のための配慮は、各授業科目の担当教員の工夫に委ねられている。(現在、オンラインシラバスに予習や復習の課題を記載する方針が決まっており、自宅学習を促進している。)

4-2 授業形態、学習指導法

授業形態や学習指導法は、基本的に各授業科目の担当教員に任されており、特に組織としての対応はしていない。ただし、第9部会のように、部会内で議論し、部会の方針の下に教育改善を行っているところもある。

4-2-1 授業形態の組み合わせ・バランス

講義、演習、実験、実習などの授業形態が実施されているが、主題科目では講義の形態が主である。実験科目も一部開講されている。

少人数授業として開設されている主題科目はほとんどないが、一部で討論型の授業やフィールド型の授業が行われている。特にユニークな実践としては、他の国立大学法人(九州大学、福岡教育大学、琉球大学、長崎大学および佐賀大学)と共同で毎年実施している合宿共同授業がある。

また主題科目の一部は、ネット授業として開講されている。

4-2-2 シラバスの作成と活用

学生に対して、教養教育科目のシラバスをネットで配信すると同時に、それを編集した冊子を配布し、学生の教養教育科目の履修の手引きとなっている。

学生アンケートの結果を見ると、授業科目がシラバスに沿っているかどうかについては、主題科目、外国語、健康スポーツ、情報処理科目のいずれについても概ねシラバスに沿っていると判断できる。

4 - 2 - 3 自主学習、基礎学力不足の学生への組織的配慮

学生の自主学習については、機構としての組織的配慮は行っていないが、個人的に様々な取り組みが行われている。

基礎学力不足の学生に対しては、リメディアル教育の実施委員会を設置し、取り組んでいる。eラーニング実施委員会は、eラーニングスタジオと連携して、LMS等を利用したリメディアル教育の開発に取り組んでいるところである。

4 - 3 成績評価、単位認定、卒業認定

4 - 3 - 1 成績評価基準や卒業認定基準の組織的策定と学生への周知

成績判定は、平素の学修状況、出席状況、学修報告及び試験等によって行っている。さらに、成績評価基準は各授業科目のシラバスにおいて開示することになっている。

卒業認定基準については、各学部において規定し、入学時のガイダンスで指導している。

4 - 3 - 2 成績評価、単位認定、卒業認定の実施

シラバスに記載された成績評価基準および卒業認定基準に従って、成績評価および単位認定が適切に実施されている。成績評価については、GPAを導入している。(GPAの利用については、各学部に委ねられている。)

入学前の既修得単位の認定については、各部会で基準を定めて認定を行い、教務委員会で審議をしている。

4 - 3 - 3 成績評価等の正確性を担保するための措置

学生からの異議申し立て等については、規則を定めて運用している。それによれば、教員は模範解答等を作成し、学生の成績判定の異議に対して説明を行う。また、試験答案の3か月保存を義務付けている。

4 - 4 優れた点及び改善を要する点

教養教育機構組織として独自の活動を行うのではなく、各部会の教員はすべて各学部等に所属しているので、学部の枠を超えた教養教育の在り方について全学的な認識を深めていくことが課題である。

4 - 5 自己評価の概要

教養教育は、概ね適切に行われているが、実施体制については課題がある。

5 教育の成果

5-1 教育の成果

5-1-1 教育方針と教育成果の検証・評価システム

ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置し、学生による授業評価など、教育効果を点検することができる仕組みを導入している（ファカルティ・ディベロップメント委員会内規）。

5-1-2 学生の学力や実績から見た教育の成果

教養教育に関してはデータがない。

5-1-3 学生から見た教育の成果

卒業予定者の平成19年に行ったアンケートの結果では、どの分野でも、満足度が5段階評価で概ね3以上であり、平均的な成果があったと考えられる。（表5-1-3-1）健康スポーツ科目は、やや満足度が高い。学部により満足度の分布に相違がみられる。授業内容や水準が、学生のニーズや学力に適合しているか、調査する必要がある。

表5-1-3-1 学生の満足度

| | | 文化教育 学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
|------------|------------------|------------|------|------|------|
| 基礎教育科目 | 英語 | 3.13 | 3.53 | 3.04 | 3.12 |
| | 英語以外の外国語 | 3.46 | 3.66 | 3.28 | 3.47 |
| | 健康・スポーツ科目 | 4.00 | 4.06 | 3.86 | 4.04 |
| | 情報処理科目 | 3.18 | 3.75 | 3.48 | 3.47 |
| 大学入門科目 | | 3.59 | 3.72 | 3.31 | 3.41 |
| 主題科目 | 第1分野:文化と芸術 | 3.71 | 3.60 | 3.40 | 3.66 |
| | 第2分野:思想と歴史 | 3.54 | 3.38 | 3.31 | 3.64 |
| | 第3分野:現代社会と 構造 | 3.25 | 3.52 | 3.36 | 3.51 |
| | 第4分野:人間環境と 健康 | 3.57 | 3.71 | 3.57 | 3.91 |
| | 第5分野:数理と自然 | 3.29 | 3.36 | 3.51 | 3.81 |
| | 第6分野:科学技術と 生産 | 3.28 | 3.40 | 3.63 | 3.59 |
| | 第7分野:地域と文明 | 3.15 | 3.17 | 3.18 | 3.33 |
| 留学生対象の授業科目 | | 3.88 | 3.44 | 3.65 | 4.00 |

(注) 数値は平均値

5-1-4 卒業・修了後の実績から見た教育の成果

平成18年度末に卒業予定者を対象としたアンケートを実施した。(医学部は統合後の卒業生を出していないので、アンケート対象に含まれていない。) その結果を以下に示すが、概ね評価の平均は3を超えている。いくつか気がついた点を列挙する。

- (1) 英語よりも初修外国語の方が、評価が高い。
- (2) 健康・スポーツ科目は、他の教養教育科目より評価が高い。
- (3) 大学で身に付いたものとして教養教育に関連が深い項目(一般教養、分析し批判する能力)では3~3.5程度の平均的な結果が得られている。異文化理解やプレゼンテーション能力については、学部による開きが大きい。

B-03c 以下の授業について、あなた自身はどのくらい満足していますか。

英語

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 9 (7.1) | 4 (5.0) | 18 (6.2) | 6 (7.2) |
| 2. やや不満足 | 26 (20.5) | 7 (8.8) | 68 (23.4) | 21 (25.3) |
| 3. どちらともいえない | 40 (31.5) | 19 (23.8) | 99 (34.0) | 20 (24.1) |
| 4. やや満足 | 36 (28.3) | 37 (46.3) | 80 (27.5) | 27 (32.5) |
| 5. 満足 | 12 (9.4) | 9 (11.3) | 18 (6.2) | 8 (9.6) |
| 8. 受けていない | 2 (1.6) | 3 (3.8) | 2 (0.7) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 6 (2.1) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.13 (1.09) | 3.53 (1.00) | 3.04 (1.02) | 3.12 (1.13) |

英語以外の外国語

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 2 (1.6) | 4 (5.0) | 11 (3.8) | 4 (4.8) |
| 2. やや不満足 | 4 (3.1) | 6 (7.5) | 41 (14.1) | 13 (15.7) |
| 3. どちらともいえない | 16 (12.6) | 20 (25.0) | 78 (26.8) | 19 (22.9) |
| 4. やや満足 | 22 (17.3) | 32 (40.0) | 84 (28.9) | 28 (33.7) |
| 5. 満足 | 4 (3.1) | 17 (21.3) | 22 (7.6) | 15 (18.1) |
| 8. 受けていない | 77 (60.6) | 0 (0.0) | 52 (17.9) | 3 (3.6) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.46 (0.92) | 3.66 (1.06) | 3.28 (1.01) | 3.47 (1.13) |

健康・スポーツ科目

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 2 (1.6) | 0 (0.0) | 7 (2.4) | 0 (0.0) |
| 2. やや不満足 | 4 (3.1) | 4 (5.0) | 20 (6.9) | 2 (2.4) |
| 3. どちらともいえない | 23 (18.1) | 18 (22.5) | 48 (16.5) | 19 (22.9) |
| 4. やや満足 | 58 (45.7) | 26 (32.5) | 136 (46.7) | 30 (36.1) |
| 5. 満足 | 37 (29.1) | 31 (38.8) | 69 (23.7) | 26 (31.3) |
| 8. 受けていない | 1 (0.8) | 0 (0.0) | 8 (2.7) | 4 (4.8) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 2 (2.4) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 4.00 (0.87) | 4.06 (0.91) | 3.86 (0.96) | 4.04 (0.83) |

情報処理科目

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 7 (5.5) | 2 (2.5) | 8 (2.7) | 2 (2.4) |
| 2. やや不満足 | 22 (17.3) | 8 (10.0) | 34 (11.7) | 12 (14.5) |
| 3. どちらともいえない | 44 (34.6) | 19 (23.8) | 91 (31.3) | 24 (28.9) |
| 4. やや満足 | 40 (31.5) | 29 (36.3) | 115 (39.5) | 27 (32.5) |
| 5. 満足 | 9 (7.1) | 21 (26.3) | 35 (12.0) | 13 (15.7) |
| 8. 受けていない | 3 (2.4) | 0 (0.0) | 5 (1.7) | 4 (4.8) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.18 (1.00) | 3.75 (1.04) | 3.48 (0.95) | 3.47 (1.03) |

大学入門科目

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 3 (2.4) | 1 (1.3) | 11 (3.8) | 0 (0.0) |
| 2. やや不満足 | 6 (4.7) | 7 (8.8) | 25 (8.6) | 11 (13.3) |
| 3. どちらともいえない | 47 (37.0) | 24 (30.0) | 127 (43.6) | 33 (39.8) |
| 4. やや満足 | 37 (29.1) | 28 (35.0) | 72 (24.7) | 22 (26.5) |
| 5. 満足 | 21 (16.5) | 19 (23.8) | 29 (10.0) | 10 (12.0) |
| 8. 受けていない | 10 (7.9) | 0 (0.0) | 24 (8.2) | 6 (7.2) |
| DK,NA | 3 (2.4) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.59 (0.94) | 3.72 (0.97) | 3.31 (0.94) | 3.41 (0.90) |

主題科目(第1分野:文化と芸術)

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 4 (3.1) | 4 (5.0) | 5 (1.7) | 0 (0.0) |
| 2. やや不満足 | 6 (4.7) | 6 (7.5) | 22 (7.6) | 6 (7.2) |
| 3. どちらともいえない | 32 (25.2) | 16 (20.0) | 66 (22.7) | 15 (18.1) |
| 4. やや満足 | 34 (26.8) | 25 (31.3) | 52 (17.9) | 23 (27.7) |
| 5. 満足 | 26 (20.5) | 14 (17.5) | 24 (8.2) | 9 (10.8) |
| 8. 受けていない | 23 (18.1) | 12 (15.0) | 118 (40.5) | 29 (34.9) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 3 (3.8) | 4 (1.4) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.71 (1.04) | 3.60 (1.12) | 3.40 (0.98) | 3.66 (0.90) |

主題科目(第2分野:思想と歴史)

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 3 (2.4) | 4 (5.0) | 9 (3.1) | 1 (1.2) |
| 2. やや不満足 | 6 (4.7) | 6 (7.5) | 28 (9.6) | 6 (7.2) |
| 3. どちらともいえない | 40 (31.5) | 24 (30.0) | 88 (30.2) | 16 (19.3) |
| 4. やや満足 | 37 (29.1) | 22 (27.5) | 70 (24.1) | 26 (31.3) |
| 5. 満足 | 15 (11.8) | 8 (10.0) | 21 (7.2) | 10 (12.0) |
| 8. 受けていない | 24 (18.9) | 15 (18.8) | 72 (24.7) | 23 (27.7) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.54 (0.92) | 3.38 (1.03) | 3.31 (0.96) | 3.64 (0.94) |

主題科目(第3分野:現代社会と構造)

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 5 (3.9) | 2 (2.5) | 7 (2.4) | 1 (1.2) |
| 2. やや不満足 | 13 (10.2) | 6 (7.5) | 26 (8.9) | 5 (6.0) |
| 3. どちらともいえない | 49 (38.6) | 23 (28.8) | 97 (33.3) | 23 (27.7) |
| 4. やや満足 | 36 (28.3) | 26 (32.5) | 75 (25.8) | 17 (20.5) |
| 5. 満足 | 7 (5.5) | 9 (11.3) | 23 (7.9) | 9 (10.8) |
| 8. 受けていない | 14 (11.0) | 12 (15.0) | 60 (20.6) | 27 (32.5) |
| DK,NA | 3 (2.4) | 2 (2.5) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.25 (0.91) | 3.52 (0.95) | 3.36 (0.92) | 3.51 (0.94) |

主題科目(第4分野:人間環境と健康)

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 1 (0.8) | 3 (3.8) | 6 (2.1) | 0 (0.0) |
| 2. やや不満足 | 6 (4.7) | 3 (3.8) | 15 (5.2) | 4 (4.8) |
| 3. どちらともいえない | 27 (21.3) | 22 (27.5) | 80 (27.5) | 11 (13.3) |
| 4. やや満足 | 24 (18.9) | 29 (36.3) | 87 (29.9) | 28 (33.7) |
| 5. 満足 | 12 (9.4) | 16 (20.0) | 33 (11.3) | 14 (16.9) |
| 8. 受けていない | 55 (43.3) | 5 (6.3) | 67 (23.0) | 25 (30.1) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 2 (2.5) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.57 (0.93) | 3.71 (0.99) | 3.57 (0.92) | 3.91 (0.85) |

主題科目(第5分野:数理と自然)

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 7 (5.5) | 6 (7.5) | 9 (3.1) | 1 (1.2) |
| 2. やや不満足 | 16 (12.6) | 5 (6.3) | 23 (7.9) | 4 (4.8) |
| 3. どちらともいえない | 40 (31.5) | 17 (21.3) | 81 (27.8) | 14 (16.9) |
| 4. やや満足 | 39 (30.7) | 22 (27.5) | 102 (35.1) | 19 (22.9) |
| 5. 満足 | 12 (9.4) | 8 (10.0) | 32 (11.0) | 15 (18.1) |
| 8. 受けていない | 11 (8.7) | 21 (26.3) | 41 (14.1) | 29 (34.9) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.29 (1.04) | 3.36 (1.15) | 3.51 (0.96) | 3.81 (1.00) |

主題科目(第6分野:科学技術と生産)

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 5 (3.9) | 3 (3.8) | 7 (2.4) | 1 (1.2) |
| 2. やや不満足 | 16 (12.6) | 8 (10.0) | 17 (5.8) | 5 (6.0) |
| 3. どちらともいえない | 39 (30.7) | 19 (23.8) | 70 (24.1) | 15 (18.1) |
| 4. やや満足 | 36 (28.3) | 17 (21.3) | 93 (32.0) | 20 (24.1) |
| 5. 満足 | 10 (7.9) | 10 (12.5) | 40 (13.7) | 8 (9.6) |
| 8. 受けていない | 18 (14.2) | 22 (27.5) | 60 (20.6) | 33 (39.8) |
| DK,NA | 3 (2.4) | 1 (1.3) | 4 (1.4) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.28 (0.99) | 3.40 (1.10) | 3.63 (0.96) | 3.59 (0.96) |

主題科目(共通分野:地域と文明)

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 1 (0.8) | 2 (2.5) | 5 (1.7) | 0 (0.0) |
| 2. やや不満足 | 3 (2.4) | 2 (2.5) | 6 (2.1) | 4 (4.8) |
| 3. どちらともいえない | 22 (17.3) | 16 (20.0) | 42 (14.4) | 6 (7.2) |
| 4. やや満足 | 6 (4.7) | 7 (8.8) | 18 (6.2) | 6 (7.2) |
| 5. 満足 | 2 (1.6) | 2 (2.5) | 6 (2.1) | 2 (2.4) |
| 8. 受けていない | 90 (70.9) | 49 (61.3) | 211 (72.5) | 64 (77.1) |
| DK,NA | 3 (2.4) | 2 (2.5) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.15 (0.78) | 3.17 (0.93) | 3.18 (0.93) | 3.33 (0.97) |

留学生対象の授業科目

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 0 (0.0) | 1 (1.3) | 0 (0.0) | 0 (0.0) |
| 2. やや不満足 | 0 (0.0) | 10 (12.5) | 1 (0.3) | 0 (0.0) |
| 3. どちらともいえない | 2 (1.6) | 2 (2.5) | 9 (3.1) | 1 (1.2) |
| 4. やや満足 | 5 (3.9) | 3 (3.8) | 10 (3.4) | 2 (2.4) |
| 5. 満足 | 1 (0.8) | 16 (20.0) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 8. 受けていない | 116 (91.3) | 60 (75.0) | 258 (88.7) | 77 (92.8) |
| DK,NA | 3 (2.4) | 4 (5.0) | 10 (3.4) | 2 (2.4) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.88 (0.64) | 3.44 (0.89) | 3.65 (0.78) | 4.00 (0.82) |

佐賀大学の授業全般

| | 学部卒業予定者 | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. 不満足 | 3 (2.4) | 2 (2.5) | 6 (2.1) | 1 (1.2) |
| 2. やや不満足 | 14 (11.0) | 10 (12.5) | 30 (10.3) | 13 (15.7) |
| 3. どちらともいえない | 43 (33.9) | 25 (31.3) | 117 (40.2) | 21 (25.3) |
| 4. やや満足 | 61 (48.0) | 35 (43.8) | 117 (40.2) | 38 (45.8) |
| 5. 満足 | 3 (2.4) | 7 (8.8) | 14 (4.8) | 9 (10.8) |
| 8. 受けていない | 1 (0.8) | 0 (0.0) | 3 (1.0) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 4 (1.4) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.38 (0.81) | 3.44 (0.92) | 3.36 (0.82) | 3.50 (0.93) |

B-04 以下の知識や技能などを、あなた自身は大学教育（大学院教育）を通してどのくらい習得できたとお考えですか。

専門的な知識や技能

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 1 (0.8) | 7 (8.8) | 8 (2.7) | 2 (2.4) |
| 2. あまりできなかった | 11 (8.7) | 15 (18.8) | 41 (14.1) | 7 (8.4) |
| 3. どちらともいえない | 22 (17.3) | 21 (26.3) | 49 (16.8) | 18 (21.7) |
| 4. ややできた | 73 (57.5) | 34 (42.5) | 175 (60.1) | 52 (62.7) |
| 5. かなりできた | 18 (14.2) | 2 (2.5) | 15 (5.2) | 3 (3.6) |
| 8. 該当しない | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合 計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.77 (0.83) | 3.11 (1.04) | 3.51 (0.90) | 3.57 (0.80) |

就職に結びつく技能

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 19 (15.0) | 6 (7.5) | 19 (6.5) | 8 (9.6) |
| 2. あまりできなかった | 21 (16.5) | 21 (26.3) | 67 (23.0) | 21 (25.3) |
| 3. どちらともいえない | 38 (29.9) | 29 (36.3) | 99 (34.0) | 26 (31.3) |
| 4. ややできた | 37 (29.1) | 19 (23.8) | 82 (28.2) | 19 (22.9) |
| 5. かなりできた | 8 (6.3) | 2 (2.5) | 10 (3.4) | 7 (8.4) |
| 8. 該当しない | 2 (1.6) | 2 (2.5) | 11 (3.8) | 1 (1.2) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 3 (3.8) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合 計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 2.95 (1.17) | 2.87 (0.97) | 2.99 (0.98) | 2.95 (1.12) |

分析し批判する能力

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 5 (3.9) | 5 (6.3) | 6 (2.1) | 2 (2.4) |
| 2. あまりできなかった | 17 (13.4) | 11 (13.8) | 29 (10.0) | 12 (14.5) |
| 3. どちらともいえない | 37 (29.1) | 25 (31.3) | 106 (36.4) | 19 (22.9) |
| 4. ややできた | 56 (44.1) | 32 (40.0) | 130 (44.7) | 45 (54.2) |
| 5. かなりできた | 10 (7.9) | 5 (6.3) | 17 (5.8) | 4 (4.8) |
| 8. 該当しない | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 2 (2.5) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.39 (0.96) | 3.27 (1.00) | 3.43 (0.83) | 3.45 (0.89) |

社会に適応する能力

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 2 (1.6) | 3 (3.8) | 10 (3.4) | 1 (1.2) |
| 2. あまりできなかった | 11 (8.7) | 14 (17.5) | 29 (10.0) | 11 (13.3) |
| 3. どちらともいえない | 37 (29.1) | 21 (26.3) | 90 (30.9) | 13 (15.7) |
| 4. ややできた | 60 (47.2) | 33 (41.3) | 136 (46.7) | 51 (61.4) |
| 5. かなりできた | 15 (11.8) | 8 (10.0) | 21 (7.2) | 6 (7.2) |
| 8. 該当しない | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 2 (0.7) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.60 (0.87) | 3.37 (1.02) | 3.45 (0.90) | 3.61 (0.86) |

コミュニケーション能力

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 2 (1.6) | 3 (3.8) | 11 (3.8) | 2 (2.4) |
| 2. あまりできなかった | 13 (10.2) | 12 (15.0) | 27 (9.3) | 9 (10.8) |
| 3. どちらともいえない | 31 (24.4) | 21 (26.3) | 79 (27.1) | 14 (16.9) |
| 4. ややできた | 60 (47.2) | 33 (41.3) | 138 (47.4) | 48 (57.8) |
| 5. かなりできた | 19 (15.0) | 10 (12.5) | 30 (10.3) | 9 (10.8) |
| 8. 該当しない | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 3 (1.0) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.65 (0.92) | 3.44 (1.02) | 3.52 (0.94) | 3.65 (0.91) |

プレゼンテーション能力

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 13 (10.2) | 6 (7.5) | 11 (3.8) | 2 (2.4) |
| 2. あまりできなかった | 29 (22.8) | 15 (18.8) | 38 (13.1) | 10 (12.0) |
| 3. どちらともいえない | 36 (28.3) | 25 (31.3) | 97 (33.3) | 17 (20.5) |
| 4. ややできた | 39 (30.7) | 27 (33.8) | 123 (42.3) | 51 (61.4) |
| 5. かなりできた | 8 (6.3) | 6 (7.5) | 18 (6.2) | 2 (2.4) |
| 8. 該当しない | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (0.3) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.00 (1.11) | 3.15 (1.06) | 3.34 (0.92) | 3.50 (0.84) |

資料や報告書を作成する能力

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 2 (1.6) | 2 (2.5) | 13 (4.5) | 0 (0.0) |
| 2. あまりできなかった | 22 (17.3) | 12 (15.0) | 32 (11.0) | 11 (13.3) |
| 3. どちらともいえない | 33 (26.0) | 21 (26.3) | 62 (21.3) | 16 (19.3) |
| 4. ややできた | 56 (44.1) | 36 (45.0) | 159 (54.6) | 52 (62.7) |
| 5. かなりできた | 12 (9.4) | 8 (10.0) | 20 (6.9) | 3 (3.6) |
| 8. 該当しない | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 2 (0.7) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 2 (1.6) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.43 (0.95) | 3.46 (0.96) | 3.49 (0.94) | 3.57 (0.77) |

創造性

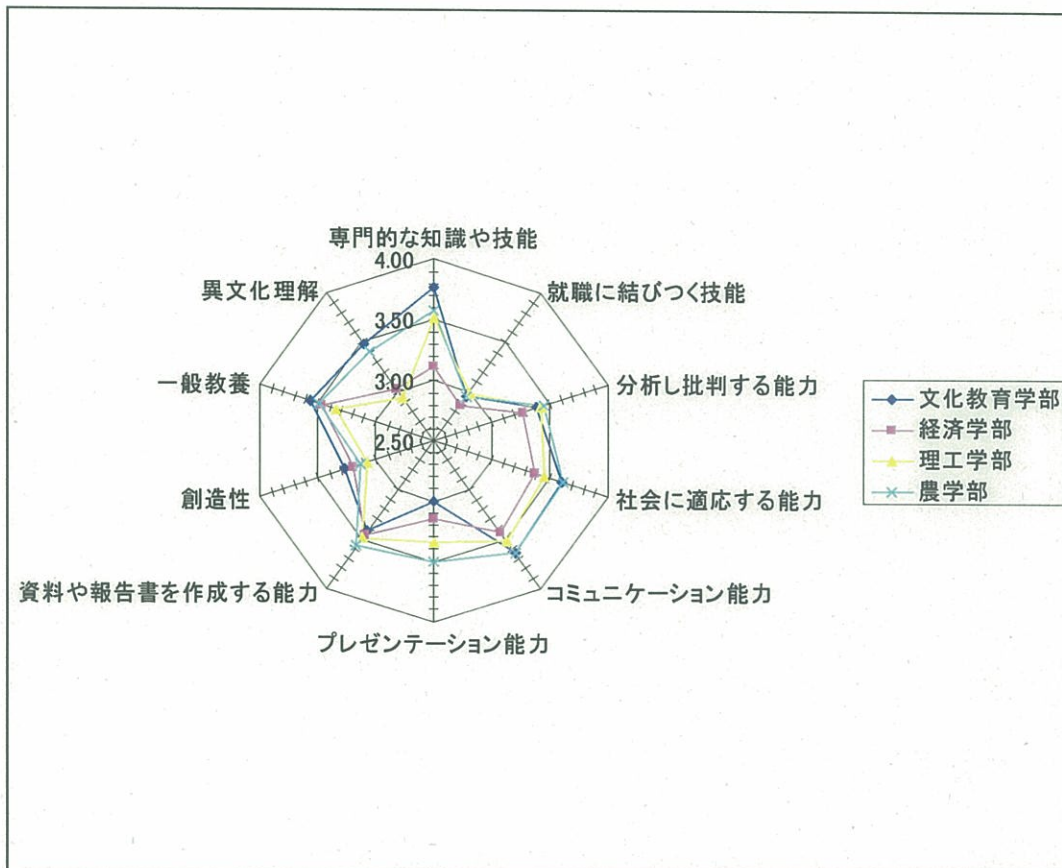
| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 5 (3.9) | 3 (3.8) | 13 (4.5) | 2 (2.4) |
| 2. あまりできなかった | 14 (11.0) | 13 (16.3) | 46 (15.8) | 13 (15.7) |
| 3. どちらともいえない | 60 (47.2) | 33 (41.3) | 142 (48.8) | 42 (50.6) |
| 4. ややできた | 31 (24.4) | 26 (32.5) | 77 (26.5) | 22 (26.5) |
| 5. かなりできた | 13 (10.2) | 4 (5.0) | 8 (2.7) | 3 (3.6) |
| 8. 該当しない | 1 (0.8) | 0 (0.0) | 2 (0.7) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 3 (2.4) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.27 (0.94) | 3.19 (0.91) | 3.07 (0.85) | 3.13 (0.81) |

一般教養

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 3 (2.4) | 3 (3.8) | 10 (3.4) | 0 (0.0) |
| 2. あまりできなかった | 7 (5.5) | 9 (11.3) | 32 (11.0) | 10 (12.0) |
| 3. どちらともいえない | 41 (32.3) | 23 (28.8) | 107 (36.8) | 27 (32.5) |
| 4. ややできた | 64 (50.4) | 37 (46.3) | 125 (43.0) | 40 (48.2) |
| 5. かなりできた | 9 (7.1) | 7 (8.8) | 13 (4.5) | 5 (6.0) |
| 8. 該当しない | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 1 (0.3) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 3 (2.4) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 1 (1.2) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.56 (0.81) | 3.46 (0.95) | 3.34 (0.87) | 3.49 (0.79) |

異文化理解

| | 学部卒業予定者 | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 文化教育学部 | 経済学部 | 理工学部 | 農学部 |
| 1. まったくできなかった | 7 (5.5) | 8 (10.0) | 25 (8.6) | 2 (2.4) |
| 2. あまりできなかった | 11 (8.7) | 14 (17.5) | 59 (20.3) | 14 (16.9) |
| 3. どちらともいえない | 39 (30.7) | 29 (36.3) | 106 (36.4) | 21 (25.3) |
| 4. ややできた | 45 (35.4) | 22 (27.5) | 73 (25.1) | 38 (45.8) |
| 5. かなりできた | 19 (15.0) | 5 (6.3) | 10 (3.4) | 6 (7.2) |
| 8. 該当しない | 3 (2.4) | 1 (1.3) | 15 (5.2) | 0 (0.0) |
| DK,NA | 3 (2.4) | 1 (1.3) | 3 (1.0) | 2 (2.4) |
| 合計 | 127 (100.0) | 80 (100.0) | 291 (100.0) | 83 (100.0) |
| 平均値 (SD) | 3.48 (1.05) | 3.03 (1.07) | 2.94 (1.00) | 3.40 (0.94) |



5-1-5 卒業生からの意見聴取

データなし。

5-2 優れた点及び改善を要する点

教養教育の成果を調査する取り組みを行っているが、改善に結びつける取り組みが不十分である。

5-3 自己評価の概要

学生の満足度は平均的である。

6 学生支援等

6-1 履修指導と学習支援

6-1-1 ガイダンス

入学時に、各学部のガイダンスにおいて教養教育についても説明している。

6-1-2 学習相談体制

シラバスに、オフィスアワーの時間等を開示し学習相談等を受付けている。

6-1-3 学生から見た学習支援

機構としては、特に学習支援に関する学生のニーズは把握していない。

6-1-4 留学生、社会人、障害のある学生に対する学習支援

留学生については、日本語科目を開設し、日本語科目を履修することで外国語の単位とするなどの配慮をしている。(教養教育科目履修細則別表1備考1(2))また、留学生のために日本語事情を開設している。(教養教育科目履修細則第9条)

障害者などについては、エレベータや多目的トイレの整備を全学的に進める一方、各講義に当たっては、各教員が個別に配慮している。

6-2 自主的学習と課外活動の支援

6-2-1 自主的学習環境の状況

外国語については、LL教室を開放し、自主学習の環境整備を行っている。それ以外については、特に機構として自主的学習のための環境は整備していない。

LL教室及びCALLシステムを整備している。また、学生(3年次)対象アンケートの結果を参照しても、教養教育の設備・機器等への満足度は約3.3、外国語教育の設備・機器等への満足度は約3.4となっている。(根拠資料:「学生対象アンケート報告書」平成18年9

月)

第8部会に関係する自主的学習環境は、平成16年度に設置されたLM自習室である。語学力アップをめざす学生に平日の9時から17時まで開放され、インターネットに接続できるコンピューターを8台設置し、英語(<e-sia>、TOEFL、TOEIC)の他諸外国語の学習ソフト、検定試験用参考資料を備えた学習環境を提供している。

6-2-2 学生のサークル活動、自治活動に対する支援

機構の教室等は、授業に支障が生じない限り、放課後のサークル活動等の利用のために開放している。

6-3 学生相談と生活支援

6-3-1 学生生活、進路、各種ハラスメントの相談体制

機構としては、学生生活・修学相談室を設けて対応している。さらに、新学期には、臨時に履修相談のための窓口を設置している。また、大学入門科目で、学習相談やキャリア教育など進路に関する教育なども行われることがある。

初修外国語については、受験合格者は入学前に選択しなければならないので、合格通知書類とともに、各外国語の特質等を説明した書類を送り、初修外国語選択の参考としている。また、外国語によっては、講義初日にその言語の特性や学習目的などについて解説し(朝鮮語の場合)、あるいは、事前に公開しているシラバスより詳細な授業内容をプリントにして配布し口頭で説明を加える(日本語の場合)など、より詳しいガイダンスを実施している。

平成18年度に教員による学外での暴行事件が発生した。その際、担当理事、機構長、教員が所属する学部の学部長、所属する部会の部会長等が対応策を協議している。暴行事件で逮捕された教員については、機構長及び部会長の判断で授業担当から除外するとともに、直ちにクラス編成を変更し、学生に不利益が発生しないように対応した。

6-3-2 留学生、社会人、障害のある学生に対する生活支援

留学生については、日本語科目を開設し、日本語科目を履修することで外国語の単位とするなどの配慮をしている。(教養教育科目履修細則別表1備考1(2))また、留学生のために日本語事情を開設している。(教養教育科目履修細則第9条)

留学生センター所属の日本語担当教員が、オフィスアワー等を利用して、留学生の修学

上の問題や日常生活の相談にあたり、支援を行っている。

留学生センター所属教員から、以下のような報告があった。

例1 2007年4月よりカンボジアに日本語教師として派遣される文化教育学部の学生2名に、事前準備の補助と日本語教育教材の説明を行った。

同じく留学生センター所属の下條の報告

例2 留学生から10件、日本人学生から11件の相談を受けこれに応じた。留学生、日本人とも、担当した講義の受講生から授業内容に関する積極的な質問があり、そのような学生にはより踏み込んだ説明を行った。日本人学生は、語学留学に関する相談が多く、来室面談以外に、Eメールによる情報提供やアドバイスも適宜行った。

障害者に対する支援

障害者が入学した場合、受講する科目の担当教員に知らせ、配慮を求めている。

社会人に対する支援

科目等履修生の受け入れを行っている。その際、履修を継続する場合は、入学料を免除することになっている。

6-3-3 学生から見た生活支援

機構としては、調査していない。

6-3-4 経済的援助

機構としては、特に取り組んでいない。

6-4 優れた点及び改善を要する点

機構としては取り組んでいない項目が多いが、学生はそれぞれ所属する学部で支援を受けている。教養教育の履修に関する支援については、機構として何ができるか検討の余地がある。

6-5 自己評価の概要

概ね妥当であるが、自主的学習のための施設や設備の整備に関しては課題が残る。

7 施設・設備

7-1 施設・設備の整備と活用

7-1-1 施設・設備の整備と活用の状況

(1) 講義室

講義は、主として教養教育1号館、2号館及び大講義室で行われている。教養教育1号館の講義室は総計19室、講義室建物面積は1717㎡、総収容人員数は1587人である。2号館の講義室は総計12室、講義室建物面積は1289㎡、総収容人員数は1298人である。大講義室は1室、建物面積は336㎡、収容人員は341人である。講義室の平均使用率は40%である。5～6室を除きすべて空調設備が整えられている。ほとんどの講義室にVHSビデオ、DVD、プロジェクタ等が整備されている。

LL教室は1室、建物面積は184㎡、収容人員は66人、パソコンは66台であり、使用率は52%である。LM教室は1室、建物面積は186㎡、収容人員は48人、パソコンは48台であり、使用率は36%である。

(2) 実験・実習室

実験室は化学・生物実験室1室と物理・地学実験室1室がある。化学・生物実験室の建物面積は231㎡で、使用率は学部の使用も含めて56%である。物理・地学実験室の建物面積は231㎡で、使用率は学部の使用も含めて40%である。

体育・スポーツ関係の施設としては、体育館、スポーツセンター、陸上競技場、野球場、テニスコートなどがある。健康スポーツ科目の授業及び課外活動における使用率は高い。

(3) 自学室など

LL及びLM教室以外に、パソコン8台をおいて学生の語学自学室を設置している。学生便覧に利用の方法など記述して、周知させている。

(4) 学生アンケートの結果

平成18年度に実施した学生アンケートによれば、施設・設備に関する満足度は3.26であり、学部の3.32と比べて大差はない。外国語については、3.36とやや高いが、これはLL教室などの設備の継続的な整備が評価されたものと思われる。それに対してスポーツ関係は2.71と低く、整備が遅れていることがわかる。実験室については、2.99と低い。教員

の負担の問題で実験関係の授業科目が十分に開設されていないが、講義科目であっても実験室を整備し活用することが必要である。

なお、必ずしも設備等の充実度が高いほど満足度も高いとは言えない。例えば、スポーツは、設備は不十分だが、授業満足度は比較的高い。これは、不十分な設備を工夫して利用し良い授業を行おうとする教員の熱意によるところが大きいと考えられる。(資料「平成18年度学生アンケート報告書」)

平成19年度に実施した同様のアンケートでは、全項目について改善の傾向が見られた。

なお、施設・設備等について、学生アンケート(平成18年実施「佐賀大学学生対象アンケート報告書」)によれば、以下のような評価が得られている。

教育施設, 設備, 機器等の充足度 (学生による評価)

「教養教育の設備・機器等は十分だと思いますか？」

この項目では教養教育に関連する施設の設備・機器等について尋ねたものである。全学的には十分だと思っている群の割合が30%近くに達しており、十分だと思っていない群は20%程度である。このことから本学の教養教育に関連する施設の設備・機器等は十分とは言えないまでも著しく劣っているというわけでもなさそうである。学部別に見てもすべての学部において十分だと思っている群の割合が20%以上になっている。医学部では「分からない・該当しない」の比率がやや多いが、これは本庄キャンパスの利用者が他の学部比べて相対的に少ない結果と判断される。

今回のアンケート結果では教養教育に関連する施設の設備・機器等について十分だと感じている学生が多いことが判明したが、今後も設備の充実に努力していく必要があると考えられる。

「外国語教育の設備・機器等は十分だと思いますか？」

全学的な回答では20%以上が外国語教育の設備・機器に関して十分だと回答している。平均値には有意な差が見いだせないものの、学部別に見ると文化教育学部と医学部でそれぞれ学部内の30%以上が肯定的回答を寄せている。逆に経済学部と農学部では肯定的意見は20%を下回っている。また、この項目では「分からない・該当しない」と回答した学生も多いが、これはLM教室を利用可能な学生数が少ないためと推測される。

全学的にはさらなる施設の充実が必要に感じられる。

「スポーツ関連の設備・機器等は十分だと思いますか？」

この項目では体育館やプールなどスポーツ関連設備の充実にについて尋ねたものである。全学的には十分だと思っている群は20%を下回っており、本学のスポーツ施設を学生が十

分だと思っていない傾向が如実に現れている。平均値では文化教育学部が最も低いが、農学部や経済学部でも十分だと思っている学生は10%程度である。

スポーツ関連の施設・設備についても今後の改善が必要と考えられる。

「実験室・実験器具等は十分だと思いますか？」

全学的な回答を見ると15%ほどの学生が十分だと思っている。しかしながら、「分からない・該当しない」と回答した学生の比率も極めて多く、未回収分に学部間の差があることを考慮してもなお学部毎に格差が出ているようである。文化教育学部や経済学部では「分からない・該当しない」と回答した数が学部全体の30%程度に達している。これは、これらの学部が文系であることから考えて当然の傾向といえる。ただし、文化教育学部は文系学部ではあるものの理系の科目も多く設定され、実験室の数も多い。医学部や理工学部では十分だと思っている群が20%を超えており、大学全体から見れば実験室・実験器具を学生が十分だと思っている割合が最も高い。

実験室・実験器具等については各学部の専門性によって、回答率が異なり一概に判断はできない。しかしながら、学生の理数離れを食い止めるためにも、これらの施設・設備についても早急な改善が必要であろう。

「演習室の施設・設備等は十分だと思いますか？」

全学的には20%弱の学生が十分だと思っている。その一方で15%ほどの学生が十分だと思っておらず、中間的な回答が多い。その中でも医学部では学部内の30%を超える学生が演習室の施設・設備を十分だと考えており、否定的意見は15%ほどである。文化教育学部や農学部では15%程度の学生は十分だと回答しているが、否定的な意見も多くさらなる改善が必要に思われる。

演習室についても学部の専門性によってばらつきが認められる。学部の特性を十分考慮した上で対処する必要があると判断される。

「パソコンの数量（総合情報基盤センター）に満足していますか？」

全学的な結果を見ると20%弱の学生が総合情報基盤センターのパソコン数に満足していると回答している。その一方で25%弱の学生はパソコン数に満足を示していない。学部別に見ると医学部で満足数が最も高く30%近くに及ぶ。文化教育学部と理工学部では20%近くが満足していると回答しているが、不満とする回答も30~40%ある。経済学部や農学部では15%前後が満足と回答しているものの、15~20%は満足していない。

この項目では総合情報基盤センターを多用する学生とそうでない学生によって回答が異なっている可能性がある。今後は利用者限定して再調査を行う必要があるかもしれない。

「パソコンの数量（図書館）に満足していますか？」

全学的に見ると 15%強の学生が満足であると回答している。その一方で、30%ほどの学生が不満を示している。学部別に見ても、すべての学部で肯定的意見は 20%弱にとどまっている。

図書館は全学的に利用される施設であり、多くの学生が訪れる場所でもある。そのため、パソコンを利用する学生も多く、数が足りない状況が推定される。各学部・学科に設置するパソコンとのバランスを考慮して整備する必要があるだろう。

「自習スペース（図書館）に満足していますか？」

図書館における自習スペースは学部・学科に設けられている自習スペースに比べてやや満足度が高い。全学的には 15%強が満足を示しており、不満とする学生は 30%弱である。文化教育学部の学生のうち 20%弱が満足していると回答し、学部・学科よりも図書館での自習スペースの満足度が高い。経済学部や農学部でも同様の傾向が認められる。医学部や理工学部では学部・学科の満足度とほぼ同じ結果が得られている。

図書館は全学的施設であり、利用する学生も多い。自習スペースを拡張することは容易にはできないが、学部・学科の自習スペースとのバランスを考慮して整備を進める必要が求められよう。

7-1-2 情報ネットワークの整備と活用の状況

各教室に学内ランのネットワークが配線されており、授業において利用されている。その活用状況の具体的な調査はなされていない。

7-1-3 施設・設備の運用方針と構成員への周知

佐賀大学としての施設等の有効利用にかかる指針は制定されている（国立大学法人佐賀大学における施設等の有効利用に関する指針：平成 17 年 2 月 14 日制定）。教養教育運営機構では教室等施設・設備の利用についての手続き方法あるいは語学の自学自習のための CALL 教室の利用等については、学生便覧に記述して周知させている。

教養教育関係の設備等についての学生の周知の程度については調べていないが、全学的な平均値は 2.68 と低い値にとどまっている。（資料「平成 18 年度学生アンケート報告書」）

7-2 図書、学術雑誌、視聴覚資料

教養教育関連の図書の整備については毎年一定額の図書購入費（視聴覚資料も含む）が

割り当てられており、整備が進められている。

7-3 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

優れた点としては、各教室において空調設備、視聴覚機器など整備が計画的に進められ、教育環境の整備が図られていることである。また、学内外に対しても教室等の利用の便宜を図っており、施設・設備の有効利用に努めている。学生の評価も上昇の傾向が見られる。

(図7-1)

(改善を要する点)

改善を要する点としては、自学自習室の拡充と運用方針等の制定と利用のための周知方法を徹底させることである。

7-4 自己評価の概要

図書や視聴覚資料及び語学を中心とした自学自習室の整備を進めており、その取り組みは優れているといえる。

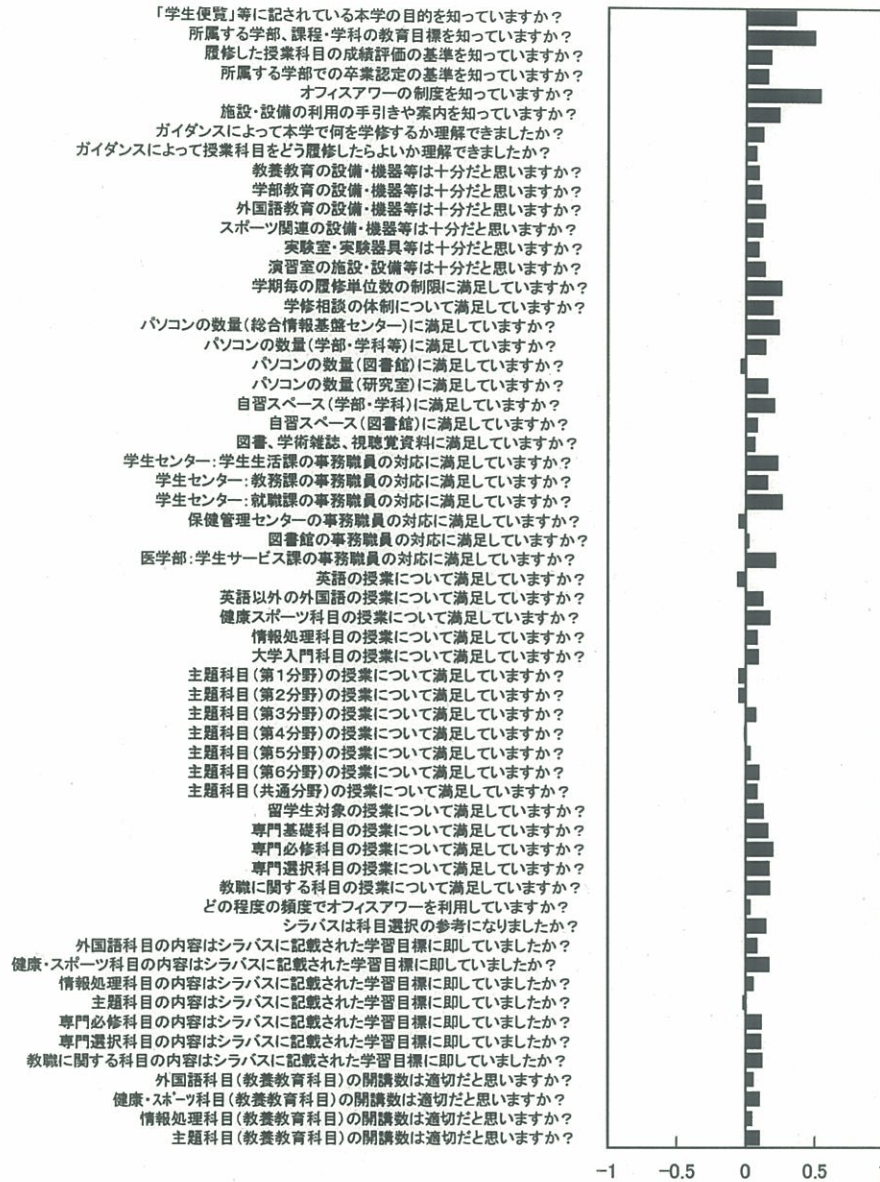


図7-1 学生アンケート 昨年度との比較

8 教育の質の向上及び改善のためのシステム

8-1 教育の点検・評価システム

8-1-1 教育活動の実態把握状況

各部会、及び各種委員会は、活動の実態を示すデータや資料を収集し、活動実績報告書を提出が義務づけられている。(提出が遅れている部会もある。)

大学入門科目については、担当する部会が存在しないため、機構としては、オンラインシラバス等の間接的な情報のみで実態把握を行っているのが現状である。今後は、各学部の教務担当者により密接な情報交換を行い、実態把握を徹底する必要がある。

8-1-2 学生からの意見聴取システム

(1) 学生による授業評価

平成18年度後期開講科目より、ほとんどの授業科目で学生による授業評価が実施され、その結果を基に、FD担当副機構長及び機構FD委員会を中心に、組織的な分析・評価する仕組みの整備を進めているが、分析・評価に授業評価アンケートの生データを利用することへの抵抗を持つ教員が少なくないため、十分な分析・評価が行えていないのが現状である。

(2) 満足度評価

平成18年度に学生対象のアンケートを実施した。(資料「学生対象アンケート報告書」平成18年9月)

(3) 学習環境評価等

平成18年度に学生対象のアンケートを実施した。(資料「学生対象アンケート報告書」平成18年9月)

8-1-3 学外関係者からの意見聴取システム

学外関係者からの意見を聴取するための機構独自のシステムは持っていないが、過去に外部評価を実施しており、また法人評価の際に、教養教育についても評価を受けている。

平成18年度は、学外者による自己点検・評価の妥当性の検証を行った。

(根拠資料：「教養教育運営機構の自己点検評価に関する学外者検証報告書」平成18年12月)

8-1-4 教育の点検・評価を教育改善に活用するシステム

教務委員会は、評価結果を教育の質の向上、改善に結び付けるための議論を行っている。また、大学教育委員会でも、学部の意見を聴きながら、教養教育の改善のための議論が活発に行われている。(資料「教育活動等調査報告書」平成19年9月)

また、後学期開講科目より、各授業科目・教員毎に、授業評価・改善報告書の提出を義務づけたことにより、点検・評価を教育改善に活用する仕組みが完備した。

(平成19年度に医学部から教養教育に関する問題提起があったことにより、運営委員会に医学部の教務委員と教育問題を担当する学長補佐にも出席を求め、教養教育の改善について協議することになった。今後、学部とも連携しながら、教養教育の課題に取り組んでいく予定である。)

8-1-5 教員個人の教育改善

学生による授業評価アンケートの集計結果は、担当教員に報告されるので、それを参考に授業改善の努力が行われている。特に、後学期開講科目より、各授業科目・教員毎に、授業評価・改善報告書の提出を義務づけた。この授業評価・改善報告書は、オンライン上で学内公開され、学生自身が確認できるようになっており、講義計画(オンラインシラバス)→講義実施→学生による授業評価結果→教員本人による授業点検→教員本人による授業改善という仕組みが完備した。

今後の課題としては、現在講義を行った教員本人に委ねられている点検・評価を、部会教員会議等で実施し、教員相互で改善提案をしあえるような、より客観的な仕組みの整備が挙げられる。

個々の教員の授業改善の取り組みの例

第5部会

授業点検評価報告書に書かれなかったもので、活動報告に現れた各教員の取り組みを列挙する。

- * 質問に来た学生には、オフィスアワーに限らず随時対応している。
- * 毎回小テストを行なう。出席のチェックと理解度の把握のため。
- * 小試験問題、演習問題、レポート問題を併せて100題ほど出題し、その正解例をコピーして配布した。その結果、学生の計算力の向上が見られた。

- * 質問カードと電子メールによる質問の受付。
- * 講義ノートを作成し、web で公開した。またそのノートには自習に役立つよう演習問題を多数収録した。
- * わかる講義を目指す。
- * 学生の質問に丁寧に答える。
- * 演習課題提示、レポート提出、評価結果提示の Web ページを作成し、毎週更新。レポートを毎週チェックし、次週に注意点を提示。
- * 過去 14 年間の全定期試験の問題、解答用紙、解答例を保存している。
- * 治水施設の見学などの実習を取り入れる。
- * 板書の改善を中心課題とする。

第 8 部会

「話が速すぎて聞き取れないとの意見があったので、ゆっくり話すように努めている」、
 「学生が授業に集中できるよう配布資料を増やし、板書を減らした」、「英語の筆記体が読めない学生が増えたので、板書を活字体に改めた」「パワーポイントなどを使って視覚的に把握しやすい講義資料を作成した」など、さまざまな工夫・改善に取り組んでいる。

8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修

8-2-1 ファカルティ・ディベロップメントの実施状況

以下の活動を行った。(資料「ファカルティ・ディベロップメント委員会活動実績報告書」平成 19 年 9 月)

平成 18 年度

- ①教養教育運営機構ファカルティ・ディベロップメント講演会
- ②ティーチング・アシスタント活動報告書の作成
- ③学生による授業評価アンケートの実施
- ④学生による授業評価アンケート結果に基づく分析
- ⑤後学期授業評価・改善報告書の作成

ファカルティ・ディベロップメントに関する教員のニーズについては、ファカルティ・ディベロップメント委員会で把握するように努めている。大学教育委員会および同 FD 専門

委員会の決議に従い、平成18年度後学期より、TA 実施報告書の提出を義務づけ、TA の制度が、受講生ならびに TA 本人に対してどのような教育効果を得たかについて調査した。また、学生への授業評価アンケートを実施し、学生のニーズを調査した。

講演会の参加者数や参加者の満足度については調査していない。

FD講演会の開催（平成19年度開催分を含む。）

平成19年3月28日（水）講師：高橋正克氏（長崎大学大学教育機能開発センター教授）
演題：「長崎大学のカリキュラム改革－転換教育を旨とする共通基礎科目「教養セミナー」と「教養特別講義」の導入と現状－」

平成19年11月28日（水）講師：小野 博（メディア教育開発センター教授）
演題：プレースメントテストからみた大学生の基礎学力の現状と経年変化

機構の部会等が行ったFD活動の例

第2部会

平成19年2月7日教養教育機構第2部会会義を開催し、教育改善について約60分間議論した。

第5部会

教員会議（平成19年1月24日）

主題科目のあり方、分担などを中心として、教養教育全般に関する諸問題を議論した。約40名参加。

第7部会

教員会議（平成19年1月24日）

部会の授業科目に対する学生の評価について、シラバス作成について、授業改善案の作成について等、部会の授業改善を図るための意見交換を行った（12名参加）。

8-2-2 ファカルティ・ディベロップメントの教育改善への活用

ティーチング・アシスタントの有効利用を促進するために、授業後にティーチング・アシスタント活動報告書の提出を義務づけた。

また、後学期より、学生による授業評価アンケート結果に対する各教員による評価・改

善報告書の提出を義務づけ、それらを PDF ファイル化した。さらに、これらのアンケート結果を総合的に自動的に分析するシステム作りを行った。

FD活動により授業が改善された例

授業改善については、現在のところ、教員個人が作成した授業改善計画によって行うことになっている。

FD 講演会の際に出た意見、たとえばホワイトボードの設置、プロジェクタ設置教室の照明スイッチの配置等についての提案を直ちに実行し、改善した事例がある。

第5部会

各教員の活動報告書によれば、授業中の学生との会話の有効的活用、大学入門科目のあり方の改善、などが見られた。

8-2-3 教育支援者、教育補助者への研修

TA に対しては、教員単位、科目単位で、研修などの取り組みが行われているが、機構としての研修を行っていない。

8-3 優れた点及び改善を要する点

ファカルティ・ディベロップメント活動が、機構内の各教員に浸透してきているが、点検・評価・改善に関する客観性の確保、教育改善の継続的なデータ収集・分析等、今後も引き続き取り組んでいかなければならない。部会が教員会議を開催し、授業改善について議論するようになったことは優れた点である。

8-4 自己評価の概要

概ね妥当であるが、実際に授業の改善に結びつけるという点で課題が残る。

9 管理運営

9-1 管理運営体制及び事務組織

教養教育運営機構には、専任の教員は配置されていない。事務については、教務課が担当している。

9-1-1 管理運営組織

機構の管理運営は、機構長を中心に、副機構長、協議会、各種委員会等が役割を分担している。学部の教授会に準ずる組織として協議会を置いている。(図9-1-1-1)

(1) 機構長及び機構長補佐体制

機構長は、機構の業務を掌理することとなっている。機構長は、協議会、運営委員会、企画委員会、FD委員会、評価委員会などの主要な委員会の委員長として機構の管理運営に中心的な役割を果たす。

機構長の職務を補佐するために、副機構長3名を置いている。平成18年度から、副機構長のうち1名は、機構長補佐として機構長の職務全般を補佐することになった。機構長補佐は、機構長が指名する。副機構長は、教務委員会など、機構の重要な委員会の委員長として、機構の運営に関わる。また、必要に応じて、機構長の下に各種の補助組織を置いている。

企画委員会では、機構長、副機構長の他、教務関係の事務職員も出席して、機構の運営に関する様々な課題を議論し、情報を交換することで、機構長の運営を助けている。

平成17年度に機構長の補助組織に関する規程を整備し、機構長の判断で機構長を補助する組織を設置できるようになった。このことにより、臨時の課題に機動的に取り組んだり、2年を超えて継続的に取り組むべき課題にも柔軟に委員会等を組織できることとなった。

本学の専任教員は原則として全員が機構のいずれかの部会に所属している。部会には部会長及びその他の幹事が置かれ、機構長の下で部会の運営に当たっている。

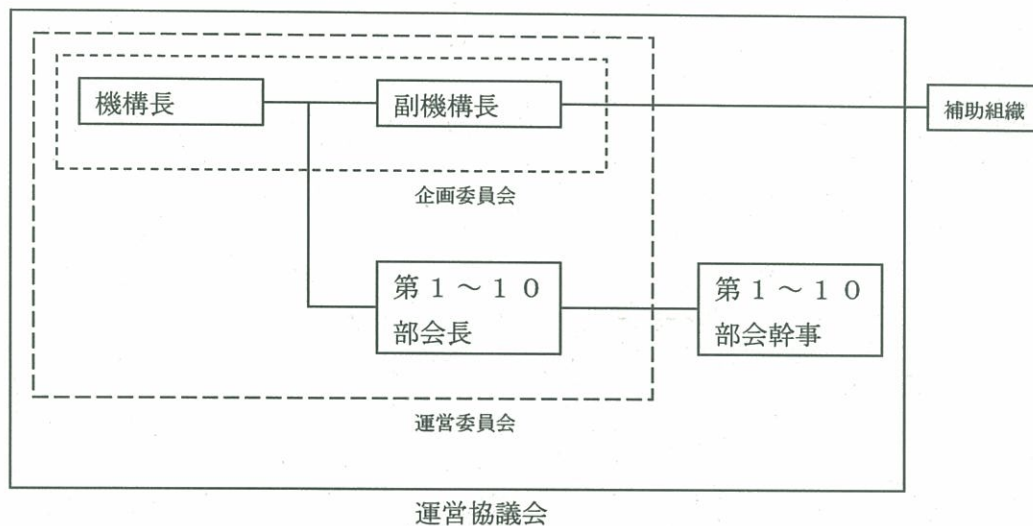


図9-1-1-1 管理体制

(2) 事務組織

機構の主たる業務は、教養教育であるので、事務的な業務は、主として教務課（教養教育管理係、教養教育企画係、教養教育実施係）が担当している。

(3) 協議会及び各種委員会

機構には、教授会に相当する組織として、協議会を設置している。

協議会では、教養教育運営機構規則第13条により、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教養教育科目に係る教育課程の編成及び実施に関すること。
- (2) 部会の構成及び改編等に関すること。
- (3) 教養教育科目担当非常勤講師の任用に関すること。
- (4) 運営機構の予算及び決算に関すること。
- (5) 運営機構及び協議会に関する大学評価に関すること。
- (6) その他運営機構の管理運営に関すること。

人事については、機構長その他の役職者の選定、非常勤講師の選考、教員の所属部会の審査などを行っている。また、学生の教育に関する重要事項については、教育課程のうち教養教育に関する事項の審議、単位の審査などを行っているが、決定は学生の所属する学部の教授会が行っている。

協議会は、佐賀大学教養教育運営機構規則第17条第2項によって、審議事項の一部を

運営委員会に委任し、審議の効率化を図っている。

(4) 部会

機構には、第1部会から第10部会まで、10の部会が置かれ、本学の専任教員は原則としていずれかの部会に所属することになっている。部会は、教養教育運営機構規則第9条により、次に掲げる任務を行う。

- (1) 授業計画（授業科目の設定、時間割の編成、教室配当及び授業クラスの編成等を含む。）の策定に関すること。
- (2) 教養教育科目を担当する教員に関すること。
- (3) 教養教育科目を担当する非常勤講師の任用計画の策定に関すること。
- (4) 教養教育の実施のための経費に関すること。
- (5) 教養教育カリキュラムの調整に関すること。
- (6) 教養教育科目に係る試験等に関すること。
- (7) 部会の大学評価に関すること。
- (8) その他教養教育の実施に関し必要なこと。

また、各種委員会には各部会から1名の委員を選出することが通例となっており、各部会は委員会を通じて、機構の運営にも関わっている。

9-1-2 意思決定

重要な事項の意思決定は、協議会の議を経て機構長が行っている。機構長の裁量に委ねられている事項については、企画委員会の議を経て機構長が決定することが通例となっている。

(1) 上級機関との関係

機構長は、教育研究評議会に評議員として出席しており、教育研究評議会の定めた基本方針に従って機構を運営している。また、機構長と副機構長3名は、大学教育委員会に委員として出席しており、大学教育委員会の定めた方針に従って、教養教育を実施している。

(図9-1-2-1)平成17年度までの大学教育委員会には、同委員会の規則により、教務委員を委員として選出していたが、専門委員会の扱う案件を議論するための機構側の委員会と直接的な対応がなかったため、平成18年度からは、機構側の委員会を担当する副機構長が大学教育委員会に出席するように改めた。(図9-1-2-2)したがって、現在では、機構長及び副機構長全員が大学教育委員会に出席している。(平成19年度は、機構長補佐が高等教育開発センター長として大学教育委員会に出席することになったため、

協議会の委員と交替した。)

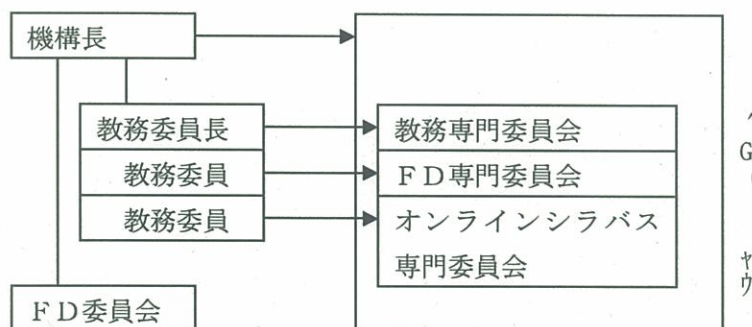


図9-1-2-1 平成16～17年度の大学教育委員会と機構の関係

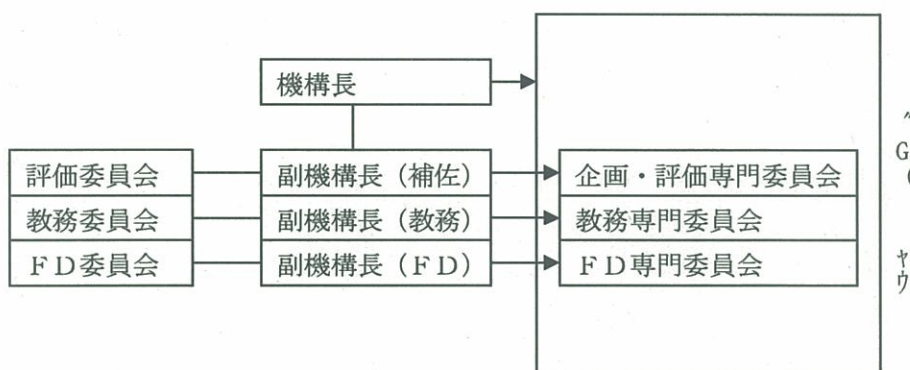


図9-1-2-2 平成18年度以降の大学教育委員会と機構の関係

(2) 意思決定過程

教務関係については、教務委員会で審議した内容を教務委員長（教務担当の副機構長）が協議会（一部は運営委員会）に報告し、それに基づいて機構としての判断を行っている。それ以外の重要な事項についても、各種委員会で審議し、その報告に基づいて運営委員会及び協議会で審議決定している。

軽微な事項、機構長の裁量に委ねられている事項、委員会や部会間で調整が必要な事項については、企画委員会で議論している。（現在では、協議会が設置する常設の委員会は、機構長または副機構長が委員長となっているので、企画委員会の議論に基づいて定めた機構の方針に沿って、委員会での審議を行うことが慣例となっている。）審議機関相互の関係

は図9-1-2-3に示す。

教養教育は、全学に関係するので、特に学生の履修に直接関係する事項については、大学教育委員会（特に教務専門委員会）を通じて、各学部と密に情報交換を行い、円滑な意思決定を行うことができるようにつとめている。特に卒業要件に関わる事項は、学部の了解を得て、機構としての意思決定を行っている。

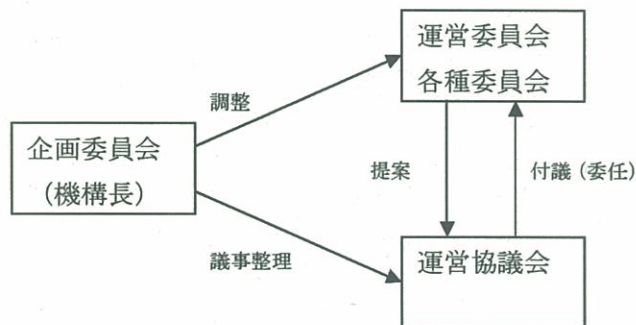


図9-1-2-3 審議機関相互の関係

9-1-3 関係者のニーズの把握と反映

教員の意見は、部会を通じてくみ上げるようにしている。また、学部の意見は、大学教育委員会を通じて聴いている。

平成18年度からは、各部会で教員会議を開催し、教養教育に関して（その年度に授業を担当していない教員も含めて）議論している。教員会議で出された意見は、部会長が協議会で報告している。

教員以外の職員の意見を組織的にくみ上げる仕組みはできていないが、機構長や副機構長が直接関係職員から意見を聴くようにしている。

学生の意見は、学生との懇談会に機構長が出席して聴くようにしている。

9-1-4 管理運営担当者の能力開発

機構長は、教養教育実施組織代表者会議などに出席して、教養教育実施組織の課題等について情報収集を行っている。副機構長についても同様である。しかし、特に機構長や副機構長としての資質向上のための研修などは行っていない。実際に機構長に選出される教

員は、学部長や副機構長等の役職者の経験者であることが多く、それらの役職に就くことが管理運営について学ぶ機会にもなっていると考えられる。平成18年度以降は、機構長を部会及び学部から推薦された者の中から協議会で選定することになったので、各部会や各学部において管理運営の責任者として適任の者が推薦されていると考えられる。

9-2 規程等の整備

機構では、規程等を体系化するなど、整備を進めてきた。各種委員会については、その権限、役割、根拠規定などを明確化している。また、機構長の補助組織についても、規程等の整備を行い、その役割を明確化した。

9-2-1 管理運営の方針及び規程

(1) 管理運営の方針

機構の主要な業務は教育であるが、教育には教員の主体的な取り組みが不可欠であることから、全体の整合性やバランスを考慮しながら、教員の合意を形成することを機構の管理運営の基本的な姿勢としてきた。また、ルールが明確になっているものについては、できるだけ審議を簡素化するようにしている。特に協議会が委任した事項については、運営委員会の決議を以て協議会の決定としている。

(2) 諸規程の体系

諸規程の体系は以下の通りである。原則として、下位規程は、上位規程に根拠を持つ。

教養教育運営機構規則

教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考規程

教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考細則

教養教育運営機構運営規程

教養教育運営機構運営委員会内規

教養教育運営機構企画委員会内規

教養教育運営機構教務委員会内規

教養教育運営機構主題科目開設要項

九州地区国立大学間合宿共同授業実施要項

佐賀大学科目等履修生規程

学内開放科目開設要項

教養教育運営機構広報委員会内規改正案

教養教育運営機構ファカルティ・ディベロップメント委員会内規

教養教育運営機構評価委員会内規

教養教育運営機構部会所属に関する内規

教養教育運営機構管理運営補助組織に関する内規

実験室運営要項

LM教室運営要項

CALLシステム運営要項

リメディアル英語教育実施要項

リメディアル物理教育実施要項

教養教育科目履修規程

教養教育科目履修細則

(3) 役職者及び委員等の選考及び責務

機構長及び副機構長は、教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考規程及び教養教育運営機構長及び副運営機構長候補者選考細則によって選考の手続きが実行されている。各種委員会の委員及び補助組織の委員の選出方法については、規程または内規等で規定されている。

主要な委員会の委員長は、機構長または副機構長が兼ねている。

機構長は、学部または部会で推薦された者のうちから、前年度の協議会で投票して選定される。その役割は、機構の業務全般を掌理することである。

平成18年度から、副機構長のうち、機構長補佐は、機構長が指名することになった。機構長補佐は、機構長の職務全般について助言等を行い、また機構長に事故があるときは、機構長を代行する立場である。副機構長のうち1名は、教務委員会で互選で選ばれた委員長を、もう1名は広報委員会で互選で選ばれた委員長を指名することになっている。広報委員長は、FD委員会で委員長代行もつとめている。

機構長及び副機構長は、企画委員会で意思を統一し、一体となって機構の運営に当たることを目指している。

各部会の部会長の選出方法は、部会によって異なる。選挙を行う部会、前任者の推薦に基づき選出する部会、学部毎のローテーションを決めている部会などがある。(資料「部会活動実績等報告書」) 今後は、部会教員会議で部会長等の選出方法を議論することになる。

9-2-2 管理運営に必要な情報

(1) 情報の収集

教務課が必要な情報を収集して、役職者及び各種委員会等に提供している。

(2) 情報の共有

委員会報告などを通じて情報を共有するようにしている。また、ホームページを通じて内外に情報を提供している。重要な規程や内規も大学のホームページに掲載している。

9-3 自己点検・評価

9-3-1 自己点検評価の実施状況

(1) 自己点検・評価の体制

運営委員会のメンバーによって評価委員会を組織し、自己点検・評価を実施している。

(2) 自己点検・評価の実施状況

平成14年に全学教育センター（現在の教養教育運営機構に相当）が大学評価・学位授与機構の評価を受審している。その際に、自己評価書を提出している。

平成18年度に平成16～17年度の活動について、自己点検・評価を実施した。

9-3-2 自己点検・評価結果の公開

平成18年度に実施した自己点検・評価については、報告書を公開している

(<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H1617bukyoku.htm>)

9-3-3 外部評価

(1) 外部評価の実施体制

平成15年度に、運営委員会を中心に外部評価を計画し、学外の有識者を評価委員に委嘱して、実施した。

平成18年度に、教養教育運営機構、留学生センターおよび高等教育開発センターの三者で自己点検・評価に関する学外者検証を共同で実施するための協議体制を敷いた。

(2) 外部評価の実施状況

平成15年度に外部評価を実施した。(平成16年3月『全学教育・教養教育外部評価報告書』)

平成18年度に、自己点検・評価に関する学外者検証を実施した。

9-3-4 評価結果の活用

(1) 評価結果を活用する体制

運営委員会で議論し、各部会に対応する。

(2) 改善事例

外部評価で学生による授業評価やシラバスの充実を求められたが、これについては、かなり改善されている。

9-3-5 教育に関する中期目標・中期計画の達成状況の概要

計画002

1) 大学入門科目、共通基礎教育科目、主題科目で構成する教養教育科目の教育体制を不断に見直し、改善・強化する。この目的を達成するため、教養教育科目は、全学登録方式により、全学部の教員が担当する。

①学内開放科目制度の導入、専門科目との連携強化、GPなどで培った実践的教育システムの継続発展に加えて、キャリア教育機能を持たせた教養教育科目を立ち上げるなど、教養教育の改善・充実を進める。

②英語教育を中心に、少人数教育の拡大・充実を進める。

達成状況

専門教育科目を教養教育科目として履修できる学内開放科目として、新たに17科目を認定し、計42科目となった。また、受講者が291名に及ぶ「キャリアデザイン(自分発見講座)」及び「地域創成型学生参画教育モデル開発事業」などの実践的教育システムを継続発展し、教養教育の充実を進めた。

ネイティブ英語教員による教養英語科目授業を42クラス増設し、少人数教育の拡大と英語教育の充実を進めた。

補足：平成19年9月に佐賀大学の中長期ビジョン(案)が作成され、教養教育全体の見直しが行われている。

計画003

- 2) 統合のメリットを生かして、豊かな教養を養う主題科目の量的・質的改善を進める。
- ①豊かな教養と実践力を養うための主題科目の量的・質的改善を図るため、新しい分野及び新設を含めたカリキュラムの創設と整備を継続する。
 - ②2キャンパス化にかかる問題、課題を継続して検討し、教養教育実施体制の整備を図る。

達成状況

医文理融合型授業科目「社会生活行動支援概論」など6科目を新設し、主題科目の量的・質的改善を進めた。

医学部学生の移動問題を緩和する方策として、本庄キャンパス（医学部以外）の開講科目の一部を鍋島キャンパス（医学部）で開講する案について検討し、教員の移動問題、移動にかかるコスト等の解消すべき課題を抽出した。

補足：平成19年10月に発足した教育室（教育学生担当理事及び理事を補佐する教職員で構成）において、医学部から提起された教養教育に関する問題について検討している。

計画004

- 3) 問題発見・解決型授業，学生参加型授業，総合型授業の開講数を増やす。
- ①問題発見・解決型授業，学生参加型授業，総合型授業等の開講数を増やすため，大学入門科目や主題科目の「地域と文明」分野の充実に加えて，知的財産リテラシー教育科目の開設計画を進める。

達成状況

地域学歴史文化研究センターの専任教員による「地域と文明」分野の授業科目を平成19年度から新規に2科目開講するとともに、隔年開講の1科目を毎年開講にすることを決め、「地域と文明」分野の充実計画を進めた。また、「情報と知的財産」の講義を情報処理概論で開講し、知的財産リテラシー教育推進の糸口とした。

計画005

- 4) 地域との関係を重視した共通主題科目「地域と文明」を立ち上げ，人や自然との関係を理解し，佐賀で学ぶ学生のアイデンティティーを高める。
- ①主題科目「地域と文明」分野を充実するために，地域の人材情報を大学で把握し，地域と連携した人材活用計画を策定する。

達成状況

地域（佐賀）の固有性と普遍性を探究する地域学を創造する機関として地域学歴史文化研

究センターを設置し、教養教育運営機構と連携して新規授業科目の開講を決めた。また、地域創成教育プログラムとの連携強化や、佐賀への造詣が深い地域人材を非常勤講師等として活用する方策について検討した。

計画006

5) 実用的な英語運用能力を全学的に高めるため、英語担当教員を軸として、語学教育協力体制を確立する。TOEIC・TOEFL等の外部資格試験等を利用して、その到達度を確かめ、社会的に通用する水準まで高める。アジア諸国との国際交流を重視する本学の方針と学生の履修希望の拡大に 대응するため、アジア系言語の履修機会を拡大する。

①留学生センターに配属予定のネイティブ英語教員を活用し、実践的語学能力向上のためのカリキュラムを作成する。語学自習環境の整備として、LM教室のシステムを更新し、TOEIC・TOEFL等の外部資格試験等を本学で行うことで、学生の語学能力の数値的向上を図る。

②アジア諸国との国際交流を重視する本学の方針に基づき、アジア系留学生との交流を深める。

達成状況

実践的語学能力向上のためのカリキュラムを作成し、新規採用した5人のネイティブ教員による英語教育を開始した。

また、TOEFL、TOEIC受験のためのスキルアップ講座を13講座増設し、TOEFL-ibt(ウェブによる公式テスト)を学内で実施できる体制を構築した結果、TOEICとTOEFLのスコアアップのための講座を受講した学生の約30%が、TOEICで100点以上がアップした。

計画007

6) 高校の授業内容及び入試科目の変化に対応して、学生の履修歴を考慮した新しいニーズに 대응する教養教育を行う。学部における専門教育の特性を考慮しながら、教養教育との連携を円滑化させる。

①高大連携の仕組みを一層強めるとともに、高等学校教育と教養教育の連携を強化する一環として、リメディアル教育の拡充を図る。

②教養教育と専門教育との連続性を強化するため、キャリア教育を含めた教養教育の実施など、カリキュラムの改善を進める。

達成状況

学生支援室高大連携推進部門が佐賀大学入学者の進路選択に関するアンケートを実施して大学教育に対する入学者のニーズを把握し、効果的な高大連携の在り方を分析した。

また、アンケートや聞き取り、レポート等により高校での履修状況を調べ、高校と大学の

教養教育の連携を図るためのリメディアル教育（物理）を実施した。

後学期の教養教育科目に、総合科目「キャリアデザイン（自分発見講座）」を開講し、291名が受講した。

補足：平成19年度にeラーニングスタジオを設置し、LMSなどを利用したリメディアル教育のためのeラーニング教育体制を強化している。

計画034

1) 教養教育は全学年を通じて行う。

①本学の教育理念・目的に応じた教養教育の在り方を検証しながら、全学年を通じた教養教育カリキュラムを継続して実施する。

達成状況

教養教育運営機構は、各種アンケートの結果等を基に、本学の教育理念・目的に応じた教養教育の在り方を検証・確認するとともに、全学年を通じた教養教育カリキュラムを継続して実施した。

計画064

3) インターネット講義の開発研究を進め、教養教育科目を中心に拡大する。

①現代GP「ネット授業の展開」を軸に、インターネット講義を拡充する。

達成状況

新たに8科目のネット授業を開講するとともに、教養教育運営機構にeラーニング教育実施委員会を設置し、現代GP採択期間以降も継続してネット授業を開発・推進する体制を整えた。

補足：平成19年度に高等教育開発センターに教育開発部門を設置し、eラーニング教育の開発に重点を置いた活動を開始している。

計画073

4) ティーチングアシスタントによる学習支援を進める。

①ティーチングアシスタントの活動状況調査を行い、その結果を基に有効な配置と指導を行う。

②効果的なティーチングアシスタント(TA)活動を促すための教育と、TA活動を通して大学院生自身の教育効果を高めるTA指導法を工夫し、実行する。

達成状況

「佐賀大学ティーチングアシスタント運用要領」を制定し、TA 活動の質的向上と大学院生自身の教育効果を高めるための研修等の実施を定めた。

また、TA 実施報告書に大学院生の意見等の記入欄を設け、教育効果の検証を行う仕組みとした。

9-4 予算

9-4-1 予算配分の方針と策定状況

機構には予算委員会を設置しておらず、予算配分については、企画委員会で議論して機構長が定めている。機構はもともと予算が少ないため、配分が問題となることはあまりない。空調設備がほぼ整備されたので、視聴覚機器や部会活動の活性化のための予算配分を検討しているところである。部会等からの少額の予算要求については、機構長の判断に委ね、機動的に執行できるようにしている。

9-4-2 資源配分の方針と策定状況

現在の教養教育の維持のための予算を配分しており、それ以外の予算はほとんど組み立てていない。

9-5 優れた点及び改善を要する点

機構では、様々な会議で十分に議論することで、多くの教員の協力体制を作り、教養教育を維持している。これは、機構に専任教員に対する人事管理の権限が無いことを考えると、学部や個々の教員の良識を前提とした体制である。しかし、教養教育の改革を考えると、教員人事が学部任せられている現状では、機構の取り組みには大きな制約があることも事実である。教養教育に必要な教員を確保するために機構が関与できるような仕組みが必要である。

9-6 自己評価の概要

教養教育運営機構に課された役割を概ね果たしている。評価および評価に基づく改善については、調査作業に時間がかかりすぎることもあり、迅速な対応ができないという課題がある。

10 社会貢献

10-1 教育による社会貢献

10-1-1 目的及び計画

(観点に係る状況)

平成18年6月23日に、「国立大学法人佐賀大学社会貢献の方針」(<http://www.saga-u.ac.jp/chuiki/index2.htm>)が制定され、従来の本学の社会貢献の方針が明文化された。方針の周知については、大学のホームページで行っている。

平成18年度には、教養教育運営機構規則を改正し、公開講座を機構の業務に追加したが、社会貢献についての具体的計画はまだ策定していない。

なお、平成19年度には佐賀県の大学等で「コンソーシアム佐賀」を組織することが計画されており、教養教育や生涯教育等で連携する予定である。

(分析結果とその根拠理由)

教養教育運営機構としての社会貢献は特に計画されていない。

なお、平成18年度からは、公開講座実施委員会が機構長の下に設置され、方針及び計画について検討することになっているが、具体的に進展していない。目下のところ、特に機構として公開講座を開催する必然性が希薄なことにもよる。

10-1-2 実施状況

(観点に係る状況)

(1) 生涯学習

公開講座などは実施されていない。

一部の授業科目は、学外に開放されている。

例 ネット授業「有明海の線虫」を学外に開放した。

(2) 正規課程外の学生受け入れ

科目等履修生は、希望があれば受け入れている。

(3) 社会教育

講演会の講師などをした教員がいるが、機構としては実施していない。

(4) 高大連携

機構としては取り組んでいない。

(平成18年度からは、機構長補佐が佐賀県のスーパーサイエンスハイスクール運営指導委員に就任しており、連携の方法を検討している。)

(5) 産学連携等

機構としては取り組んでいない。

(6) 施設・設備開放

機構は多数の講義室を保有しているので、授業に支障のない範囲で学外に開放している。

(平成18年度実績を表10-1-1に示す。)

(分析結果とその根拠理由)

機構として特に社会貢献には取り組んでいない。施設(教室)については、開放が進んでいる。

10-1-3 成果

(観点に係る状況)

機構として特に社会貢献には取り組んでいないので、成果はない。

10-1-4 改善システム

(観点に係る状況)

改善のためのシステムは無いが、企画委員会で社会貢献の在り方について議論している。

なお、平成18年度には、公開講座実施委員会を設置し、改善のための議論を行う方向で検討している。

(分析結果とその根拠理由)

改善システムがない。

10-2 目的の達成状況の判断

機構としては社会貢献の目的は達成されていない。

10-3 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

特に無い。

(改善を要する点)

- (1) 方針及び計画を策定し、周知すること。
- (2) 単独の学部では実施できない総合的な公開講座の企画などが期待される。

10-4 自己評価の概要

機構としての組織的な社会貢献の取り組みは、不十分である。

表10-1-1 平成18年度 施設開放

平成18年度 不動産一時使用許可一覧(教養教育運営機構)

| 番号 | 申請日 | 使用日 | 部局・使用箇所 | 相手方 | 施設種別 | 使用料 | 目的 |
|----|-------|---------------------|------------------------------|----------------------------------|-----------|----------|---------------------|
| 1 | 3/22 | 4/16 | 教養教育1・2号館 | 佐賀県地域産業支援センター | 建物及び物件貸付料 | 169,394円 | 情報処理技術者試験 |
| 2 | 4/10 | 6/4 | 教養教育1号館 | 全国試験運営センター | 建物及び物件貸付料 | 119,609円 | 第2種電気工事士筆記試験 |
| 3 | 6/5 | 6/25 | 教養教育1・2号館 | 佐賀県人事委員会事務局 | 建物及び物件貸付料 | 160,853円 | 佐賀県職員採用試験 |
| 4 | 6/22 | 7/22 | 教養教育1号館 | 全国試験運営センター | 建物及び物件貸付料 | 160,718円 | 第2種電気工事士技能試験 |
| 5 | 6/29 | 8/7～ 8/24 | 教養教育2号館211教室 | 県教委学校教育課 | 建物及び物件貸付料 | 112,963円 | 佐賀県教育職員免許法認定講習 |
| 6 | 8/8 | 9/10 | 教養教育1号館 | 金融財政事情研究会 | 建物及び物件貸付料 | 111,064円 | ファイナンシャル・プランニング技能検定 |
| 7 | 8/24 | 9/17 | 教養教育1・2号館 | 佐賀市 | 建物及び物件貸付料 | 57,554円 | 佐賀市職員採用試験 |
| 8 | 9/1 | 9/5 | 教養教育1号館 | 佐賀県人事委員会事務局 | 建物及び物件貸付料 | 41,582円 | 県職員採用試験 |
| 9 | 8/29 | 10/15 | 教養教育1・2号館 | 佐賀県地域産業支援センター | 建物及び物件貸付料 | 169,892円 | 情報処理技術者試験 |
| 10 | 9/8 | 10/22 | 教養教育1・2号館 | 社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会 指山弘養 | 建物及び物件貸付料 | 127,630円 | 介護支援専門員実務研修受講試験 |
| 11 | 9/25 | 10/29 | 教養教育1号館、教養教育運営機構会議室、教養教育大講義室 | 佐賀県母親大会実行委員会 | 建物及び物件貸付料 | 37,521円 | 母親大会 |
| 12 | 7/27 | 11/12 | 教養教育2号館 | (社)佐賀県エルピーガス協会 会長 島富士男 | 建物及び物件貸付料 | 59,673円 | 高圧ガス製造保安責任者等国家試験実施 |
| 13 | 11/14 | 11/24 ～ 11/25 | 教養教育1・2号館 | 学校法人高宮学園 専修学校代々木ゼミナール福岡校 校長 高宮行男 | 建物及び物件貸付料 | 278,124円 | 模擬試験実施 |

| | | | | | | | |
|----|-------|-------------|---------|--|-----------|-----------|---------------------|
| 14 | 11/20 | 11/26 | 教養教育2号館 | (財)国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会東京業務センター 所長 浅見治義 | 建物及び物件貸付料 | 36,820 円 | TOEIC 公開テスト試験実施 |
| 15 | 12/13 | 1/1～ 1/2 | 教養教育2号館 | 学校法人北九州予備校博多駅校 校長 今村八洋 | 建物及び物件貸付料 | 186,900 円 | 模擬試験 |
| 16 | 12/13 | 1/14 | 教養教育2号館 | (財)国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会東京業務センター 所長 浅見治義 | 建物及び物件貸付料 | 52,831 円 | TOEIC 公開テスト試験実施 |
| 17 | 1/5 | 1/28 | 教養教育1号館 | 社団法人 金融財政事情研究会 専務理事 倉田勲 | 建物及び物件貸付料 | 150,386 円 | ファイナンシャル・プランニング技能検定 |

1 1 地域との連携

佐賀大学では、様々な地域との連携に基づいて、教育活動を行っているが、教養教育の領域でも地域との連携を重視している。第7部会では、「地域とくらし」、「佐賀の文化」などの副主題を掲げて、様々な授業科目を開設しているが、他の部会でも地域に重点を置いた科目が開設されている。

地域との連携で、特筆すべきものとして、以下に「佐賀環境フォーラム」、「佐賀県提供講座」、「佐賀新聞社提供講座」の三つを挙げておく。なお、現在、NHK 佐賀放送局による提供講座について準備中である。

1 1 - 1 佐賀市との連携 佐賀環境フォーラム

佐賀市と佐賀大学が連携して佐賀の環境問題について学修する「佐賀環境フォーラム」(佐賀環境フォーラム実行委員会主催)が実施されている。これは、佐賀大学の学生は、教養教育科目として受講し、佐賀市民も参加できる仕組みになっている。

佐賀環境フォーラムは、平成18年度は資料11-1-1のような講義が実施された。その成果は、資料11-1-2にあるように、顕著である。

その他の詳細は、ウェブ上で公開している。

(<http://net.pd.saga-u.ac.jp/saga-forum/index.html>)

資料11-1-1 (佐賀環境フォーラムのホームページから転載)

| 日程 | 時間 | 講演題目 | 講師 |
|----------|-------------|-------------------------------------|----------------------------------|
| 5月9日(火) | 19:00-21:00 | 佐賀大学の環境への取り組み | 佐賀大学学長 長谷川 照 |
| | | 佐賀環境フォーラム紹介 | 佐賀大学理工学部教授 宮島 徹 |
| 5月11日(木) | 19:00-21:00 | 環境問題総論 | 国連大学副学長 安井 至 |
| 5月16日(火) | 19:00-21:00 | 微生物の活用法 ～中国の10年間とこれからのタジキスタン～ | (有)NS-30 研究所 最高経営責任者 島田俊雄 |
| 5月18日(木) | 19:00-21:00 | ワークショップ研究成果発表 | 佐賀環境フォーラム グループ代表 |
| 5月25日(木) | 19:00-21:00 | 開発途上国の環境問題 ラオス/バングラデシュでの地下水のヒ素汚染 | 佐賀大学農学部教授 稲岡 司 |
| 6月1日(木) | 19:00-21:00 | 企業における取り組み | イオン(株)環境・社会貢献部部长 上山静一 |
| 6月8日(木) | 19:00-21:00 | 気候と住まい・住まい方(仮) | 佐賀大学文化教育学部助教授 澤島智明 |
| 6月15日(木) | 19:00-21:00 | 海岸林保護と松葉炭による水質浄化実験 | 佐賀大学海浜台地生物環境研究センター 教授 田中 明 |
| 6月22日(木) | 19:00-21:00 | ディベートで考える環境問題 | 佐賀大学文化教育学部教授 佐長健司 |
| 6月29日(木) | 19:00-21:00 | グリーン購入と持続可能な消費(仮) | 武蔵工業大学教授・グリーン購入ネットワ ーク代表 中原秀樹 |
| 7月6日(木) | 19:00-21:00 | 極域からみた地球温暖化 | 佐賀大学高等教育開発センター助教授 川野良信 |
| 7月13日(木) | 19:00-21:00 | エンバイランメンタリズムと品格 | 福岡大学副学長 衛藤卓也 |

[体験講座]

6月3日(土) 9:00～17:00

○水質調査

【内容】 嘉瀬川、多布施川の上流・中流・下流地点で水質調査（簡易水質検査・水生生物調査）を行い、それぞれの地点の違いについて学習します。

6月17日(土) 9:30～12:00

○ごみ探検隊（ごみ調査）

【内容】 1グループ20名程度で、佐賀大学構内及び周辺のごみ調査を実施し、ごみの現状と分別について学習します。

[現地見学会]

平成17年7月1日(土) 9:00～17:00

以下3コースから選択します。

○エネルギー（省エネ・新エネ）

【内容】 佐賀市清掃工場・佐賀大学海洋エネルギーセンター・唐津市肥前支所風力発電

○水と川（里山の自然と原生自然）

【内容】 巨勢川調整池・東名遺跡・石井樋・味の素園・筑後大堰

※長靴を用意

○森と海（森と有明海の関係について・佐賀平野の成り立ち）

【内容】 唐津市竹炭工房・富士町植林・嘉瀬川経由・有明水産振興センター・干潟体験

※着替えを用意

[ワークショップ]

○グループワークショップ

【期間】 平成18年10月～平成19年1月

【内容】 各自が研究項目を決め、テーマ毎にグループを作り、担当講師の指導のもとグループで研究活動を行ないます。

【実施方法】

- (1) 各グループはリーダー、サブリーダーを選出し、事務局に登録します。
- (2) 活動計画を事務局に提出します。
- (3) 担当講師による指導はグループごとにメールの活用を中心として行いま

す。

(文献の紹介、質疑応答など)

【研究テーマ】 昨年の研究を継続して行うものがあります。そのほかの研究テーマについては、アンケートをとり受講者の希望により決定します。

●平成 18 年度ワークショップ研究発表会について

平成 18 年度(2006 年)

| 活動テーマ名 | keyword; |
|------------------|-------------------------|
| エコツーリズム | 二次的自然の保全, ツーリズムのあり方 |
| 環境教育 | 佐賀市立赤松小学校, 地域コミュニティー |
| 佐賀大学環境マネジメントシステム | 佐賀大学 EA21, 環境意識・教育, ごみ箱 |
| シックスクール | ホルムアルデヒド, シックスクール |
| 食と環境 | 農作物 |
| 佐賀のクリーク | クリーク底質, 栽培実験 |
| 佐賀の水環境 | 竹炭, 水質改善 |
| 3R 推進 | 佐賀大学学園祭 |

中間報告会

日時:平成 18 年 11 月 25 日(土)13 時から

場所:佐賀大学 経済学部 4 号館 第 4 講義室

(佐賀大学教養教育運営機構 2 号館 211 番教室からの変更になります)

最終報告会

日時:平成 19 年 1 月 27 日(土)13 時から

場所:佐賀大学教養教育運営機構 2 号館 211 番教室

発表内容

エコツーリズム:佐賀地域に広がる豊かな自然は 2 次的自然であり、自然と人間の生活が共存した持続可能性のある自然である。この自然の意義を理解し、保全しようとする気持

ちを育むツーリズムを提案した。

環境教育：佐賀市立赤松小学校の総合学習での環境教育に参加することによって、子供達に環境を体験させ、その意義を学ばせるための教育的工夫について研究した。特に、佐賀地域の豊かな環境を教材として活用することにした。

佐賀大学版環境 EMS：佐賀地域に先がけて佐賀大学が環境マネジメントシステムを導入する意義を認識し、佐賀大学が導入するための準備作業を提案した。その際、大学における環境マネジメントシステムの導入の特殊性を研究した。

シックスクール：佐賀市内の小中学校の教室内のホルムアルデヒドおよび揮発性有機化合物の濃度を測定し、シックスクールの問題発生の可能性について検討した。建材、用具、本など発生起源について、また、室内の気温による発生程度について調べた。問題箇所については、佐賀市教育委員会を通して改善を促した。

食と環境：循環する食について提案した。都市生活において発生する生ゴミを堆肥化し、これをプランターに入れて野菜を栽培するという生ゴミの減量化策を提案した。

クリーク：佐賀地域の特色である水路の底にたまっている底泥には肥料効果があることが知られている。佐賀地域で「ごみくい」として知られているが、近年農薬や化成肥料を使用するために忘れられていた。循環型農業を確立するためにこの「ごみくい」を復活する。

水環境：富栄養化などで汚染された河川水を微生物を用いた浄化法によって継続的に浄化するシステムを開発することを目的としている。様々な材料を検討した結果、竹炭が有効であることがわかった。

3Rの推進：ごみ減量のための3Rの推進活動を行っている。学生中心の活動なので、学園祭の際のごみ減量を訴えた。組織的に活動するための手法について研究している。

資料 11-1-2 (佐賀環境フォーラムのホームページから転載)

- 「佐賀環境フォーラム」は平成 15 年度教育 GP に採択されています

「佐賀環境フォーラム」は、「市民参画（佐賀環境フォーラム）プロジェクト」として、「平成 15 年度特色ある大学教育支援プログラム（教育 GP）」に選定されました。これは、優れた教育を実践している大学に対して予算や補助金を重点配分する文部科学省の事業で、研究面で予算を重点配分する「21 世紀 COE プログラム」の教育版といえます。「大学と地域との連携の工夫改善」が評価されたものです。採択理由は以下の通りです。

この取り組みは、佐賀大学の教育目的・教育方針である「教育先導大学」と「社会に開かれ、社会に貢献する大学」を実現するため、平成 14 年に学長を機構長とする「地域貢献推進室」を設立するなど、「民学連携」に大学として組織的に取り組んでいる姿勢や、大学と地方自治体との連携で実施されている「佐賀環境フォーラム」は評価されます。「教養教育及び生涯教育としての環境教育」に優れた特色があり、他の大学の参考になる事例と認められます。

- 専門的な講義の開催

毎年度 5 月から 7 月程度までの期間の午後 7 時から 9 時まで、市民と学生が共に参加し、ともに学びます。

講師としては、大学教員ばかりではなく、行政、企業、環境 NPO 等、第一線で活躍している専門家に講義をしていただいています。

- 佐賀の自然を識る！ 現地見学会と体験講座

「環境」は机上の問題ではなく実際に体験しなければ本当の環境を「識る」ことはできません。そこでエネルギー問題や大学のごみ事情、地域の自然など様々な所に見学に行きました。

- 現地見学会 エネルギー問題、森と海、水と川
- 体験講座 水質調査、ごみ探検隊

- 佐賀でも打ち水!! 「平成打ち水夏の陣」

平成 16 年から毎年度 7 月初旬から 8 月中旬にわたって活動を行っています。

日本水フォーラム 尾田栄章 事務局長の講義（H16 年度 第 4 回講義「世界の水環境」）を通して、「打ち水」の活動を知り、ぜひ佐賀でもということ、学生が主体となって企画し、多くの方々と打ち水の良さを分かち合いました。詳細につきましては特設ページを設けましたのでご覧ください。

打ち水 平成打ち水夏の陣・特設ページへ

●佐賀大学オープンキャンパス特別企画・パネルディスカッション

平成16年11月20日(土)に佐賀大学においてオープンキャンパスが行われました。この時に、「パネルディスカッション：佐賀の水環境～学生と市民が中心になって議論します～ 佐賀環境フォーラム」を開催しました。パネラーである市民(3人)と学生(3人)は熱く討論しました。

●特別賞受賞！ 第2回全国大学生環境活動コンテスト

平成16年12月26,27日の第2回全国大学生環境活動コンテスト(エココン2004:東京)において、特別賞を受賞しました。

今年は全国各地から62団体が参加しましたが、最終選考には関東勢が多くを占めるなか、九州からは佐賀環境フォーラムが唯一残り、特別賞を受賞しました。

また環境活動に取り組む全国の学生、そして第一線でご活躍されている先生方(今年度の実行委員長は安井至先生@国際連合大学副学長でした)とディスカッションが出来、参加学生にとって非常に有意義な参加となりました。

全国大学生環境活動コンテスト

於 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都新宿区)

【主催】全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

【共催】東京電力株式会社/全国青年環境連盟(エコ・リーグ)

【後援】環境省、経済産業省、農林水産省、環境自治体会議、社団法人日本青年会議所、私立大学環境保全協議会、共同通信社

<http://www.ecocon.info/>

●ワークショップ研究成果

佐賀環境フォーラムでは、その活動の一環としてワークショップを行っています。ここでは、市民と学生自らが環境についてテーマを設定し、この問題について調査研究を行います。必要な場合には、佐賀大学の専門の教授による指導を受けたり、佐賀大学内の最新の分析機器を用いて、本格的な調査・研究を行うこともできます。得られた成果は、佐賀市の環境施策や、佐賀大学の目的志向型研究に反映されます。テーマによっては単年度ではなく、継続して調査・研究が行われるものもあります。

これまで得られた研究成果は pdf ファイルにて公開しております。

昨年までのワークショップ研究成果のまとめへ

1 1 - 2 佐賀県との連携 提供講座

第1分野の主題科目「映像形態論（映画の文法）」と「映像芸術論（黒澤明・音と映像）」は、佐賀県との連携によって開設されたユニークな科目である。

平成17年度に、「アジアのハリウッド構想推進会議」から本学文化教育学部に対して以下のような受託研究の申し入れがあった。平成18年度にも受託研究を受け入れている。（ただし、受け入れ部局は、高等教育開発センター。）

研究題目： コンテンツ産業を担う人材育成のあり方研究

研究目的： 佐賀県が推進するアジアのハリウッド構想において、コンテンツ産業を担う人材の育成をその戦略の最初に掲げている。そこで、その人材育成のあり方を学生及び県民に対する講座開設及び学生主体の課外活動を通じ研究する。

研究費： 2,275,000 円

この受託研究の中で、「講義形式での映像関係講座の提供及び学生の主体的、自主的な取り組みによる課外活動を実施する。潜在的クリエイターの発掘も視野に入れ、学生に提供した映像関連講座の一部を広く県民向けに提供する。」とされている。（資料 アジアのハリウッド構想推進会議からの受託研究申込書、平成17年5月23日）

教養教育運営機構では、西村雄一郎氏を非常勤講師として採用し、複数の映像関連の主題科目を開講している。

1 1 - 3 佐賀新聞社との連携 提供講座

第3分野の主題科目「ジャーナリズムの現在（地方紙の役割とメディアリテラシー）」は、佐賀新聞社が講師を派遣する講座である。単位認定等は、本学の教員が行っている。受講した学生からは高い評価を受けている。平成18年度後学期に開講された講義について、2007年4月発行の「佐賀新聞社提供講座実績報告書V」の目次を掲げる。（資料「佐賀新聞社提供授業実施報告書」）

目次

| | | |
|------------|--|----|
| はじめに | 取締役報道局長 寺崎 宗俊 | 2 |
| ＝授業概要＝ | | |
| 第1回 | オリエンテーション(社内見学)「地方紙の位置」(取締役報道局長 寺崎 宗俊) | 5 |
| 第2回 | 報道の現場から①「県政課題を追う」(報道局政経グループ長 田中 善郎) | 8 |
| 第3回 | 報道の現場から②「遊軍の仕事」(社会グループ特報キャップ 宇都宮 忠) | 14 |
| 第4回 | 報道の現場から③「～感動を届ける～スポーツ報道の現場から～」(報道局社会グループ長 横尾 哲) | 17 |
| 第5回 | 報道の現場から④「事件取材の問題」(報道局社会グループデスク 澤野 善文) | 20 |
| 第6回 | 報道の現場から⑤「報道カメラマン」(報道局写真グループ長 藤瀬 福身) | 25 |
| 第7回 | 報道の現場から⑥「コラムニストの仕事」(論説委員長 富吉賢太郎) | 29 |
| 第8回 | 日米新聞事情「ニッポンのジャーナリズム 内から外から」(生活文化グループ記者 E・クランドール) | 31 |
| 第9回 | 新聞制作実習①「見出し」(編制局長 吉浦 恒美) | 33 |
| 第10回 | 新聞制作実習②「割付」(編制局整理総合グループ長 田代 準治) | 36 |
| 第11回 | 新聞のウェブ戦略「もやいは佐賀から」(ネットワーク・コミュニケーション局 田中 淳) | 38 |
| 第12回 | 地域ポータル構築「佐賀新聞のホームページ戦略」(デジタル戦略チーム リーダー 小野 靖久) | 44 |
| 第13回 | 新聞広告力「新聞広告の現況について」(営業局広告企画グループ長 平 有治) | 46 |
| 第14回 | 新聞販売の現状「新聞販売の現状と展望」(販売局長 江口賢一郎) | 52 |
| 第15回 | 講義総括「新聞社経営の課題」(常務取締役 吉田 茂) | 55 |
| 学生提出レポートから | | 57 |
| ＝資料集＝ | | |
| | 佐大生新聞 | 72 |
| | 特報！佐大生新聞ブログ | 76 |
| | 受講者アンケート | 80 |

1 2 部会活動

以下、機構の部会活動について記述する。

1 2 - 1 教育の領域

1 2 - 1 - 1 授業等の実績

(1) 部会の教員数

本学の教員は全学登録方式により、講師以上の教員は第1から第10部会のいずれかの部会に加入している。各部会ごとの教員数は、表12-1-1-1のとおりである。

表12-1-1-1 部会の教員数 (人)

| | | 1部会 | 2部会 | 3部会 | 4部会 | 5部会 | 6部会 | 7部会 | 8部会 | 9部会 | 10部会 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 正 会 員 | 教授 | 16 | 13 | 23 | 53 | 40 | 49 | 8 | 12 | 9 | 18 |
| | 助教授 | 10 | 8 | 26 | 38 | 32 | 36 | 2 | 19 | 11 | 24 |
| | 講師 | 4 | 1 | 4 | 28 | 6 | 13 | 3 | 4 | 6 | 4 |
| | 合計 | 30 | 22 | 48 | 119 | 78 | 98 | 13 | 35 | 26 | 46 |
| 準 会 員 | 教授 | 6 | 1 | | 1 | 3 | 1 | 6 | 1 | | 8 |
| | 助教授 | 6 | | | 1 | | | 2 | 1 | 1 | 5 |
| | 講師 | | 1 | | | | | | | | |
| | 合計 | 12 | 2 | | 2 | 3 | 1 | 8 | 2 | 1 | 13 |

(H19/3/31現在)

(2) 部会の教員が担当した教養教育科目

主題科目の担当科目数については「主題科目開設要項」にしたがって開講基準数が決まっており、基準どおりに開講されている。第7部会については開設されたばかりの部会でもありかつ教員数も少ないことから、当分の間、その基準は適用しないことになっている。

共通基礎教育科目の外国語、健康スポーツ及び情報処理の各科目については、受講者数に応じた開講数が開講されており、相応である。

各部会の教養教育科目を担当した教員数、開講した科目数、平均学生登録者数及び平均単位取得率は、表12-1-1-2のとおりである。

表12-1-1-2 各部会の教員が担当した教養教育科目等

| | 平成18年度 | | | |
|-------|--------------------|---------------------|---------------------|------------|
| | 担当した 教員数 (人) | 開講した 科目数 (科目) | 平均学生 登録者数 (人) | 合格率 (%) |
| 第1部会 | 27 | 27 | 100 | 87 |
| 第2部会 | 21 | 24 | 104 | 73 |
| 第3部会 | 30 | 31 | 99 | 77 |
| 第4部会 | 28 | 28 | 119 | 85 |
| 第5部会 | 56 | 57 | 76 | 90 |
| 第6部会 | 67 | 57 | 80 | 75 |
| 第7部会 | 2 | 3 | 29 | 75 |
| 第8部会 | 32 | 153 | 34 | 92 |
| 第9部会 | 54 | 80 | 50 | 99 |
| 第10部会 | 42 | 44 | 66 | 87 |

合格率は、平成18年度教員活動報告者数の平均値

12-1-2 教育内容および方法

(1) 授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

第1から第7部会までの教養教育科目の主題科目群では主題分野のもとにコア科目群が配置され、さらに個別科目、総合型科目が区分され体系的に編成されている。また、共通基礎教育科目の第8部会（外国語科目）では、基礎的知識の習得から運用能力・コミュニケーション能力の形成へと発展的に向上する教育課程の編成がなされている。第9部会と第10部会では各教育目的を達成するために、講義・演習・実習の科目が体系的に構成されている。

(2) 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿っているか。

各部会とも、教育課程の編成の趣旨に沿って行われている。

(3) 研究活動に基づく教育

(教員の研究課題と教育目標との整合性)

各部会に所属する教員は、その部会の教育目的あるいは内容にふさわしい研究活動を行っている。

(4) 他学部の授業科目の履修状況

学内開放科目の利用状況

各部会によって異なる。第1、2、5、6部会は開放科目を学生は数名利用している。第4部会は開放科目の利用を認定しているが、学生の利用者はいない。第3、7、8、9、10部会は開放科目を利用していない。

(5) 単位の実質化への配慮

(授業開講意図と履修モデルの周知)

「教養教育の授業概要」の中で各部会の授業開講意図は掲載しているが、履修モデルはとくに定めていないとする部会が多い。第10部会は部会独自のテキストを作成しており、その中で開講意図及びそれに沿った授業科目の流れを示す履修モデルを明確に定めている。

(授業時間外の学修のための工夫)

工夫例としては、レポートを課すというのが多い。その他、授業内容のまとめ・プリント・参考資料を配布する、小テストの実施、学生によるプレゼンテーションを取り入れる、ホームページの活用（講義ノート、資料公開）がある。第10部会では部会として、メールによる相談を行うなどしている。

(6) 講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切か。

各部会の教育内容と関連して、講義中心のもの、演習中心のものあるいは講義と実験・実習と合わせて行うものがあり、いずれも教育目的・内容を考えると相応である。もっと実験・実習を取り入れたいが、人的、空間的余裕がないという意見があった。

(7) シラバスが作成され、活用されているか。

講義科目を選択する際には活用されているが、選択後に有効に活用されているとは思われないという意見がある。

(シラバスの公開状況)

各部会において、ほぼ80%から100%が公開されている。

(授業がシラバスに沿って行われているか。)

学生による授業評価アンケートで調査されているが、部会としては把握していないとするものが多かった。第10部会ではシラバスどおりに行われており、リテラシーとして使えなければ意味がないので、アンケートそのものの必要性がないという意見もある。

(8) 自習

(自習室の設置状況)

該当なしの意見が多いが、図書館が十分に活用されているという意見もある。第8部会

では平成16年にLM自習室が開設され、利用されている状況が報告されている。

(自己学習のための工夫の例)

各部会の各教員によるさまざまな取り組みが、報告されている。例えば、最も多かったものがレポートを課すである。その他には、復習テスト・小テスト、グループによる分担学習とプレゼンテーション、授業内容のまとめ・プリント・参考資料などの配布、ホームページの活用（講義ノート、資料公開）、利用できるパソコンの常設などがある。また、予習・復習の取り組み状況が低く、検討中であるという意見があった。

(9) 補習授業の取り組み

該当なしとする部会が多かったが、部会の教育内容から補習授業は必要なしとする部会もあった。補習授業の例としては、例えば、授業中にカードを配り質問事項があれば書いてもらい、次の授業で回答を印刷して配布する。そのとき用語など初歩的な質問にはできるだけ平易に説明を行う。第8部会では、平成17年度に英語の基礎力不足の学生に対して、学力向上のためにメディア開発センターと共同で、リメディアル教育プロジェクトを実施した。しかし、諸般の事情により18年度は実施していない。

(10) 成績評価等

(成績評価の基準と方法の周知方法)

各部会とも、評価は担当教員に委ねられており、成績評価の基準とその方法については、各担当教員がシラバスに明記して学生に周知させている。また、教員によっては、最初の講義の際に、再度、成績評価の基準と評価方法をより詳しく学生に説明している、という意見が多い。

(成績評価、単位認定の状況)

部会として、行っていないという回答が多い。

(成績評価に対する異議申し立ての方法、状況、対応結果)

これまで特に異議申し立ての問題が生じたことはなく、発生した場合には直接個々の教員、あるいは教員と教務委員が対応している。部会として、集約していない。

(11) TA及びRA

(TA、RAの指導状況)

TAを利用している部会ではTAを実施する度に、担当教員が研修を行っている。またTAは授業終了後にその日のTA実施記録を提出し、指導教員が保管している部会もある。

(TAについての学生の満足度)

調査している部会では、例えば80%以上の学生が満足していると答えている。

(12) 教育内容に関する優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

「毎回質問カード、アンケートをとり質問や要望に対応する」「英語の講義資料を配布することにより、英語に慣れていった」「期末定期試験を行わず毎回授業後に一定の宿題・レポートを課したクラスでは、定期試験という従来の評価法よりも「学生たちに各自の執筆状況を段階的にクラス全体に対して「公表」させるシステムを導入することで学生たちの最終レポートの多くが一読に値するものとなった」等の報告があった。

(改善を要する点)

「講義のスピードが速い、講義内容が難解であるという声があり、授業内容と方法に工夫が必要」「スポーツ実習では学生の希望する種目をできるだけ開講しているが、体育施設（とくに室内施設）が少なく希望にそえない場合がある」等の報告があった。

12-1-3 教育の成果

(1) 教育目標の明示

ほとんどの部会がホームページ、教養教育の授業概要（シラバス）において明示している。第10部会では部会が発行しているテキストに明示している。

(2) 教育を点検する取り組み

ほとんどの部会において、教育に関する自己点検、学生による授業評価等は担当教員に委ねられており、部会としては特に点検を行っていないとしている。部会として組織的に取り組む必要があるという声もある。

(3) 学生による授業評価の実施状況

ほとんどの部会が実施状況を把握していない。第7部会は70%の実施率であると回答され、充実が望まれている。

(4) 授業評価アンケート以外の学生の意見聴取

例えば、「毎回授業でカードを配布し、学生に」質問や意見を自由に記入してもらい、回答やコメントを書いたプリントを印刷して次の回に配布している」「個人のホームページに掲示板を設置し質問を受け付けている」「毎回出席代わりに紙に意見、感想、質問等を書かせた」の報告がある。

(5) 学生満足度（学生による授業評価の結果）

ほとんどの部会で、調査されていない。

(6) 教育の成果

(特筆すべき教育の成果があれば記述して下さい。)

英語の授業で、担当教員が編集出版したTOEIC対策用テキストを使用したクラスでは、多くの学生がTOEIC受検をするようになり、数名の学生は半年間で50点以上の伸びを示した。また、ある授業では動物実験の理解と動物愛護の理解が深まったという報告がある。

12-1-4 学生相談・支援

(1) ガイダンス

「学部・学科オリエンテーションで合わせて行っている」「第1回目の授業でガイダンス、コース分けを行い、担当教員が具体的かつ詳細に説明する」「初修外国語では科目選択のため、入学以前にその外国語の説明書類を送って履修の参考としている」等の報告がある。

(2) 学生相談

(オフィスアワー(日時を指定しているものに限る)を設定している教員数)

文系のほとんどの部会(教員)はオフィスアワーを設定しているが、理系・実験系の部会(教員)は少ない。理系・実験系の教員は随時、予約あるいはメール等を活用して、授業の相談や質問に対応している。

(3) 特別な支援が必要な者への学習支援

「黒板やスライドが見えにくいものに縮小コピーの配布、ポインターもグリーンレーザーのものを使用する」「身体障害者の学生と相談して1階に教室を変更した」「留学生に授業後、個別的に質問に応じるようにした」「身体障害者と相談の上、スポーツ実習の種目を変更させ、できる範囲で参加させた」等の報告があった。

(4) 情報機器の整備状況

ほとんどの講義室は最小限の情報機器が整備されている。第8部会の語学教育ではLL・LM教室、LM自習室が整備され、ネット授業が可能なコンピューター機器が整備されている。第9部会ではスポーツセンターや体育館において、ビデオやパワーポインターの機器が整備されている。第10部会では総合情報基盤センターの各演習室が利用可能である。

(5) 自主的学修環境と満足度

「本庄地区には体育館が1つしかなく授業でほとんど使用しているため、学生の空き時間の使用は不可能である。学生は満足していない。」「平成16年度からLM自習室が設置

され、平日9時～17時まで開放されている。ただ、満足度についての調査はまだ実施されていない。」等の報告があった。

12-1-5 教育改善

(1) 教育の状況に関するデータ等の収集

(定期試験、解答例等の保存状況)

保存していないあるいは把握していないとする2つの部会以外は、保存期間は異なるが、保存している。

(2) 授業評価結果に基づく自己点検・評価の取り組み

ほとんどの部会が取り組みは各教員に委ねられており、部会では実施していない状況である。

(3) 評価結果に基づく教育の改善のシステム

ほとんどの部会が授業評価の結果は各担当教員に通知され、その改善は各教員に任されている状況にあり、部会としての取り組みはないとしている。

(4) 個々の教員の授業改善の取り組み

「板書を丁寧にする」「授業に関連したプリントあるいは数式を多く使用する部分等にプリントを配布する」「授業の終わりに感想文を書かせ、次回に回答する」「授業のスライドをホームページ上に公開し、復習の便に供した」「授業の進め方のスピードについてテンポよく講義を進めるように改善を試みた」「授業の最初にシラバスを配布して詳しく説明」「シラバスを改善した。シラバスをよく読んで、予習復習するように指導」「講義に興味をもち、その場で理解できるように、演習と質問を多くした」「講義ごとに小テストを入れて理解の度合いを確かめながら講義を進めた」「集団討論形式は好評につき、さらにいろいろな課題や手法を導入し、『授業にあきない、あきさせない形態』を考えていきたい」等教育方法や内容の改善について多くの報告があった。

(5) FD・SD活動

(FDに学生や教職員の意見が反映されているか)

「意見を反映させるシステムが確立していない」「部会会議で教員の意見を聴取している」の報告があった。

(FD講演会等)

「教養教育運営機構」、「部会主催」「各学部主催」「他の組織主催」の各FD講演会に参加しているが、各部会からの参加者は少ない。

(部会のFD活動)

「全体打ち合わせにおいて、授業方法や授業運営について討論した」「2名の教員が公開授業を行った」「不定期的にFD委員を中心に教育改善について議論している」等の報告がある。

(FD活動により授業が改善された例)

「ネット授業における評価の厳格化を図ることができ、またネット授業の放棄者が減少した」「FD講演会に参加して知った学生による授業評価を教育改善に利用する方法に取り入れることにした」「各教員はいくつかの授業改善を行っているが、それがFD活動の結果であるかどうかは分からない」「大学入門にて、家庭学習用の小テスト1回を行った」「ミニペーパーの効果を知り授業に取り入れ、学生の声を聞くようにした」等の報告があった。

(6) 優れた点及び改善を要する点

(改善を要する点)

「FD講演会への参加者が少ない等FD活動が低調であり、改善が必要である」等の報告があった。

12-1-6 その他の教育活動

「大学入門科目の授業の一環として新入生合宿研修を行い、心理専門職等に就いている卒業生を招き、勉強の仕方、将来の進路を考えさせた」等の報告があった。

12-2 国際交流・社会貢献の領域

12-2-1 国際交流の実績

第8部会の外国語部会において、ドイツでの海外研修(18年度の参加学生は本学からは9名:以下同じ)、韓国研修旅行(7名)、等が行われている。ただし、オーストラリアのラトロブ大学での語学研修(13名)は18年度からは留学生センターの授業に位置づけられた。

12-2-2 社会貢献(主として教育サービス)

(1) 生涯学習

(1-1) 公開講座

とくに開催されていない。

(1-2) 学外開放

「ネット授業『有明海学2』の1つとして実施した『有明海の線虫』の授業を学外者も受講できる形をとることにより、学外者に開放された」の報告がある。

(2) 正規課程外の学生

(科目等履修生)

いくつかの部会で受け入れている。

(短期留学生)

いくつかの部会で短期留学生、特別聴講生を受け入れている。

(3) 社会教育

(講演会 (一般市民対象))

教員の個人的な講演は多くなされているが、部会としては該当なし。

(4) 高大連携

(4-1) 高校生対象

該当なし。

(4-2) 高校教職員対象

該当なし。

(5) 施設・設備開放

教養教育運営機構として、教室等の貸し出しは行われている。

1 2 - 2 - 3 部会としての社会貢献の方針及び計画

すべての部会が、とくに部会として方針及び計画は定めていない。

1 2 - 2 - 4 社会貢献について改善するシステム

すべての部会が、とくに設けていない。

1 2 - 2 - 5 優れた点及び改善を要する点

「国際交流・社会貢献の領域における本部会教員の活動は低調である。これはこの方面の活動が学部に母体をおくものを中心に行われ、本部会を母体とした活動の必要性を各教

員が感じていないためと考えられる。今後、本部会としての活動の必要性の有無を含め、この方面の活動について部会会議等において議論する必要があると考えられる」「第8部会の教員は主として文化教育学部に所属しており、学部において既に英語やドイツ語の公開講座を開催している。また、一般市民を対象とした各種講演や高校でのジョイントセミナーなど、第8部会外で各種の社会・教育活動を行っている会員も多い。今後は教員の負担を考えながら、教育サービスという視点から第8部会としての公開講座を開設できるかどうか検討したい」等の報告があった。

1 2 - 3 組織運営の領域

1 2 - 3 - 1 部会の目的

(1) 部会の基本的な方針及び目標

ほとんどの部会が教育目標はホームページや授業概要に記載していると回答しているが、部会の基本方針や目標については、定めている部会とそうでない部会がある。

(2) 学生への周知

ホームページや授業概要等に明示して周知しているが、周知の程度については調査していない部会が多い。

(3) 社会への周知

ホームページに明示している。公表していない部会もある。

(4) 優れた点及び改善を要する点

改善を要する点として、「学生に周知され認識されているかどうか把握するための調査が必要である」「国際的コミュニケーション能力の向上という部会の重要な教育目標を非常勤講師全員と共有できるようにしたい」「高校での情報教育が進む中で、従来の情報処理部会の必要性について検討する必要がある」等があげられている。

1 2 - 3 - 2 部会の運営

(1) 部会長の選出方法

前任者から推薦された者につき、部会所属教員から異議がなかった場合は、その者を部会長候補者に選定している部会が多いが、ローテーションや選挙を行う部会もある。

(2) 意思決定の方法

部会長を議長とする部会会議を置き、必要に応じて開催されている。処理の簡単な事項については、部会長、教務委員、FD委員及び広報委員で構成する幹事会で検討し、結果を部会員にメールで配信し、周知させている部会もある。

(3) 部会内の役割分担等（部会内の委員等）

すべての部会内に教務・FD・広報の各委員が置かれ、意見聴取・調整が行われている。その他第8部会ではLM運営委員、CALLシステム委員及びリメディアル英語教育実施委員等が置かれている。

(4) 他の組織との関係

部会長は運営委員会に加わり、協議会の委任を受けた事項を審議している。他の委員は協議会に出席し審議を行っている。協議会が設置する委員会の委員を、部会会議で協議して選出している。機構長を補佐する委員等の推薦依頼があった場合は、部会会議で協議して推薦している。部会長は大学の方針、中期目標・中期計画及び年度計画を熟知して、その達成に向けて努力している。また、部会会議などで部会の教員に周知するように努めている。

(5) 優れた点及び改善を要する点

該当なし。

12-3-3 教員

(1) 教員組織編制の基本方針

すべての部会が新任教員等から所属の申し出があった場合は、原則として本人の意向を尊重しているが、それに加えて、各部会の状況により、「当部会員の専門領域が主題分野と重なるため、積極的に他分野の準会員を兼ねている」「部会員が少なく、非常勤講師に頼らざるを得ない」「部会員が少ないので、準会員の加入を要請している」「非常勤講師を削減する方向で努力している」「部会員全員が毎年講義を担当しており、その体制を見直す必要がある」等の状況がある。

(2) 教員組織活性化のための措置

すべての部会が本人の自発的な申し出に基づいて他の部会の教員を準会員として受け入れ、当部会の開設する授業科目の幅を広げることを検討しているが、中でも第2部会では、

総合型科目を設定し、他部会の教員の参加を呼びかけ授業形態の多様化、授業内容の重層化を図っている。

(3) 非常勤講師選考基準の運用状況

非常勤講師の採用が必要な部会では、選考委員会を立ち上げ、候補者の研究実績の審査、教授能力の有無等について評価し選考がなされている。また、教育実績も重視し、教育能力を判断するため必要に応じて、面接が行われている。

(4) TAの活用状況

TAを活用している部会では、第1部会は1名、第5部会は数学の演習・化学実験を中心に平成16年度に3名、17年度に7名、第8部会は18年度に英語で1名、第9部会はスポーツ実習で2名、第10部会は情報処理演習で、履修学生10名に対してTA1名、を採用している。

(5) 優れた点及び改善を要する点

優れた点として、「主題科目についてみると、それぞれの教員が専門の研究成果をいかに学生にフィードバックしようかと、工夫をこらして魅力ある授業にしていることが伺える」という意見がある。

12-4 その他

第8部会では、その他の活動として以下のような活動が行われている。

- (1) 早瀬はネット授業に関して、ネット授業推進委員会で授業評価に基づく分析を行った。対面授業の導入、試験の方法、評価について、定期的に会合を開き、協議した。
- (2) 平成17年度から、医学部2年次学生を対象として国際医療コミュニケーション科学・池田豊子教授の統括のもと、「医療英語」（選択コース）が開設され、18年度も実施された。

添付資料（添付資料集）

1. 「英語リメディアル教育プロジェクト」報告書
2. 「平成18年度医療英語」報告書
3. 「平成18年度医療英語学生評価」報告書
4. 「平成18年度医療英語スケジュール」エクセル・ファイル

1 3 初年次教育の課題

学生の学力の多様化によって、大学に入学した新入生に対して行う転換教育、導入教育及び補充教育（初年次教育と呼ぶ）の重要性が増してきている。教養教育運営機構では、転換教育と導入教育のために大学入門科目、補充教育のためにリメディアル教育（平成18年度は物理）を実施している。リメディアル教育については、LMSなどのeラーニングによる実施を検討している。（このために、機構のeラーニング教育実施委員会、eラーニングスタジオ、高等教育開発センターなどが連携している。）

1 3 - 1 大学入門科目

(1) 現状

大学入門科目は、教養教育運営機構の開設する教養教育科目として開設されているが、実際には、学部学科等毎にクラス編成され、当該学部学科等の教員が担当している。大学入門科目の検討のために、初年次教育委員会（学部教員に委員を委嘱）を設置している。

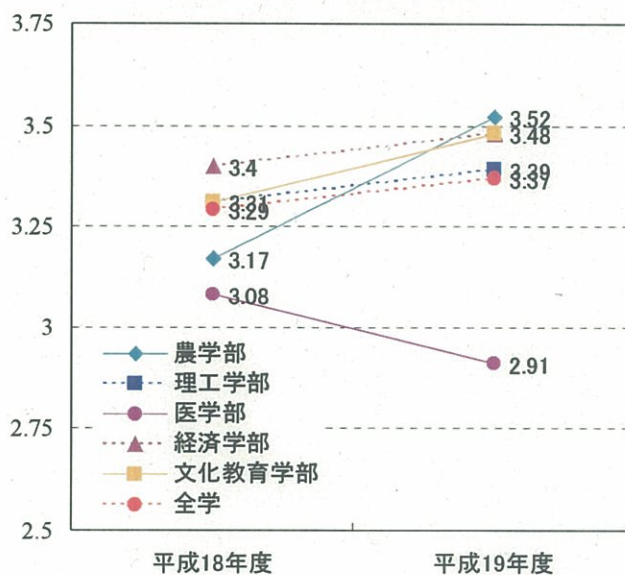
(2) 学生の評価

3年次の学生を対象にしたアンケート結果のうち、大学入門科目に対する満足度（5段階評価）については、平成18年度は平均3.3だったのが平成19年度には3.4となっている（表13-1-1）。学部別にみると、農学部の大学入門科目への評価が平成19年度には明らかに高くなっていること、医学部の評価が低くなっていることがわかる。

表 1 3 - 1 - 1 大学入門科目の満足度

| 学部 | 年度 | (高) | 4 ← | (中間) | 2 → | (低) | N | 未回収 | 平均 |
|--------|----------|-----|-----|------|-----|-----|----|-----|------|
| | | 5 | | 3 | | 1 | | | |
| 農学部 | 平成 18 年度 | 8 | 14 | 43 | 7 | 5 | 2 | 83 | 3.17 |
| | 平成 19 年度 | 24 | 36 | 51 | 9 | 5 | 6 | 41 | 3.52 |
| 理工学部 | 平成 18 年度 | 43 | 96 | 155 | 26 | 25 | 19 | 174 | 3.31 |
| | 平成 19 年度 | 59 | 90 | 167 | 31 | 18 | 12 | 194 | 3.39 |
| 医学部 | 平成 18 年度 | 7 | 17 | 59 | 13 | 5 | 19 | 35 | 3.08 |
| | 平成 19 年度 | 4 | 15 | 70 | 15 | 9 | 23 | 38 | 2.91 |
| 経済学部 | 平成 18 年度 | 20 | 44 | 63 | 14 | 6 | 3 | 160 | 3.40 |
| | 平成 19 年度 | 20 | 51 | 61 | 9 | 10 | 2 | 71 | 3.48 |
| 文化教育学部 | 平成 18 年度 | 30 | 56 | 91 | 25 | 12 | 9 | 61 | 3.31 |
| | 平成 19 年度 | 31 | 63 | 87 | 21 | 3 | 2 | 71 | 3.48 |
| 全学 | 平成 18 年度 | 108 | 227 | 411 | 85 | 53 | 52 | 513 | 3.29 |
| | 平成 19 年度 | 138 | 255 | 436 | 85 | 45 | 45 | 493 | 3.37 |

図：大学入門科目の満足度



13-2 リメディアル教育

13-2-1 リメディアル教育のニーズ

入学してくる学生の学修履歴や学修内容の多様化により、入学後の補充教育の必要性が高まってきている。教養教育運営機構では、リメディアル教育に取り組んでいるが、実施については、有志の教員に依存しており、組織的に取り組んでいるとは言い難い状況である。

リメディアル教育を最も望まれている科目は、平成18年度調査と同様、英語が顕著であるが、理科に関するリメディアル教育を最も望むとする回答の割合が平成19年度調査では大きくなっている。数学の需要は昨年度と変わらず、英語に次いで高いが、数学のリメディアル教育の実施は、協力者がなかなか得られないため難航している。

また、表13-2-1-2に示すように、リメディアル教育を最も望まれている理科の科目は、平成18年度、平成19年度のいずれの調査においても物理となっているが、物理や化学とする回答の割合は平成19年度調査では小さくなっている。生物のリメディアル教育を最も望むとする回答の増加が目立っていることから、生物についても、リメディアル教育の実施を検討する必要がある。

表13-2-1-1

リメディアル教育を最も望む科目

| 学部 | 年度 | 国語 | 数学 | 英語 | 理科 | その他 | N | 未回収 |
|--------|--------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 農学部 | 平成18年度 | 10 | 9 | 34 | 14 | 0 | 9 | 83 |
| | 平成19年度 | 10 | 14 | 32 | 35 | 0 | 37 | 44 |
| 理工学部 | 平成18年度 | 22 | 74 | 115 | 52 | 5 | 92 | 174 |
| | 平成19年度 | 19 | 77 | 95 | 43 | 2 | 118 | 217 |
| 医学部 | 平成18年度 | 1 | 7 | 19 | 15 | 0 | 77 | 35 |
| | 平成19年度 | 4 | 5 | 18 | 13 | 2 | 83 | 49 |
| 経済学部 | 平成18年度 | 9 | 32 | 61 | 2 | 4 | 39 | 160 |
| | 平成19年度 | 16 | 17 | 51 | 4 | 4 | 53 | 157 |
| 文化教育学部 | 平成18年度 | 27 | 20 | 75 | 16 | 6 | 67 | 61 |
| | 平成19年度 | 15 | 12 | 37 | 8 | 5 | 31 | 170 |
| 全学 | 平成18年度 | 69 | 142 | 304 | 99 | 15 | 284 | 513 |
| | 平成19年度 | 64 | 125 | 233 | 103 | 13 | 322 | 637 |

表 13-2-1-2

リメディアル教育を最も望む科目(理科)

| 学部 | 年度 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | その他 | N | 未回収 |
|--------|----------|----|----|----|----|-----|-----|------|
| 農学部 | 平成 18 年度 | 2 | 8 | 3 | 0 | 0 | 2 | 83 |
| | 平成 19 年度 | 11 | 10 | 16 | 0 | 1 | 14 | 120 |
| 理工学部 | 平成 18 年度 | 33 | 21 | 9 | 2 | 1 | 32 | 174 |
| | 平成 19 年度 | 26 | 13 | 10 | 6 | 2 | 51 | 463 |
| 医学部 | 平成 18 年度 | 3 | 2 | 12 | 2 | 0 | 47 | 35 |
| | 平成 19 年度 | 4 | 2 | 8 | 0 | 2 | 35 | 123 |
| 経済学部 | 平成 18 年度 | 1 | 3 | 2 | 0 | 0 | 17 | 160 |
| | 平成 19 年度 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 22 | 274 |
| 文化教育学部 | 平成 18 年度 | 9 | 5 | 1 | 0 | 3 | 24 | 61 |
| | 平成 19 年度 | 2 | 3 | 4 | 0 | 1 | 11 | 257 |
| 全学 | 平成 18 年度 | 48 | 39 | 27 | 4 | 4 | 122 | 513 |
| | 平成 19 年度 | 45 | 30 | 40 | 6 | 6 | 133 | 1237 |

図:リメディアル教育を最も望む科目の推移

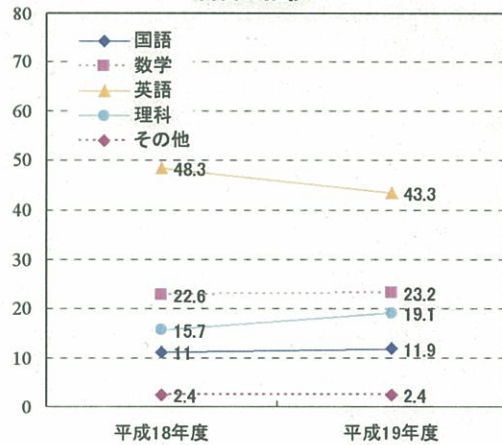
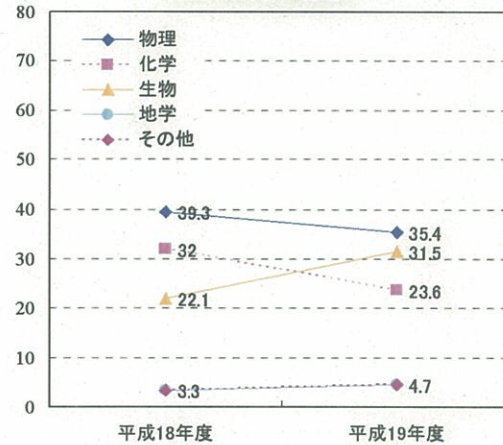


図:リメディアル教育を最も望む科目(理科)の推移



注) 数値は回答者数を基数とするパーセント値。

13-2-2 リメディアル英語教育

英語リメディアル教育実施委員会を設置し、英語の学力測定とそれに基づくリメディアル教育を平成17年度は実施したが、平成18年度は実施していない。学生の英語の学力を高めるために、実施する方向で検討を行っている。

13-2-3 リメディアル物理教育

リメディアル物理教育実施委員会を設置し、平成18年度新入生を対象に力学について実施し、高い満足度を得た。(資料「リメディアル物理教育実施委員会活動等実績報告書」平成18年度)

なお、平成19年には、高等教育開発センターと理工学部物理科学科が、LMSによるリメディアル物理教育教材の開発に関して連携することで合意している。

資料1 教員アンケート結果

教養教育運営機構評価委員会では、自己点検・評価活動の一環として、「佐賀大学教養教育に関する教員アンケート」（以下、「教養教育調査」と略記）を実施した。アンケートの対象、実施時期、実施方法、回収状況は、以下に示す通りである。

表1：教養教育調査の概要

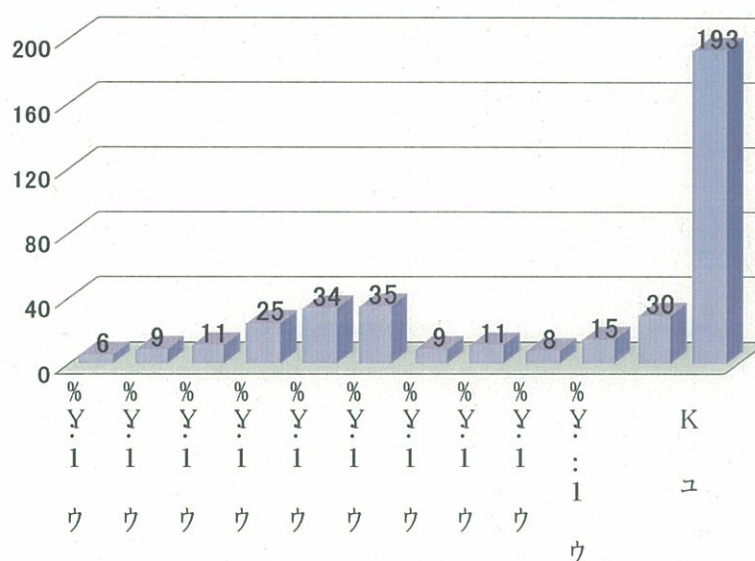
| | |
|------|---------------------------|
| 調査対象 | 教養教育運営機構の各部会に所属する教員 |
| 実施時期 | 平成19年8月 |
| 実施方法 | 自記式留置調査 |
| 回収状況 | 配票数=509、回収数=193、回収率=37.9% |

注) 学外への異動者については調査対象から除外。

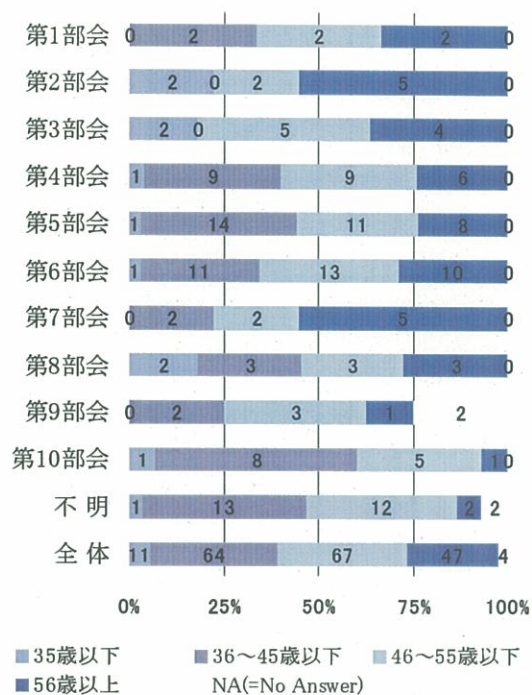
図表中の数値は、各回答カテゴリの度数またはパーセント値である（パーセント値の基数は総回答数）。図表中のNAは「無回答（No Answer）」を示す。また、各回答カテゴリ間に順序性のある設問については、平均値を示した（NAは計算から除外してある）。

なお、度数または平均値により表現できる回答については所属部会別、自由記述による回答は一括して掲載することにした。

1. 所属部会(図1)



2. 年 齢(図 2)



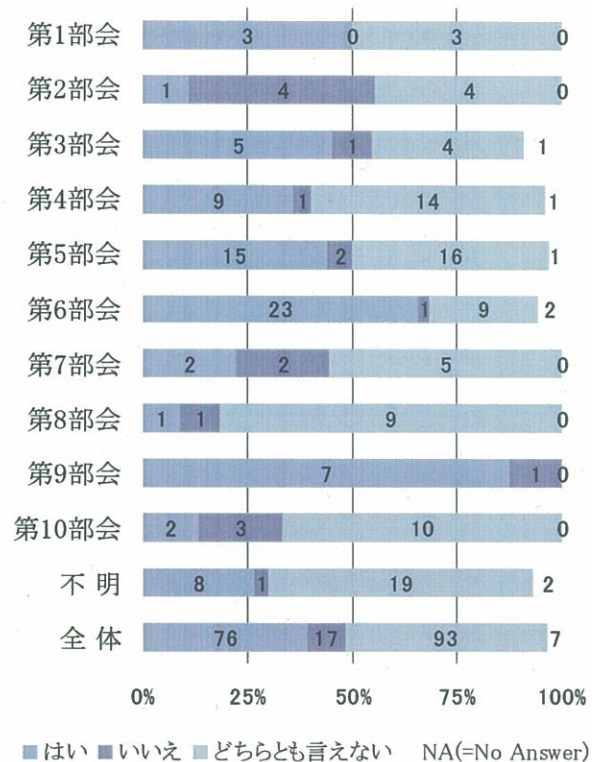
3. 担当した教養教育科目数(表 2)

| | 平成 17 年度 後学期 | | 平成 18 年度 前学期 | | 平成 18 年度 後学期 | | 平成 19 年度 前学期 | | 通 算 | |
|---------|-----------------|-------|-----------------|-------|-----------------|-------|-----------------|-------|------|-------|
| | Mean | SD | Mean | SD | Mean | SD | Mean | SD | Mean | SD |
| 第 1 部会 | 0.83 | 0.753 | 0.17 | 0.408 | 1.33 | 0.408 | 0.33 | 0.516 | 2.50 | 2.429 |
| 第 2 部会 | 0.33 | 0.500 | 0.56 | 0.726 | 0.22 | 0.726 | 0.56 | 0.726 | 1.67 | 1.323 |
| 第 3 部会 | 0.55 | 0.934 | 0.73 | 0.905 | 0.64 | 0.905 | 0.82 | 0.603 | 2.45 | 2.583 |
| 第 4 部会 | 0.20 | 0.500 | 0.36 | 0.569 | 0.28 | 0.569 | 0.48 | 0.653 | 1.16 | 1.700 |
| 第 5 部会 | 0.66 | 0.682 | 0.56 | 0.664 | 0.63 | 0.664 | 0.68 | 0.687 | 2.42 | 1.524 |
| 第 6 部会 | 0.40 | 0.482 | 0.61 | 0.595 | 0.41 | 0.595 | 0.56 | 0.604 | 1.67 | 1.289 |
| 第 7 部会 | 0.33 | 0.500 | 0.33 | 0.707 | 0.56 | 0.707 | 0.44 | 0.726 | 1.67 | 2.236 |
| 第 8 部会 | 1.18 | 1.079 | 1.73 | 1.104 | 1.55 | 1.104 | 2.00 | 1.183 | 6.18 | 4.045 |
| 第 9 部会 | 1.00 | 0.535 | 0.75 | 0.707 | 1.00 | 0.707 | 0.88 | 0.641 | 3.38 | 1.847 |
| 第 10 部会 | 0.60 | 0.632 | 0.73 | 0.594 | 0.73 | 0.594 | 0.87 | 0.640 | 2.93 | 1.981 |
| 不明 | 0.13 | 0.346 | 0.10 | 0.305 | 0.23 | 0.626 | 0.30 | 0.702 | 0.53 | 1.224 |
| 全 体 | 0.48 | 0.659 | 0.55 | 0.721 | 0.56 | 0.718 | 0.65 | 0.777 | 2.06 | 2.232 |

注 1) SD は Standard Deviation (標準偏差)。

注 2) N はケース数。

4. 現在の分野構成は適切だと思いますか。(図3)



分野構成に問題があるとすれば、それはどのような点ですか。

- ・※「適切」かどうかの判断基準はどのように考えていますか？(アンケート作成者への質問)
- ・教員1人あたりの、1年あたりの開講科目数が不公平。
- ・部会所属教員の人数のアンバランス
- ・1、2部会の合体が適切
- ・より今日的なテーマや社会や学生のニーズにあった構成が必要
- ・分野ごとの教員数のばらつき。
- ・自分の場合、単に語学ができるという理由で外国語部会に入っているが、実際には語学はオマケで国際政治(国際関係論)が専門だ
- ・退職教員の補充が行なわれなかった結果、各分野の学問的広がりが失せ、或は「所分野剣出」(ママ)の基礎が崩れ、旧来の専門分野の寄集め状況が生れている。さらに問題な点は、かつての教養教育批判の最大の矛先であったマスプロ教育が容認されている。教養教育の要は端的には幅広い人材(教員数)にある。
- ・分野ごとに偏りがある。医学部も全員出勤すべき。
- ・どういう観点から「適切」性を判断すれば良いか。設問の趣旨不明。教養改組の視点であれば、そ

の趣旨が伝わるように設問設定すべき。

- ・学部に対応した形式にした方がよい
- ・自分の専門領域(研究分野)とかけ離れている
- ・第10部会については専門でない教員も含まれているのに、構成人員が少ないため毎年、講義を行わなければならない状況にある
- ・各学部学生のニーズに適合していない。十分なニーズ調査が為されていない。
- ・臨床系教員の負担が大きすぎる。臨床を行い、教育もこれ以上増えると臨床が行えなくなる
- ・分野構成そのものの理解がない
- ・部会の存在意義が不明です。
- ・現在の教養教育科目は総花的で、カリキュラムが構成されていない。たとえば、人交、社会、自然科学を学ぶことのできる教養教育としてのカリキュラムが必要。
- ・悪平等主義から、理工等の先生による専門の入門科目のようなものが多く見られ、果してそれらは教養科目か？元来、教養とは何か？を再考する必要があるのでは？(全教員が1科目持つ？という変なシステムは学生にとって何の教養の足しになっているのか？
- ・分野の境界が不明瞭な部分があること。所属学部の偏りが少なからずあること。
- ・全員が必修の言語系と、どれかを履修すればよい他の分野が混在している

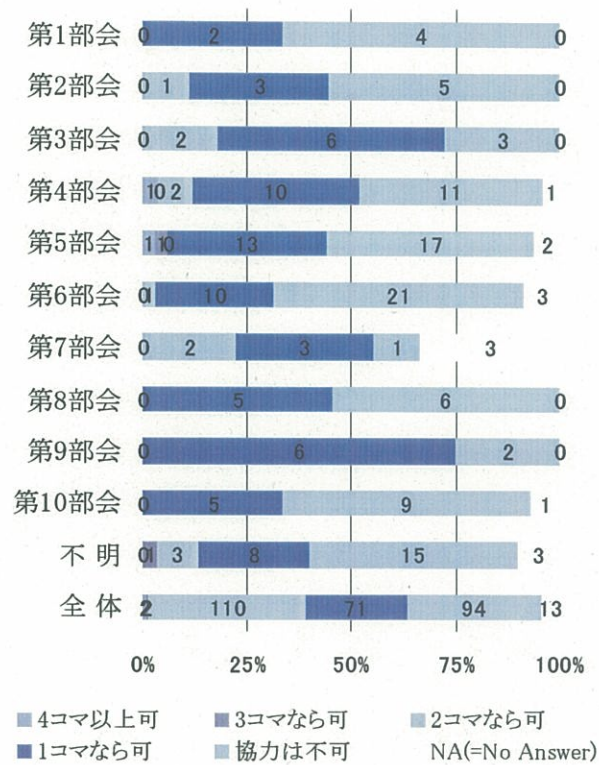
5. 部会教員会議の開催頻度はどの程度が適当だと思いますか。(図4)

| | N | Mean | SD |
|-------|-----|------|-------|
| 第1部会 | 6 | 2.33 | 1.211 |
| 第2部会 | 9 | 3.11 | 1.537 |
| 第3部会 | 9 | 2.44 | 1.590 |
| 第4部会 | 23 | 1.78 | 1.278 |
| 第5部会 | 31 | 1.74 | 0.773 |
| 第6部会 | 33 | 1.82 | 0.950 |
| 第7部会 | 9 | 3.00 | 1.000 |
| 第8部会 | 10 | 2.20 | 1.135 |
| 第9部会 | 8 | 2.38 | 0.916 |
| 第10部会 | 15 | 1.47 | 0.516 |
| 不明 | 19 | 1.50 | 0.866 |
| 全体 | 172 | 1.96 | 1.106 |

注1) SDはStandard Deviation(標準偏差)。

注2) Nはケース数。

6. 新規に開講される授業科目を担当する機会があるとしたら、ご協力いただくことは可能ですか。
 (図 5)



7. 以下の学生のニーズについて教養教育を通して満たすべきと思われるものを○で囲んで下さい。

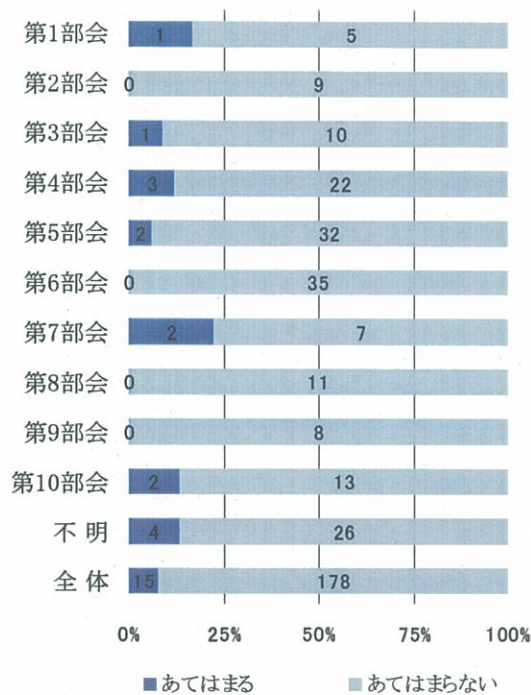


図 6a：専門的な知識や技能

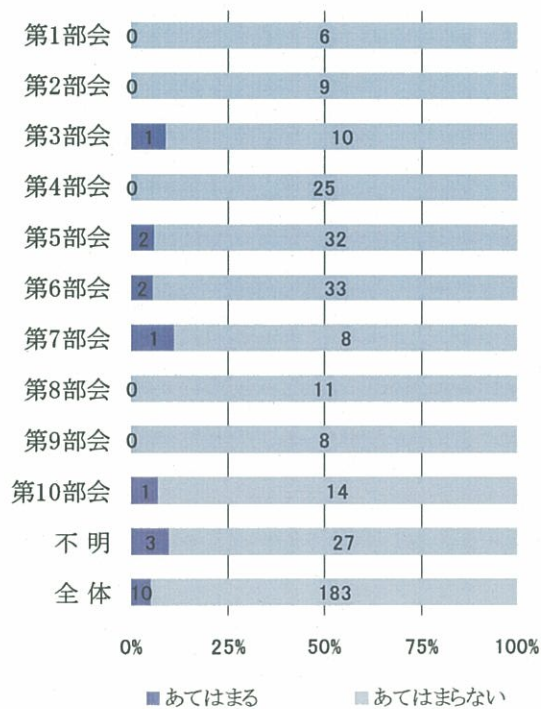


図 6b：就職に結びつく技能

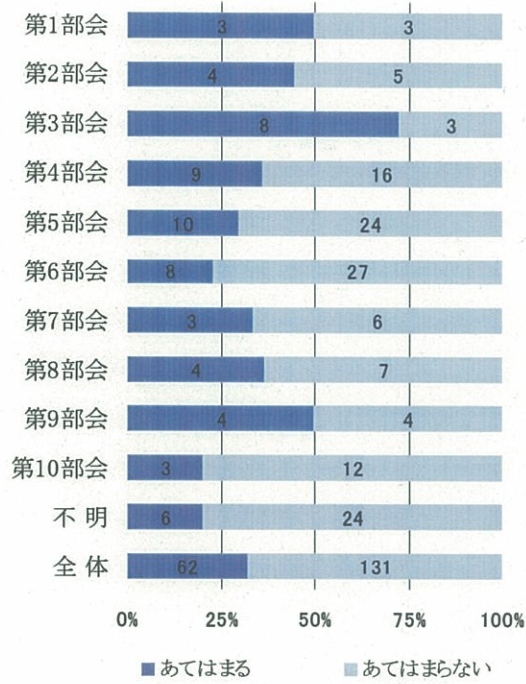


図 6c : 分析・批判する能力

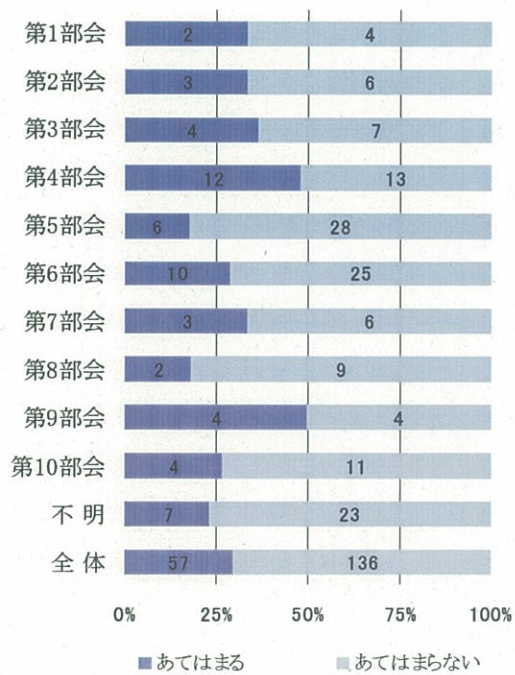


図 6d : 社会に適応する能力

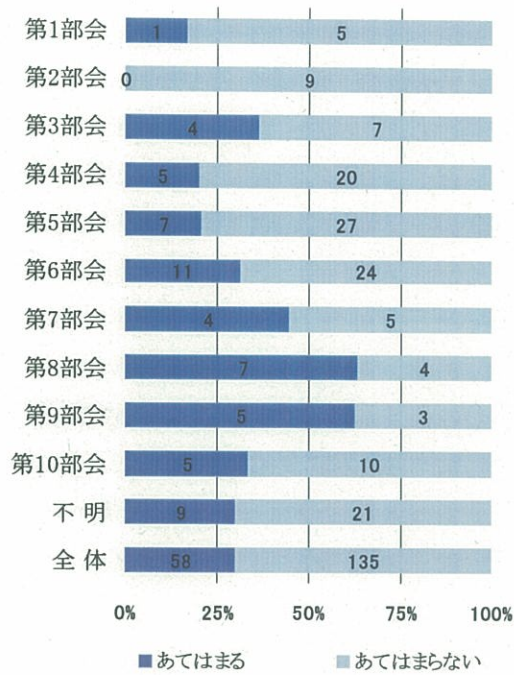


図 6e : コミュニケーション能力

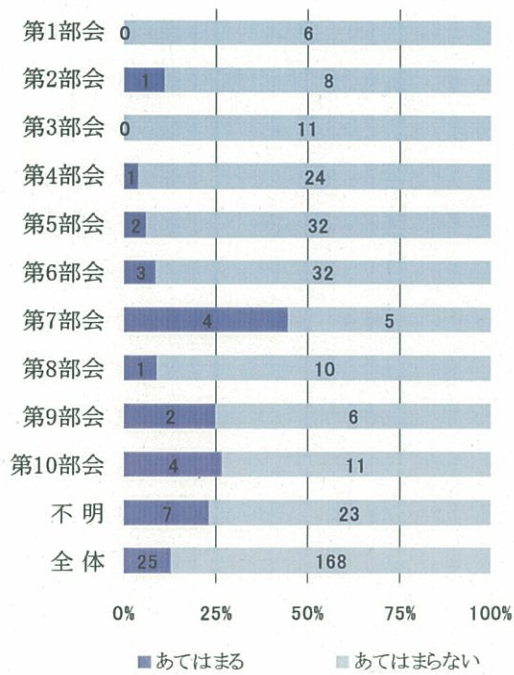


図 6f : プレゼンテーション能力

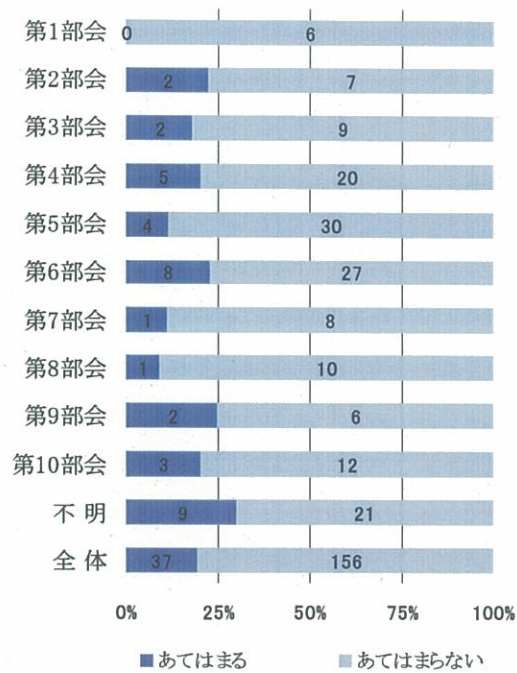


図 6g : 資料や報告書を作成する能力

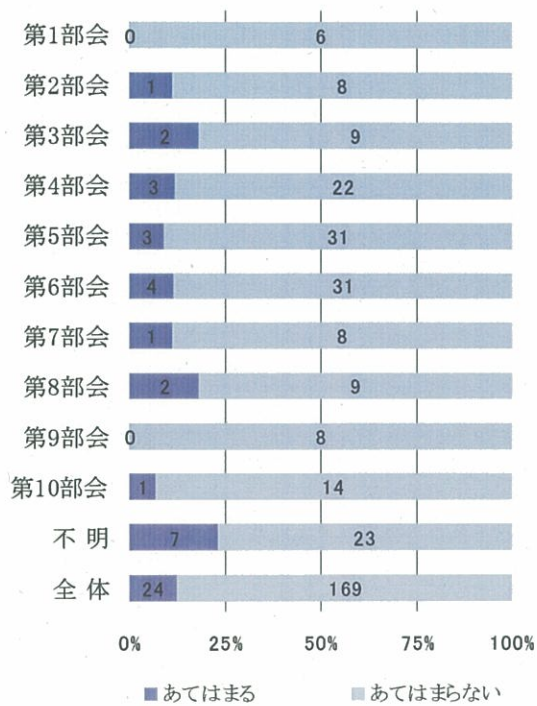


図 6h : 創造性

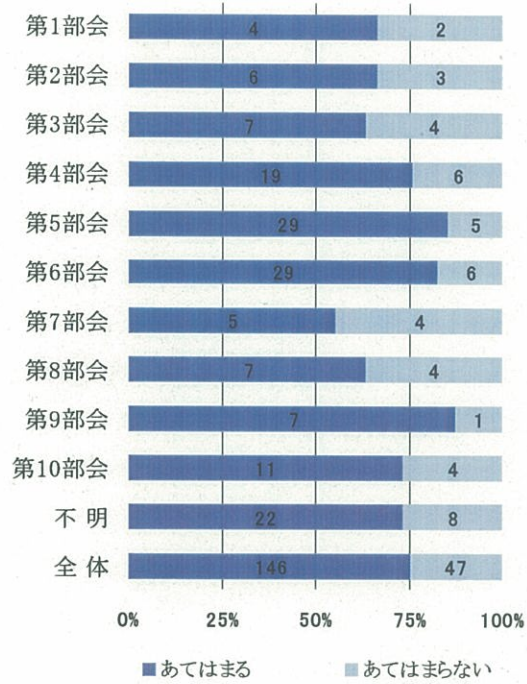


図 6i : 一般教養

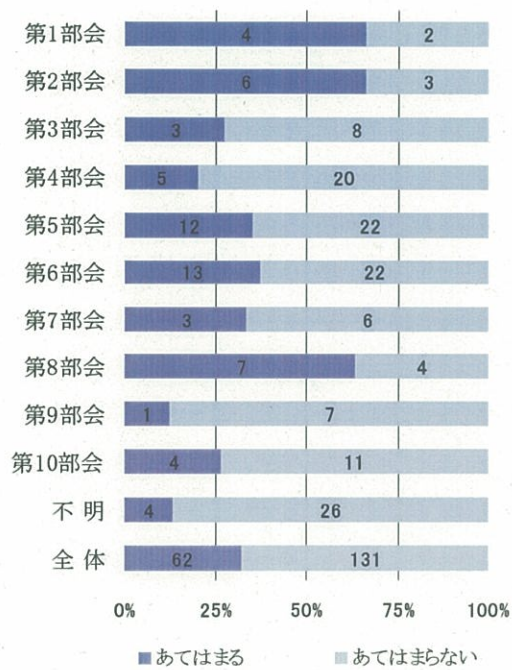


図 6j : 異文化への理解・知識

8. 教養教育のFD活動について、何かご提案があればお書き下さい。

- ・アンケートが似たようなものが重複して行われたりしている。これをsimpleにしてほしい。
- ・FD活動は他人の話を書くことではなくて、各教員による教育改善活動の実践を中心とすべきだと思います。
- ・主題科目は、その授業内容が多様であるので、「教養」というくりでのFD活動の内容は思いつかないが、語学等の共通的な科目は教育目標を明確にし、それを達成するための組織的なFD活動を実施し、教育水準の向上と標準化に努めていただきたい。
- ・FD活動とは認められない。PDCAサイクルが全く見えない。口ぬぐい的自己評価しかしてない。
- ・教員相互の授業見学をもっと行う。
- ・各自の思うところを地道にやればよい。
- ・各自の思うところを地道にやればよい。
- ・教養教育と専門教育の違いを考える。
- ・授業アンケートをもっと活用し、個々の授業の改善を図るべき
- ・学生にやる気を出させる授業、講義方法について。高校のような授業をすることの妥当性について。(講義ではなくて)
- ・他の部会にも外国語の上手い教員がいるのだから、こういう教員にFDを施して外国語の授業を担当させるのが良い。
- ・他国の教養教育のすぐれた実践例を紹介してもらう機会がほしい。テキスト作成等のための補助金がほしい。部会ごとにもっと方向性についての議論が必要ではないか。
- ・教養・専門を問わず、「学生FDの日」(仮)を創設し、授業評価等を一括して行うべき。毎回の講義時間の超過をさける工夫を考慮されたい。
- ・精力的に活動されているので、頼もしく思います
- ・以前、京大でのFD研に旅費付の出張で(教運機構の費用より)参加できた。この時、「旅費等は出ますか」と問い合わせたら「出る」との回答であった。問合せの前に「旅費等も出る」と告知してくれば、参加者も増えるのではなからうか。
- ・教育方法教育評価について
- ・成人教育の理念が明確にわかるFD活動を期待します。
- ・基本的には教養教育は必要ない
- ・何の略でしょうか？知らないので答えることができません。すみません
- ・単に講演会を開催するばかりでなく、優れた取り組み(授業)を実際に参観させる(学内・外)のはどうでしょうか？
- ・具体的な教育目標を教員に徹底させるのが第1ではないか。
- ・もう少し参加人数を増やす(議論が活発におこなえる)工夫が必要ではないか。FD活動に参加出来る機会をもっと増やすこと。
- ・ティーチングポートフォリオを紹介するFD講演会を開催するなどが考えられる。

・各部会における活動を報告し、他の部会も含めて教養教育について議論する場があまりないように思います。FDは、そのような所から始めるべきではないでしょうか。

9. 現在の教養教育の問題点について、ご意見があればお書き下さい。

・広く一般教養を受ける傾向がない(体制的には可能であるが学生選択の自由度とその意図が明確でない)。部会内の科目群が整理されていない。

・大学での教養教育は、それまでの中学、高校での教育を補充するものでありたい。つまり、十分には時間をかけられなかった、問題点の発見、疑問の設定、それらの分析や思考、論理構築等を養えるものでありたい。

・フィロソフィがはっきりしていない・授業のバイキング形式のようだ

・教員間のコミュニケーションがとれていない。・その結果、各教員がばらばらに活動しており、全体としての統一感がない。・教育に努力している先生に対して、何の評価もされない(個人評価はあるが、教育に関しては機能していない)

・学科内では他の授業との関係で教養教育の担当がわり振られているため、ここ数年は、教養教育の担当をしていません。近いうちに、また教養教育の担当をする予定ではありますが、第5分野では、すでに担当予定科目が有りますので、6の間の「新規に開講」ということは、無理かと思えます。

・無責任体制。教育目標が不明確。分野間科目数の不均衡。

・①「哲学」の講義がわずか1コマしかないのは重大欠陥です。②「メディア・リテラシー」に関する授業が重要と思います。③カリキュラム全体を見直すための討論、ワークショップが必要だと思います。

・担当があたかもボランティア的である。「協力」するものではなく、(読み取り不能)分の分担をするのが当然。各部局単位が専任をもって担当をアレンジ(その部局の教育活動として)すべきである。もっと言えば、教員人事を行う際、教養教育を分担できる人材を登用すべきだ。

・教養教育のビジョンが見えない講義が大多数。荒療治として、一度教養教育を4年程停止し、専門教育に徹したら、必要な教養教育が見えてくると思う。

・外国語科目の英語に関して、1単位毎に内容を定め体系的学習を教授すべき！・主題科目に関して文系と理系科目を完全クロス履習とすべき！

・私の部所は教員が1名なので、授業を開講するにも教養教育科目として、開講するしか方法がありません。卒研究生をとったりとか大学院生をとったりできるシステムが欲しい。産学官連携機構 佐藤三郎

・共通的な基礎教育としての位置付けがあいまいと感じます。

・共通的な基礎教育としての位置付けがあいまいと感じます。

・教養教育におけるポリシーをきっちりすることが大切と思う。

・(1)部会によって部会員数に差があり、その分教養教育に対する参加度に温度差がある(2)運営機構には人事権がないため、教養教育に必要な人材が、学部の意向次第で充足されないおそれがある。(3)法人化後、非常勤削減によって教養教育の質の確保が困難になりつつある。これ以上の

削減は教養教育の存続そのものを危うくしかねない。(たとえばコミュニケーション能力の養成を重視すると言いながら、通常の英語クラスでは50人を越えるクラスが今だに多い)

・情報基礎演習 I を担当していますが受講生が毎年60~70名に達しており、パソコンの教育ができるような人数ではありません。受講生1人1人に目が届かず、理解度を把握することも十分できません。せめて1クラス40人程度になるように、クラス編成を考え直して下さい。

・専任教員がいる責任部局にすべき・より実践的な科目が欲しい・大学教育、とくに学部教員の根幹と位置づけ、大学全体でとりくむ必要がある。教養教育を失敗すると、専門教育もうまくいかない

・外国語科目について、どの程度のレベル、到達度を目指すべきなのか、担当教員の判断にゆだねられている部分もありますが、常に迷うところです。

・全教員が教養科目を担当するのではなく、学生本位に質の良い、必要な授業を提供するようにすべきである。

・専門教育との連続性

・最初に全学教育を考えた目的とはかけはなれているのではないのでしょうか。現在は何のための教養教育かわかりません。改革するたびに負担が大きくなるのは教養教育も同じです。

・着任初年度でもあり、今後適切に貢献していきたいと思います。

・教養のない教員が教養教育をやるのは土台、無理な話である。現在の教育は一旦やめて、いくつかの履修コースを設定。これを学生に選択させるのが専門との絡みからも教養教育の実を上げると思う。例えば、医者になる上で履修が望ましいコースを各部分から選択してそれらの組に合わせを示すと、100~300のパターンは出来るだろうから、各パターンに1人の割合で履修させることは可能であろう。

・開講時間帯の制約、制約がなければ6. で4(1コマ)を選択

・10部会が、学部と教養教育のどちらにも属しているようで教員の確保等難しい運営となっている。

・私自身、学部教育は4年間すべて教養教育にあててもよいと考えている。教養をより強化してほしい。(専門のほうが大事。という意識が教員にも学生にもあると思われる。意識改革が必要ではないか。教養の専任教員はやはり相当数必要ではないか)4年間教養だけを学ぶコースを設けてもよいのでないか。(大学院進学者には3年次の飛び級制を設ければより有効ではないか。)

・文系については受講者数が多すぎると思います。企画型の科目が文系にもっとあってもいいのでは(現在の社会で学生に学んでほしいテーマを設定して)

・専任教員、部局の不存在による「質の保証」の停滞。・教養教育の理念の不在と表裏一体の「責任部局」の不在。・「ゆとり教育」世代の教養力・常識力のなさへの十分は認識欠如。

・重視すべきと考えるが、教員の担当がふえすぎると結局、専門科目のような難易度の高いものか単なるお話のようなレベルのひくいものになってしまいがちである。

・各学部にも所属する教員にとって教養教育の授業を担当することは「協力」であり、一定のルール(例えば2年に1度担当)により「負担する」ものになっている。そこには教養教育に対する意欲が生まれる素地はほとんどないのが実情になっている。教養教育を各学部が出前する体制は、退職者のポスト不補充傾向により限界にきている。これに対応するのは、責任部局による教養教育のコア授業の提

供体制の確立と各学部の提供授業の大幅な削減を実現させることしかないであろう。

・全学出動式に問題あり。さらに、全学出動といいながら、実際にそうでないのはさらに問題。学部責任方式に変えるべきである。

・大学入学後、早期に教養科目の受講を終了させ、3年、4年次には、専門科目に集中させるべき。現状では、学部の専門科目のカリキュラムに大きな支障が出ており、学生の専門的知識のレベルの低下を招いている。また、開講科目数も、大幅に絞って良いのではないか？

・全教員が担当していない。・担当教員が不足している分野や科目がある

・現在開講されている科目の多くは専門の講義を易しくした様なもので体系的に教養を身につけるようにはなっていない。哲学、倫理、宗教など大学でしか学べない教養科目をきちんと開講すべきである。

・4.に関連して:各部会員の専門によって所属部会が決まっているためにある程度は仕方ないとしても、現在の各部会の構成人数はバランスを欠いている。一度、分野の組み直しを含めて、見直す時期ではないかと思う。

・自分の学部以外の分野の科目を中心に学部で教わらない一般教養をより多く学習するような、しくみがあってもよいかと思う。

・「特定の分野を8単位履習」というルールは混乱のもととなり、効果が明らかでないので廃止すべき。「全教員が2年に1回半期担当」というルールは守られているとは思えない。強力に「平等化」すべきだ。

・私の担当科目は受講生約180名です。人数が多すぎるのが問題点です。

・鍋島の学生は本庄での受講に何のメリットを感じていないようだ。むしろ不便さえ感じている。鍋島で受講できる教養教育を考えるべき。

・医学部から本庄に行くのは、時間の無駄です。卒業前に、社会で必要な教養を学ぶべきであり、1、2年生には必要ないでしょう。

・専門分野に関連する分野について(社会学、文学、物理学等)、放送大学で提供しているような教養教育を提供して頂きたい。

・自己点検・評価において、本庄開講が高評価扱いされている。本庄であろうが鍋島であろうが、評価点は平等にすべきである。そうしないと、鍋島開講の主題科目がなくなってしまう。高学年生の登録優先は下学年生の登録を不当に圧迫しているように思われる。登録許可されても登録しない者、登録しても欠席過多の者(中には全欠席もある)の大半は4年生や過学年生である。許可されれば登録し、登録したら出席する者の多い下学年生の登録が阻害されないような運営が望まれる。

・女学生の多い当大学においてjunターに関する科目が少くないように思います

・高校でしているような英語や基礎的教育は必要ない

・部会学の連絡がなされているのか？です。諸事情を考えるとより多忙となるのはつらいので積極的なかわりはさけてきましたが呼びかけがあれば協力はやぶさかではありません

・病院の診療に携わっている教員にとっては、負担が大きい。

・医学部なので現状がよくわからない。

- ・すみません。何のアンケートなのかわかりませんでした。
- ・学部教育に比べて、教養教育の責任体制があいまい。たとえば「質の向上」を見ても、全教員、全学生がその対象となり、それは佐賀大学全体の教育にかかわるからである。
- ・大学教育全体として教養教育の位置付けが不明瞭で軽視される傾向にある。全人教育(人格教育)を行える唯一の場であるのもっと社会性、総合性を重視したカリキュラム構成すべきである。専門教育の延長ではないと思う。もっと工夫が必要。
- ・教員が全体像を認識できていない。
- ・JABEE関連学科との関係をより密なものにして欲しい。
- ・専門領域にいる教員は、教養教育に関心がない(学生の学部が異なるなどのため)。そこで、定年した教員に教養教育の非常勤にする。(手当は通常の半分位)定年教員は経験もあり、時間の余裕もあるので、大学の方針さえしっかりしておれば、それにそった授業が可能(自分がその定年教員に当たるので、説得力はないが…)
- ・専門と同等の講義が行われている実例がある。
- ・単刀直入に言えば「理念に乏しい」と感じる。あるいは、「高い理念を掲げている」から実質が乏しくなるのだろうか。理工系の学生が第5～6分野を選択した場合、文系科目に触れる機会がなくなってしまう。現在、文理融合と言えながらそれを妨げるルールはなく、結局、専門科目でも学ぶ内容を安易に受講している雰囲気を感じる。
- ・教える内容のレベル設定が現状(文系、理系一緒)では難しい。教員の専門性から、教養教育でも対象学生の理系、文系の区別、それに合わせた教育内容設定をすることがベターと思います。
- ・教員が、授業をしても、しなくても、何も評価されない。評価されなければ、当然授業をしたくないのは、あたりまえです。
- ・「カリキュラム全体の内容」検討を更に進める必要があるのではないか。
- ・教員の専門によって科目が決められているので、科目の内容に片寄りがある。
- ・受講人数を全体的に減らすべきかと思います。平成18年の私の授業では200名もいました。
- ・理事、シニア教員の担当科目を設定し、科研費採択代表者の授業への負担を軽減願いたい。
- ・現在は、悪平等主義のせいで、全教員が(何か1つ)1科目(最低2年に1回)持つシステムが取られている。がしかし、内容は何ら検討していない、つまり教養科目かどうか?のチェックは全く行われていない。したがって、半分近くの学生が常に放棄する状態になるのではないのか?他大学では、やはり教養ポストを再集積し、部局を作り、きちんと積任のとれる教養教育体制を作り直していると聞いた。やはり、本来そうすべきだったのではないのか?(ここでも)、今は全く無積任体制そのものである!!
- ・学生同士の交流の場が少ない。・自分で努力して獲得するのではなく、「与えられるものだ」と学生自身が思っている。
- ・基礎学力の低下防止策が必要かもしれない。1年生から教員とのふれ合いや研究室の研究ふんいきを知らせる場が必要。教室での講義からの脱却が必要。
- ・無責任なボランティア組織のようにになっている。責任体制について見直しが必要に思われる。

- ・学生の所属が多岐にわたる。掲示、メール等による周知に対する学生の応答期限を定めてほしい。
- ・元の教養部の教養教育と比較して何が良くなったのか、何が悪くなったのかの総括から始めるべきではないでしょうか。また、高等教育開発センターの役割が不明なので、大学の教養教育あるいは専門教育を充実したものにしていくために、どのような役割をしていくのか、どのように学内の他組織と連携していくのかについて議論してもらいたいと思います。
- ・
- ・理系にとって体育や芸術が教養とは思えない。各自が自習すればよいような内容まで科目となっていることはおかしい。
- ・1クラス人数が多過ぎて教育効果が上がらない。多くても100名以下にすべき。

資料2 学生アンケート結果

全学的に実施された共通様式によるアンケート結果のうち、特に教養教育に関連する下記の9項目に対する回答の分布状況を示す。調査の対象は、平成18年度及び平成19年度の3年次の学生である（実施時期、回収率等の実査に関する詳細については、国立大学法人佐賀大学大学教育委員会・高等教育開発センター編『平成18年度佐賀大学学生対象アンケート報告書』及び同『平成19年度佐賀大学学生対象アンケート報告書』を参照されたい）。

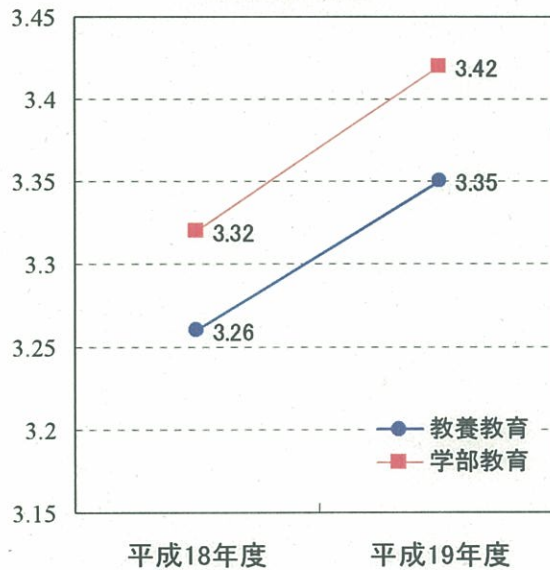
1. 教育施設、設備、機器等は十分だと思いますか。【問3】
2. 授業について、満足していますか。【問5】
3. 授業内容は、シラバスに記載された学習目標に即していましたか。【問11】
4. 以下の教養教育科目の開講数は適切だと思いますか？【問12】
5. 教養教育科目の内、主題科目の選択は希望通りにいきましたか【問13】
6. 主題科目の選択が希望通りに行かなかった場合の対応は、どうしましたか。【問14】
7. 最も望む外国語科目（英語以外）は何ですか。【問15】
8. リメディアル教育を最も望む科目【問17】
9. リメディアル教育を最も望む理科の科目【問18】

1. 教育施設、設備、機器等は十分だと思いますか。【問3】

| 学部 | 年度 | (高) | | (中間) | | (低) | N | 未回収 | 平均 |
|--------|--------|-----|-----|------|-----|-----|----|-----|------|
| | | 5 | 4 ← | 3 | 2 → | 1 | | | |
| 農学部 | 平成18年度 | 15 | 20 | 25 | 11 | 5 | 3 | 83 | 3.38 |
| | 平成19年度 | 21 | 45 | 42 | 15 | 8 | 3 | 38 | 3.43 |
| 理工学部 | 平成18年度 | 53 | 103 | 135 | 47 | 26 | 12 | 174 | 3.30 |
| | 平成19年度 | 60 | 128 | 123 | 49 | 13 | 15 | 183 | 3.46 |
| 医学部 | 平成18年度 | 13 | 29 | 43 | 18 | 8 | 11 | 35 | 3.19 |
| | 平成19年度 | 17 | 24 | 46 | 21 | 10 | 19 | 37 | 3.14 |
| 経済学部 | 平成18年度 | 20 | 52 | 47 | 21 | 10 | 2 | 160 | 3.34 |
| | 平成19年度 | 22 | 47 | 49 | 22 | 11 | 3 | 148 | 3.31 |
| 文化教育学部 | 平成18年度 | 26 | 58 | 69 | 48 | 16 | 7 | 61 | 3.14 |
| | 平成19年度 | 15 | 79 | 67 | 27 | 16 | 4 | 70 | 3.25 |
| 全学 | 平成18年度 | 127 | 262 | 319 | 145 | 65 | 35 | 513 | 3.26 |
| | 平成19年度 | 135 | 323 | 327 | 134 | 58 | 44 | 476 | 3.35 |

| | 平成18年度 | 平成19年度 |
|------|--------|--------|
| 教養教育 | 3.26 | 3.35 |
| 学部教育 | 3.32 | 3.42 |

図1:教育施設・設備・機器等の満足度の推移

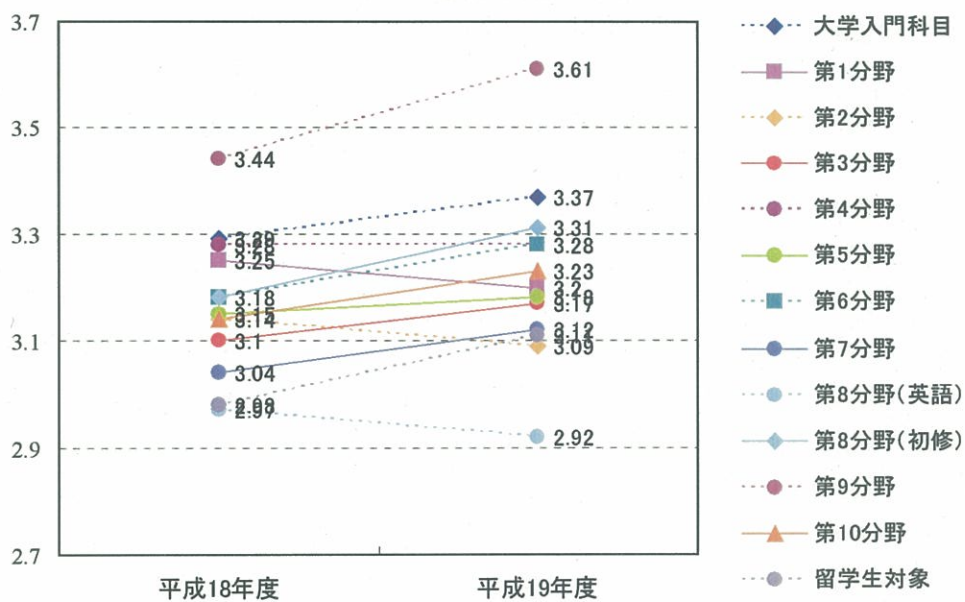


教養教育関係の設備等の満足度は、学部と比較してやや低いものの、平成18年度にくらべ、平成19年度は教養教育、学部教育のいずれについても満足度が上昇している。

2. 授業について、満足していますか。【問5】

| 科目 | 平成18年度 | 平成19年度 |
|----------|--------|--------|
| 大学入門科目 | 3.29 | 3.37 |
| 第1分野 | 3.25 | 3.20 |
| 第2分野 | 3.14 | 3.09 |
| 第3分野 | 3.10 | 3.17 |
| 第4分野 | 3.28 | 3.28 |
| 第5分野 | 3.15 | 3.18 |
| 第6分野 | 3.18 | 3.28 |
| 第7分野 | 3.04 | 3.12 |
| 第8分野(英語) | 2.97 | 2.92 |
| 第8分野(初修) | 3.18 | 3.31 |
| 第9分野 | 3.44 | 3.61 |
| 第10分野 | 3.14 | 3.23 |
| 留学生対象 | 2.98 | 3.11 |

図2: 授業満足度の推移



満足度の平均値は、殆どの科目・分野で3を上回っており、平成19年度は平成18年度にくらべ、概ね改善傾向にある。なお、第9分野がやや高く、英語がやや低くなっている点は変わらない。

3. 授業内容は、シラバスに記載された学習目標に即していましたか。【問 11】

| 科目 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 |
|--------|----------|----------|
| 主題科目 | 3.36 | 3.34 |
| 外国語 | 3.31 | 3.39 |
| 健康スポーツ | 3.45 | 3.62 |
| 情報処理 | 3.36 | 3.41 |

図3: 学習目標と内容の
対応度の推移

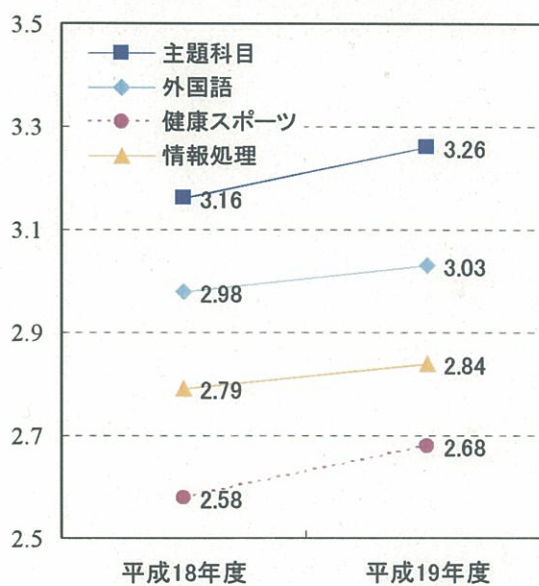


どの科目についても平均値が 3 を上回っていることから、概ねシラバスに記載された学習目標に沿った内容になっていると考えられる。また、健康スポーツでは平成 19 年度は平成 18 年度にくらべシラバスの学習目標と授業内容の対応に改善がみられる。

4. 以下の教養教育科目の開講数は適切だと思いますか？【問 12】

| 科目 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 |
|--------|----------|----------|
| 主題科目 | 3.16 | 3.26 |
| 外国語 | 2.98 | 3.03 |
| 健康スポーツ | 2.58 | 2.68 |
| 情報処理 | 2.79 | 2.84 |

図4: 開講数の適切さの推移

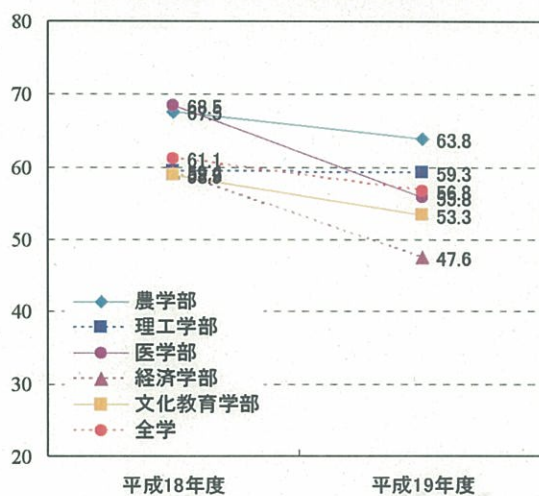


主題科目と外国語を除けば、平均値が 3 を下回っていることから、学生は教養教育科目の開講数に必ずしも満足しているとは言えない。ただし、健康スポーツ、情報処理についても、平成 19 年度は平成 18 年度にくらべると、「適切だと思う」とする回答が増えている。

5. 教養教育科目の内、主題科目の選択は希望通りにいきましたか【問 13】

| 学部 | 年度 | はい | いいえ | N | 未回収 |
|--------|----------|-----|-----|----|-----|
| 農学部 | 平成 18 年度 | 52 | 25 | 0 | 83 |
| | 平成 19 年度 | 81 | 46 | 2 | 43 |
| 理工学部 | 平成 18 年度 | 214 | 146 | 8 | 174 |
| | 平成 19 年度 | 213 | 146 | 8 | 204 |
| 医学部 | 平成 18 年度 | 76 | 35 | 12 | 35 |
| | 平成 19 年度 | 67 | 53 | 6 | 48 |
| 経済学部 | 平成 18 年度 | 87 | 60 | 1 | 160 |
| | 平成 19 年度 | 68 | 75 | 1 | 158 |
| 文化教育学部 | 平成 18 年度 | 122 | 85 | 6 | 61 |
| | 平成 19 年度 | 57 | 50 | 2 | 169 |
| 全学 | 平成 18 年度 | 551 | 351 | 27 | 513 |
| | 平成 19 年度 | 486 | 370 | 19 | 622 |

図5: 主題科目における希望通りの選択

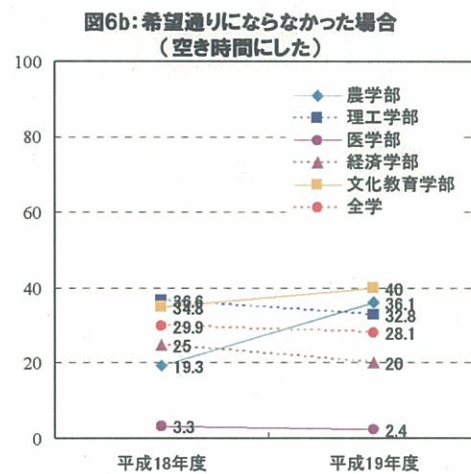
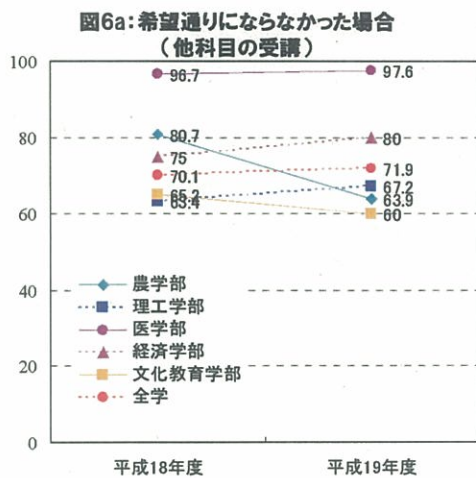


注) 数値は回答者数を基数とするパーセント値。

いずれの学部も、希望通りに選択できた者の方が多くなってはいるが、平成19年度は平成18年度にくらべ、その割合が低くなっている。

6. 主題科目の選択が希望通りに行かなかった場合の対応は、どうしましたか。【問 14】

| 学部 | 年度 | 他科目 の受講 | 空時間 にした | その他 | N | 未回収 |
|--------|--------|------------|------------|-----|-----|-----|
| 農学部 | 平成18年度 | 46 | 11 | 8 | 10 | 83 |
| | 平成19年度 | 62 | 35 | 2 | 24 | 49 |
| 理工学部 | 平成18年度 | 192 | 111 | 23 | 33 | 174 |
| | 平成19年度 | 199 | 97 | 10 | 47 | 218 |
| 医学部 | 平成18年度 | 58 | 2 | 5 | 44 | 35 |
| | 平成19年度 | 80 | 2 | 5 | 26 | 61 |
| 経済学部 | 平成18年度 | 96 | 32 | 9 | 9 | 160 |
| | 平成19年度 | 104 | 26 | 3 | 8 | 161 |
| 文化教育学部 | 平成18年度 | 105 | 56 | 22 | 24 | 61 |
| | 平成19年度 | 51 | 34 | 8 | 11 | 174 |
| 全学 | 平成18年度 | 497 | 212 | 67 | 120 | 513 |
| | 平成19年度 | 496 | 194 | 28 | 116 | 663 |



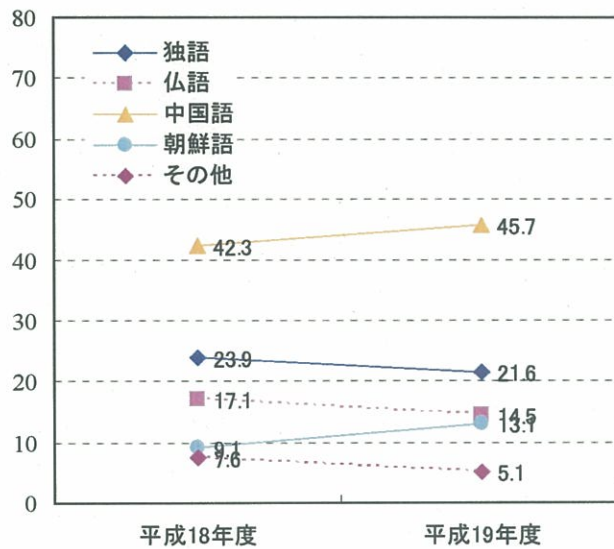
注) 数値は回答者数を基数とするパーセント値。

文化教育学部と農学部の学生については、希望通りにならなければ空き時間にするケースの割合が、平成18年度にくらべ、平成19年度は大きくなっている。ただし、希望する科目が選択できなかった場合、大部分の学生は他の科目を受講し、空き時間にするケースは僅少である。

7. 最も望む外国語科目（英語以外）は何ですか。【問 15】

| 学部 | 年度 | 独語 | 仏語 | 中国語 | 朝鮮語 | その他 | N | 未回収 |
|--------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 農学部 | 平成 18 年度 | 12 | 11 | 39 | 4 | 3 | 9 | 83 |
| | 平成 19 年度 | 21 | 8 | 64 | 15 | 4 | 16 | 44 |
| 理工学部 | 平成 18 年度 | 73 | 52 | 110 | 26 | 18 | 86 | 174 |
| | 平成 19 年度 | 80 | 41 | 105 | 43 | 15 | 81 | 206 |
| 医学部 | 平成 18 年度 | 42 | 16 | 36 | 5 | 4 | 17 | 35 |
| | 平成 19 年度 | 26 | 20 | 46 | 4 | 1 | 29 | 48 |
| 経済学部 | 平成 18 年度 | 20 | 18 | 70 | 15 | 10 | 15 | 160 |
| | 平成 19 年度 | 12 | 18 | 72 | 18 | 7 | 18 | 157 |
| 文化教育学部 | 平成 18 年度 | 29 | 29 | 57 | 17 | 21 | 61 | 61 |
| | 平成 19 年度 | 13 | 15 | 34 | 12 | 9 | 24 | 171 |
| 全学 | 平成 18 年度 | 176 | 126 | 312 | 67 | 56 | 188 | 513 |
| | 平成 19 年度 | 152 | 102 | 321 | 92 | 36 | 168 | 626 |

図7:最も望む外国語(英語以外)の推移



注) 数値は回答者数を基数とするパーセント値。

初修外国語は、平成 18 年度と同様、中国語の希望が一番多くなっている。また、中国語と朝鮮語のアジア系言語を最も望むとする回答の割合が、若干ではあるが、大きくなっていることがわかる。

8. リメディアル教育を最も望む科目【問 17】

| 学部 | 年度 | 国語 | 数学 | 英語 | 理科 | その他 | N | 未回収 |
|--------|----------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 農学部 | 平成 18 年度 | 10 | 9 | 34 | 14 | 0 | 9 | 83 |
| | 平成 19 年度 | 10 | 14 | 32 | 35 | 0 | 37 | 44 |
| 理工学部 | 平成 18 年度 | 22 | 74 | 115 | 52 | 5 | 92 | 174 |
| | 平成 19 年度 | 19 | 77 | 95 | 43 | 2 | 118 | 217 |
| 医学部 | 平成 18 年度 | 1 | 7 | 19 | 15 | 0 | 77 | 35 |
| | 平成 19 年度 | 4 | 5 | 18 | 13 | 2 | 83 | 49 |
| 経済学部 | 平成 18 年度 | 9 | 32 | 61 | 2 | 4 | 39 | 160 |
| | 平成 19 年度 | 16 | 17 | 51 | 4 | 4 | 53 | 157 |
| 文化教育学部 | 平成 18 年度 | 27 | 20 | 75 | 16 | 6 | 67 | 61 |
| | 平成 19 年度 | 15 | 12 | 37 | 8 | 5 | 31 | 170 |
| 全学 | 平成 18 年度 | 69 | 142 | 304 | 99 | 15 | 284 | 513 |
| | 平成 19 年度 | 64 | 125 | 233 | 103 | 13 | 322 | 637 |

図8:リメディアル教育を最も望む
科目の推移



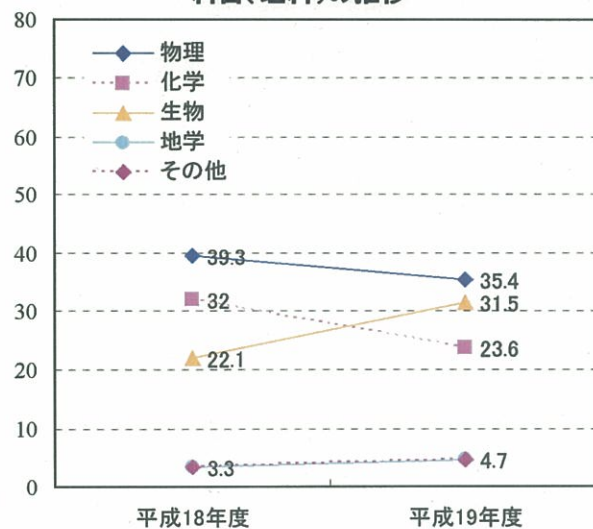
注) 数値は回答者数を基数とするパーセント値。

リメディアル教育を最も望まれている科目は、平成18年度と同様、英語が顕著であるが、理科に関するリメディアル教育を最も望むとする回答の割合が平成19年度は大きくなっている。

9. リメディアル教育を最も望む理科の科目【問 18】

| 学部 | 年度 | 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | その他 | N | 未回収 |
|--------|--------|----|----|----|----|-----|-----|------|
| 農学部 | 平成18年度 | 2 | 8 | 3 | 0 | 0 | 2 | 83 |
| | 平成19年度 | 11 | 10 | 16 | 0 | 1 | 14 | 120 |
| 理工学部 | 平成18年度 | 33 | 21 | 9 | 2 | 1 | 32 | 174 |
| | 平成19年度 | 26 | 13 | 10 | 6 | 2 | 51 | 463 |
| 医学部 | 平成18年度 | 3 | 2 | 12 | 2 | 0 | 47 | 35 |
| | 平成19年度 | 4 | 2 | 8 | 0 | 2 | 35 | 123 |
| 経済学部 | 平成18年度 | 1 | 3 | 2 | 0 | 0 | 17 | 160 |
| | 平成19年度 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 22 | 274 |
| 文化教育学部 | 平成18年度 | 9 | 5 | 1 | 0 | 3 | 24 | 61 |
| | 平成19年度 | 2 | 3 | 4 | 0 | 1 | 11 | 257 |
| 全学 | 平成18年度 | 48 | 39 | 27 | 4 | 4 | 122 | 513 |
| | 平成19年度 | 45 | 30 | 40 | 6 | 6 | 133 | 1237 |

図9:リメディアル教育を最も望む科目(理科)の推移



注) 数値は回答者数を基数とするパーセント値。

リメディアル教育を最も望まれている理科の科目は、平成18年度も平成19年度も物理であるが、物理や化学とする回答の割合は平成19年度には小さくなっている。生物のリメディアル教育を最も望むとする回答の増加が目立っている。

国立大学法人佐賀大学 共通アンケート用紙 (学部学生対象)

アンケート実施日 20__年__月__日

このアンケートは本学の修学状況・教育環境の問題点を明らかにし、教育改善に資することを目的に実施するもので、回収した調査票はすべて統計的に処理し、成績評価に使われることは一切ありませんので、ご協力をお願い致します。

下の空欄にあなたの所属をご記入ください。

| 学部 | 学科・課程 | 選修・コース | 学籍番号の最初の5桁 (例: 04123) | | | | |
|----|-------|--------|--------------------------|--|--|--|--|
| | | | 0 | | | | |

↑平成16年度以降入学者のみ

※以下の質問について、特に断りのない場合、該当する番号または記号を1つ選んで○印をつけてください。

1. 以下の内容を、知っていますか。

| | ←知っている | | | | | 知らない→ | 分からない・該当しない |
|---------------------|--------|---|---|---|---|-------|-------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 「学生便覧」等に記されている本学の目的 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| 所属する学部、課程・学科の教育目標 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| 履修した授業科目の成績評価の基準 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| 所属する学部での卒業認定の基準 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| オフィスアワーの制度 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| 施設・設備の利用の手引きや案内 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |

2. 入学時・進学時のガイダンスによって、以下のことが理解できましたか。

| | ←理解できた | | | | | 理解できなかった→ | 分からない・該当しない |
|-----------------|--------|---|---|---|---|-----------|-------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 本学で何を学修するか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| 授業科目をどう履修したらよいか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |

3. 教育施設、設備、機器等は十分だと思いますか。

| | ←そう思う | | | | | そう思わない→ | 分からない・該当しない |
|-----------------------|-------|---|---|---|---|---------|-------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 講義室のプロジェクター、OHP等 (教養) | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| 講義室のプロジェクター、OHP等 (学部) | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| 外国語教育のLL教室等の施設 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |
| スポーツ関連施設・設備 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N | |

| | | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|---|---|
| 実験室・実験器具等 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 演習室 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

4. 以下のことについて、満足していますか。

| | ←満足している | | | | | 不満である→ | | | | | 分からない・該当しない |
|-----------------------|---------|---|---|---|---|--------|---|---|---|---|-------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 学期毎の履修単位数の制限 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 学修相談の体制 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| パソコンの数量（総合情報基盤センター） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| パソコンの数量（学部・学科等） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| パソコンの数量（図書館） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| パソコンの数量（研究室） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 自習スペース（学部・学科） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 自習スペース（図書館） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 図書、学術雑誌、視聴覚資料 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 事務職員の対応（学生センター：学生生活課） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 事務職員の対応（学生センター：教務課） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 事務職員の対応（学生センター：就職課） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 事務職員の対応（保健管理センター） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 事務職員の対応（図書館） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 事務職員の対応（医学部：学生サービス課） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |

5. 以下の授業について、満足していますか。

| | ←満足している | | | | | 不満である→ | | | | | 分からない・該当しない |
|--------------------|---------|---|---|---|---|--------|---|---|---|---|-------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 英語 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 英語以外の外国語科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 健康・スポーツ科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 情報処理科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 大学入門科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 主題科目（第1分野：文化と芸術） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 主題科目（第2分野：思想と歴史） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 主題科目（第3分野：現代社会と構造） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 主題科目（第4分野：人間環境と健康） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 主題科目（第5分野：数理と自然） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 主題科目（第6分野：科学技術と生産） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 主題科目（共通分野：地域と文明） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |
| 留学生対象の授業科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | N |

| | | | | | | |
|----------|---|---|---|---|---|---|
| 専門基礎科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 専門必修科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 専門選択科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 教職に関する科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

6. どの程度の頻度でオフィスアワー（教員が学生の相談を受けるために設けている時間）を利用していますか

| | | | | | | |
|-------------|----|-----|-----|---|---|-------------|
| 1学期当たりの利用回数 | 8～ | 4～7 | 2～3 | 1 | 0 | 分からない・該当しない |
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

7. 【6でオフィスアワーを利用したことがある方にお尋ねします。】

オフィスアワーを利用した目的で最も多かったのはどれですか

| | | | | |
|----------|----------|----------|-----|-------------|
| 学修 相談 | 生活 相談 | 進路 指導 | その他 | 分からない・該当しない |
| 4 | 3 | 2 | 1 | N |

8. 教員との相談は、どの方法が最も適していると思いますか

| | | | | |
|-----------|----------|----------------|-----|-------------|
| 電子メ ール | 面談 随時 | 面談 時間指 定 | その他 | 分からない・該当しない |
| 4 | 3 | 2 | 1 | N |

9. シラバスは科目選択の参考になりましたか

| | | | | | |
|-------|---|---------|---|---|-------------|
| ←そう思う | | そう思わない→ | | | 分からない・該当しない |
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

10. シラバスはどのような情報を得るために利用しましたか。最も多いものを選んでください。

| | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----|-------------|
| 授業の 方法 | 授業の 内容 | 試験の 情報 | その他 | 分からない・該当しない |
| 4 | 3 | 2 | 1 | N |

11. 授業内容は、シラバスに記載された学習目標に即していましたか

| | | | | | | |
|-----------|-------|---|---------|---|---|-------------|
| | ←そう思う | | そう思わない→ | | | 分からない・該当しない |
| 外国語科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 健康・スポーツ科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 情報処理科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 主題科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 専門必修科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 専門選択科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 教職に関する科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

12. 以下の教養教育科目の開講数は適切だと思いますか？

| | ←多い 適切 少ない→ | | | | | 分からない・該当しない |
|-----------|-------------|---|---|---|---|-------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 外国語科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 健康・スポーツ科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 情報処理科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |
| 主題科目 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

13. 教養教育科目の内、主題科目の選択は希望通りにいきましたか

| はい | いいえ | 分からない・該当しない |
|----|-----|-------------|
| 2 | 1 | N |

14. 主題科目の選択が希望通りに行かなかった場合の対応は、どうしましたか。最も多いものを選んでください。

| 他科目を受講 | 空時間にした | その他 | 分からない・該当しない |
|--------|--------|-----|-------------|
| 3 | 2 | 1 | N |

15. 最も望む外国語科目（英語以外）は何ですか。

| 独語 | 仏語 | 中国語 | 朝鮮語 | その他 | 分からない・該当しない |
|----|----|-----|-----|-----|-------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

16. 【14でその他と答えた方にお尋ねします。】具体的な外国語名をお答え下さい。

基礎学力が不足している学生を対象とする補習教育（リメディアル教育）についてお聞きします。

17. リメディアル教育を最も望む科目（受講しても単位は認定されないと仮定して下さい。）

| 国語 | 数学 | 英語 | 理科 | その他 | 分からない・該当しない |
|----|----|----|----|-----|-------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

18. 【16で理科と答えた方にお尋ねします。】リメディアル教育を最も望む理科の科目

| 物理 | 化学 | 生物 | 地学 | その他 | 分からない・該当しない |
|----|----|----|----|-----|-------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | N |

19. 【16でその他と答えた方にお尋ねします。】具体的な科目名をお答え下さい。

ご協力ありがとうございました。